ノートブック
コンピューター

オンラインマニュアル

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

このオンラインマニュアルには、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**このオンラインマニュアルをよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。

S400

PCG-C2GPS

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

6〜13ページの注意事項をよくお読みください。
製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店にご連絡ください。

万一異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **製品を落としたり、キャビネットを破損したとき**

→

❶ 電源を切る

❷ 電源コードや接続ケーブルを抜くまたはバッテリを取りはずす

❸ VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に連絡する

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

注意

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

水ぬれ禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

強制

プラグをコンセントから抜く

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、それぞれ社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準（PC-11-1988）に適合しております。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。
（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）
* 充電されたバッテリ使用時には、無停電電源装置等は不要です。

- □ 権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
- □ 本機、および本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
- □ 本機の保証条件は、同梱の当社所定の保証書の規定をご参照ください。
- □ 本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。
- □ 必ず事前に試し撮りをし、正常に録画・録音されていることを確認してください。
- □ 万一、機器やソフトウェアなどの不具合により録画・録音がされなかった場合、記録内容の補償についてはご容赦ください。
- □ 本機、および本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご容赦ください。

目次

操作編

基本的な使いかた

VAIOを使いこなす

拡張編

周辺機器を接続する

本体を拡張する

セットアップ編

本機の使用環境を設定する

バッテリの消費電力を節約する

バッテリの残量を確認する

画面表示の設定を変更する

ポインティング・デバイスの設定を変更する

その他

下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 本機と机や壁などの間にはさみこんだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に交換をご依頼ください。

油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境でのご使用は、火災や感電の原因となります。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続ケーブルを抜いて、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店にご相談ください。

内部を開けない

本体および付属の機器（ケーブルを含む）は、開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となります。内部の点検、修理はVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店にご依頼ください。

下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。

指定のACアダプタ以外は使用しない

火災や感電の原因となります。

雷が鳴りだしたら、テレホンコードや電源プラグに触れない

感電の原因となります。

ひざの上で長時間使用しない

長時間使用すると本体の底面が熱くなり、低温やけどの原因となります。

本機は日本国内専用です

本機に内蔵されているモデムは国内専用です。海外などでモデムを使用すると、故障・火災・感電の原因となります。

モデムは一般電話回線以外に接続しない

本機の内蔵モデムをISDN（デジタル）対応公衆電話のデジタル側のジャックや、構内交換機（PBX）へ接続すると、モデムに必要以上の電流が流れ、故障・発熱・火災の原因となります。
特に、ホームテレホン・ビジネスホン用の回線などには、絶対に接続しないでください。

運転者は走行中に操作しない

本機および本機に付属のハンディGPSレシーバーを車両走行中には絶対に使用しないでください。わき見運転により事故の原因となります。
また、歩きながらお使いになるときは、周囲の状況に気を配り、安全にお使いください。

パソコンを以下の場所に設置しない

車の中では、以下の場所にパソコンを設置しないでください。

- 運転の妨げになるところ
- 同乗者に危険があると思われるところ
- 不安定なところ
- 灰皿の上
- 熱くなるところ
- 直射日光のあたるところ
- 前方の視界を妨げるところ
- パソコンの画面がフロントガラスに映り込むようなところ（夜間）

前方の視界の妨げになると、事故やけがの原因となります。

次のページにつづく

下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。

自動車の中で使うときは高温になる車内に放置しない

火災や本機の故障の原因となります。

アンテナやケーブルは運転を妨げない場所に置く

アンテナやケーブルの引き回しによっては、運転の妨げになり、事故の原因となります。また、車を乗り降りするときは、ケーブルに引っかからないようにご注意ください。

ハンディGPSレシーバーは車の外側に取り付けない

事故の原因となります。

ストラップを使用して、首にかけたまま固定せずにハンディGPSレシーバーを持ち運ばない

ドアに挟まったり、人にぶつかったりして、けがや事故の原因となります。

⚠警告　下記の注意事項を守らないと、健康を害するおそれがあります。

ディスプレイ画面を長時間続けて見ない

ディスプレイなどの画面を長時間見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

キーボードを使いすぎない

キーボードやポインティング・デバイス、ジョグダイヤルなどを長時間使い続けると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。
キーボードやポインティング・デバイス、ジョグダイヤルを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みが取れないときは医師の診察を受けてください。

⚠注意　下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品**に**損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。

接続するときは電源を切る

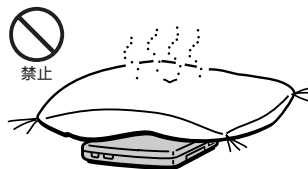
ACアダプタや接続ケーブルを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。感電や故障の原因となることがあります。

指定された電源コードや接続ケーブルを使う

取扱説明書に記されている電源コードや接続ケーブルを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。

通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しをよくするために次の項目をお守りください。

- 毛足の長い敷物（じゅうたんや毛布など）の上に放置しない。
- 布などでくるまない。

通電中の本体やACアダプタに長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

本体やACアダプタを布や布団などでおおった状態で使用しない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。

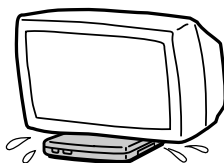
禁止

⚠注意 下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置かないでください。また、横にしたり、ひっくり返して置いたりしないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

本機の上に重いものを載せない

壊れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

お手入れの際は、電源を切って電源プラグを抜く

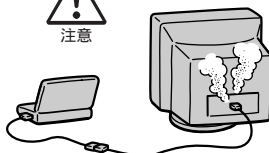
電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

移動させるときは、電源コードや接続ケーブルを抜く

接続したまま移動させると、ケーブルが傷つき、火災や感電の原因となったり、接続している機器が落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
また、本機を落とさないようにご注意ください。

コネクタはきちんと接続する

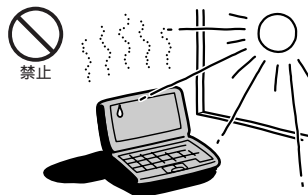
- コネクタの内部に金属片を入れないでください、ピンとピンがショート（短絡）して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むと、ピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。

次のページにつづく

⚠注意　下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

長時間使用しないときは電源プラグを抜く

長時間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。

直射日光のあたる場所や熱器具の近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となることがあります。

液晶画面に衝撃を与えない

液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。

ディスプレイパネルの裏側を強く押さない

液晶画面が割れて、故障やけがの原因になることがあります。

本体に強い衝撃を与えない

故障の原因となることがあります。

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

次のページにつづく

⚠注意 **下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。**

船舶、航空機の主航法装置としてや、登山などでの主地図としては使用しない

本機では、測定誤差が生じたり、パソコンの電池が切れると地図が見られなくなり、事故やけがの原因となることがあります。

フロントライトユニットのコネクタ部に触れない

故障やけがの原因となることがあります。

電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

- 指定された充電方法以外で充電しない。
- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解しない。電子レンジやオーブンで加熱しない。コインやヘヤーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管するとショートすることがあります。
- 火のそばや炎天下などで充電したり、放置しない。
- バッテリパックに衝撃を与えない。
  落とすなどして強いショックを与えたり、重いものを載せたり、圧力をかけないでください。故障の原因となります。
- バッテリパックから漏れた液が目に入った場合は、きれいな水で洗った後、ただちに医師に相談してください。
- 本体付属または別売りのバッテリパック以外は使用しないでください。

⚠警告

バッテリパックを廃棄する場合は、以下のご注意をお守りください。
- 地方自治体の条例などに従う。
- 一般ゴミに混ぜて捨てない。

または、ソニーサービスステーションにお持ちください。

本機の発熱についてのご注意

使用中に本体の底面やACアダプタが熱くなることがあります

CPUの動作や充電時の電流によって発熱していますが、故障ではありません。使用している拡張機器やソフトウェアによって発熱量は異なります。

本体やACアダプタが普段よりも異常に熱くなったときは

本機の電源を切り、ACアダプタの電源コードをコンセントから抜き、バッテリパックを取りはずしてください。次に、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または購入された販売店に連絡してください。

こんなことができます

VAIOノートが広げるモバイルワールド

本機はモバイル機器として十分な可搬性と、実際のモバイル環境での使いやすさを追求して設計された、ソニーならではのノートブックコンピュータです。ここでは、本機の特長と、本機を使ってできることの例をあげてみましょう。

軽量コンパクト設計の本機を持ち運ぶ

約960g（バッテリ含む）の軽量ボディーに、モバイル環境で便利な機能を満載しています。お気軽にどこへでも持ち運べます。
大容量タイプバッテリ（別売り）を装着することで、外出先での使用時間も、最大で約11時間確保できます。さらに、薄型の反射型液晶ディスプレイを使用し、屋外の明るい場所でも使用できます。

ハンディGPSレシーバーを使う

付属のハンディGPSレシーバーを使って、旅行先で立ち寄った観光名所やハイキングで通った山道を記録することができます。付属の「Navin' You」ソフトウェアを使って、記録したお店の場所などが確認できます。
また、付属の「CyberGyro」ソフトウェアを使って、あらかじめ設定した目的物の方角や、その目的物までの距離を表示することができます。

ジョグダイヤルで簡単な操作を実現する

本機右側にあるジョグダイヤルで、ソフトウェアの起動や省電力動作モードへの移行、音量調節などの操作を簡単に行うことができます。また本機の電源が切れているときにジョグダイヤルを押すだけで、自動的に電子メールを受信するよう設定することなどもできます。とっさのときに便利な機能を割り当てておくと便利です。

情報を気軽に入力する

付属の「Smart Write」ソフトウェアを使うと、すばやく画像と声のメモを取ることもできます。キーボードを打てない状態のときでも、大事な情報はのがしません。また画像、文字、音声のメモをHTMLで出力し、自分のホームページに簡単に載せられます。

次のページにつづく

VAIO間でファイルを共有する

Smart Connectに対応したVAIOと本機を別売りのi.LINKケーブルで接続し、お互いのファイルをコピーしたり、削除、編集などを行うことができます。また、接続先のVAIOにつないだプリンタを使って印刷することもできます。

i.LINKを使って動画や静止画を取り込む

本機のi.LINKコネクタにつないだ、i.LINK（IEEE1394）インタフェイスを持つデジタルビデオカメラレコーダーなどから、デジタル信号のままで美しい動画や静止画を取り込めます。

i.LINKとは？

i.LINKは、i.LINKコネクタを持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインタフェイスです。i.LINKについて詳しくは、108ページをご覧ください。

タイマ機能を活用する

内蔵タイマを使って、好きな時刻に好みのソフトウェアを起動できます。深夜に自動的に電子メールを取り込むよう設定したり、「目覚ましメロディを再生して、その日のスケジュールを表示する」といった自動処理マクロを毎朝実行するよう登録したりできます。
いろいろな組み合わせを試して、自分ならではの活用法を見つけてみましょう。

AV再生を楽しむ

付属の「Media Bar」ソフトウェアを使って、WAVEファイルやMIDIファイルといった、サウンドファイルを再生できます。
また、別売りのCD-ROMドライブをつなぐと、ビデオCDも再生できます。

インターネットを楽しむ

通信用のモデムを内蔵しているため、インターネットに接続して世界中の情報に接したり、電子メールをやりとりできます 。

ノートブックコンピュータとしての特長

本機は軽量で、バッテリで使用できるノートブックコンピュータです。
この特長を生かして、本機を使いこなしてください。

外出先でデータ収集

携帯電話やPHSとつないで、外出先でもインターネットに接続して情報収集したり、電子メールで情報交換できます。

旅行やハイキングのおともに

旅行先で見つけたおいしいお店の場所やハイキングで通った山道を記録することができます。ハンディGPSレシーバーを本機とつなぐと、記録したものを画面上で確認したり、あらたに目的物を設定して、そこまでの距離やその目的物の方角を表示させることができます。

使用環境に合わせたバッテリ管理

付属の「PowerPanel」ソフトウェアを使えば、処理速度やバッテリの
寿命を優先したりなどといった動作環境を簡単に設定できます。また、
付属の「BatteryScope」ソフトウェアを同時に使うことで、バッテリの使用可能時間なども同時に把握できます。これで「外出先での突然のバッテリ切れ」といった心配もありません。

マニュアルの使いかた

本書は、以下の4章で構成されています。

❑ 操作編

パソコンを初めてお使いになる方は、「基本的な使いかた」（25ページ）からお読みください。一歩進んだ使いかたは「VAIOを使いこなす」（61ページ）をご覧ください。

❑ 拡張編

プリンタなどの周辺機器のつなぎかたや、PCカードの使いかたなどについて説明しています。

❑ セットアップ編

本機をお使いになる状況や好みに合わせて、本機の設定を変更できます。ここでは、付属のソフトウェアを使った設定のしかたを説明しています。

❑ その他

本機をご使用になる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。本機がうまく動作しないときは、「故障かな？と思ったら」（182ページ）をお読みください。

本機でできることの一部をご紹介します。それぞれ詳しくは右側の参照先の説明をご覧ください。
また、本機にどんなソフトウェアが付属されているかは、別冊の「付属ソフトウェア一覧」をご覧ください。

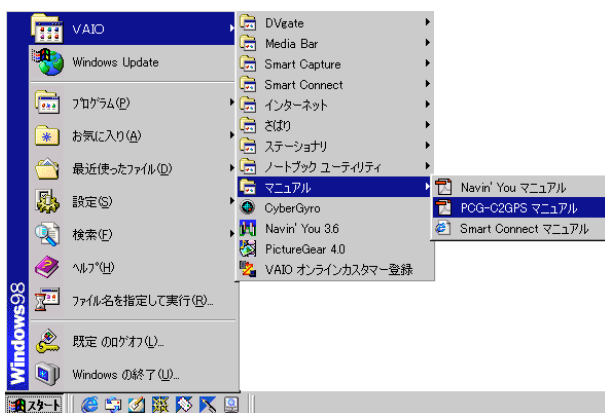
こんなことがしたい	**詳しくは**
ハンディGPSレシーバーを使いたい	「ハンディGPSレシーバーを使う」（61ページ）
ジョグダイヤルを使いたい	「ジョグダイヤルを使う」（32ページ） 「ジョグダイヤルでできる操作を登録する」（69ページ） 「好みのソフトウェアを自動的に起動する（PPK機能）」（73ページ）
インターネットを楽しみたい	「インターネットを楽しむ」（82ページ）
手軽にメモをとりたい	「情報をメモして活用する」（86ページ）
i.LINK対応機器を使いたい	「i.LINK対応機器をつなぐ」（107ページ）
他のパソコンのデータを本機で使いたい	「他の機器とデータをやりとりする」（94ページ）

オンラインマニュアルの使いかた

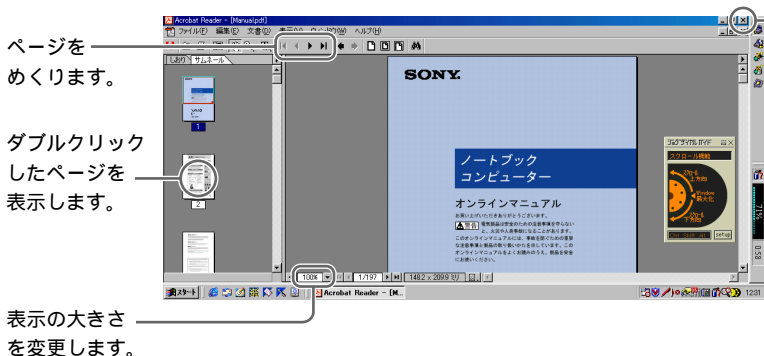
この取扱説明書の内容は、オンラインマニュアルとして画面上でお読みいただけます。取扱説明書を持ち歩かなくても、外出先で本書の内容を参照できます。
また、本機のセットアップのしかたについては、オンラインマニュアルのみに記載されています。

オンラインマニュアルを見るには

オンラインマニュアルを見るには、本機の電源が入っている状態で、次のように操作します。

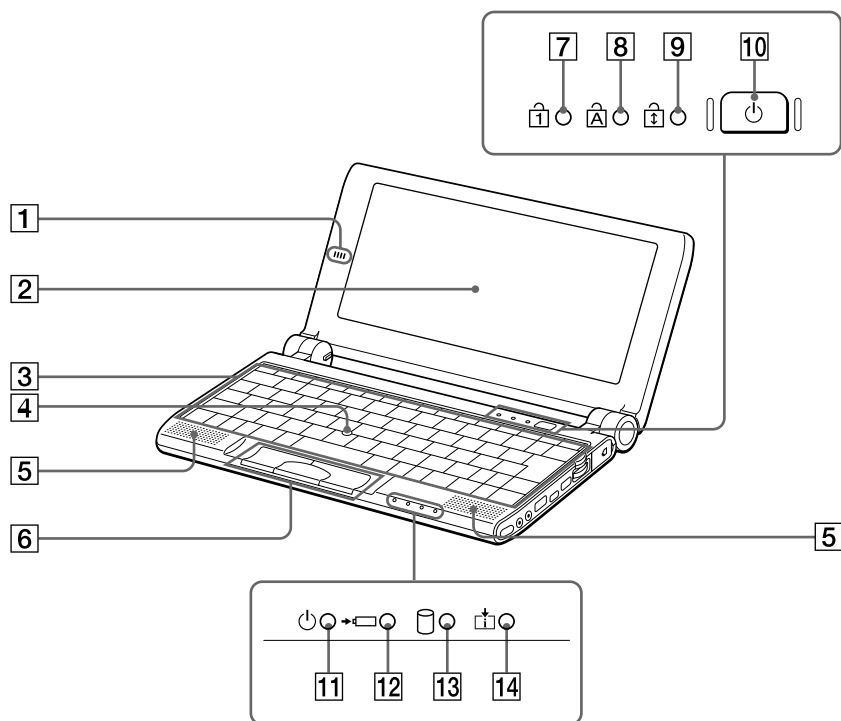
1 **［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［マニュアル］を選び、［PCG-C2GPS マニュアル］をクリックする。**

オンラインマニュアルの表紙が表示されます。

オンラインマニュアルの見かた

基本的なオンラインマニュアルの見かたを説明します。
サムネール（縮小表示）やしおりを見たいときは、 をクリックし、それぞれのタブをクリックします。

各ソフトウェアのヘルプを見るには

本機に付属しているソニー製のソフトウェアにはヘルプが添付されています。それぞれのヘルプの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

各部のなまえ

詳しい説明は、（　）内のページをご覧ください。

1 **内蔵マイク**
（88、92ページ）

2 **液晶ディスプレイ**
（142、160、164ページ）

3 **キーボード**（40、179ページ）

4 **スティック**（29、155ページ）

5 **内蔵スピーカー**（180ページ）

6 **左／センター／右ボタン**
（29ページ）

7 （Num Lock）**ランプ**
（186ページ）

8 （Caps Lock）**ランプ**

9 （Scroll Lock）**ランプ**

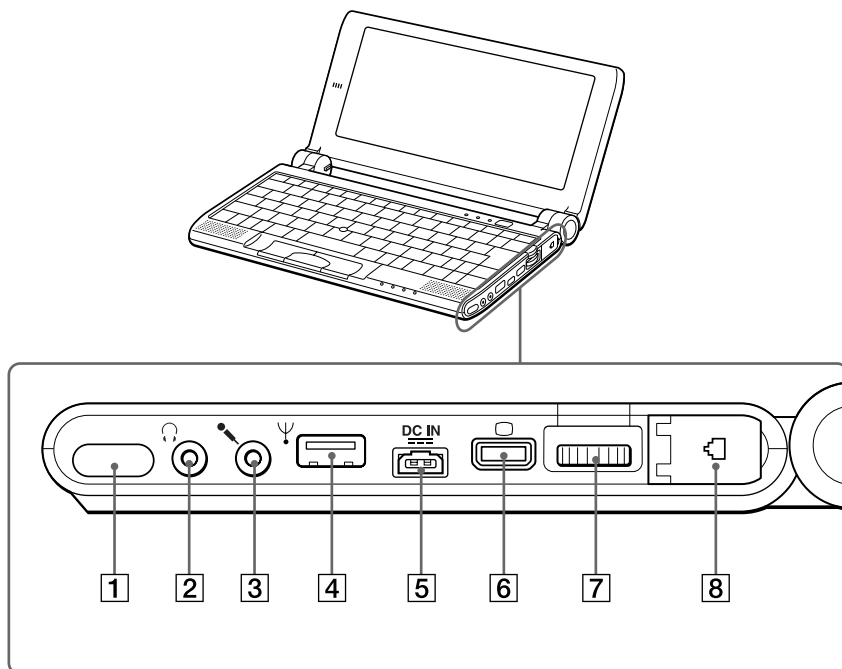
10 **（パワー）ボタン**（26ページ）

11 **（パワー）ランプ**（26ページ）

12 **（バッテリ）ランプ**
（55ページ）

13 **（ハードディスク）ランプ**

14 **（インフォメーション）ランプ**
（78ページ）

本機右側面

1 **赤外線通信ポート**
（94、114ページ）

2 （ヘッドホン）**コネクタ**
（120ページ）

3 （マイク）**コネクタ**

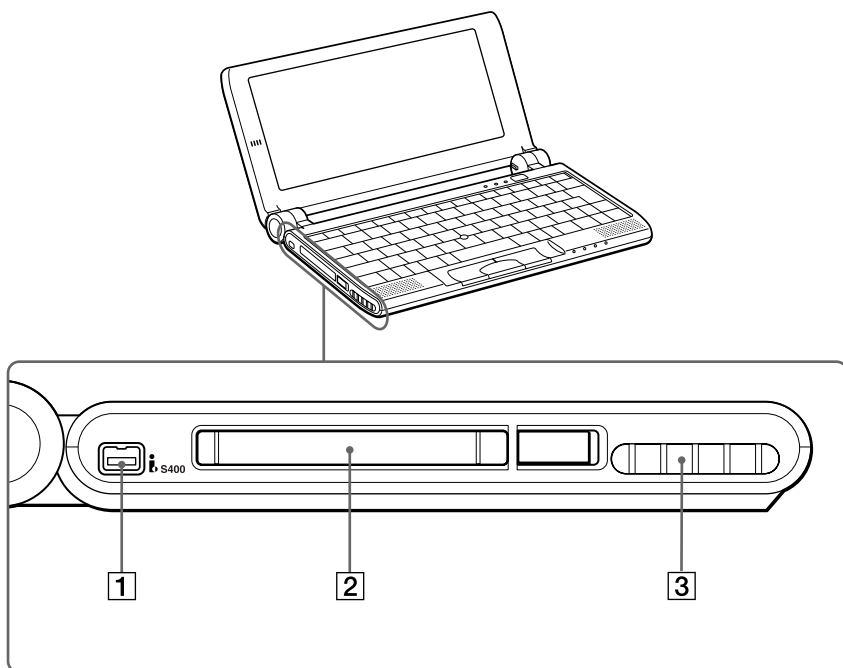
4 （USB）**コネクタ**
（50、66、116ページ）

5 （DC IN）**コネクタ**
（25ページ）

6 （外部ディスプレイ）
コネクタ（118ページ）

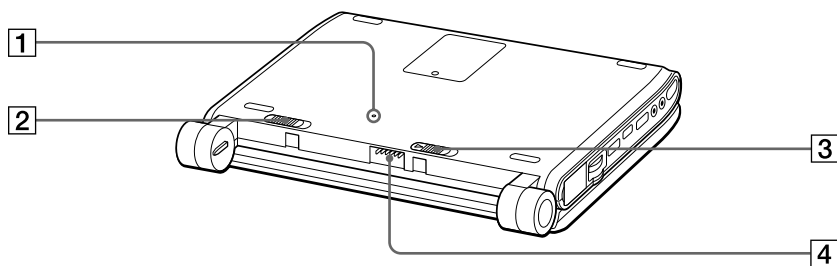
7 **ジョグダイヤル**
（32、69、73、80ページ）

8 **モジュラジャック**
（104ページ）

本機左側面

1 i S400（i.LINK）コネクタ（97、107ページ）

2 PCカードスロット（113、122ページ）

3 通風孔

本機底面

1 リセットスイッチ（182ページ）

2 取りはずしレバー（57ページ）

3 ロックレバー（57ページ）

4 バッテリコネクタ（56ページ）

第1章

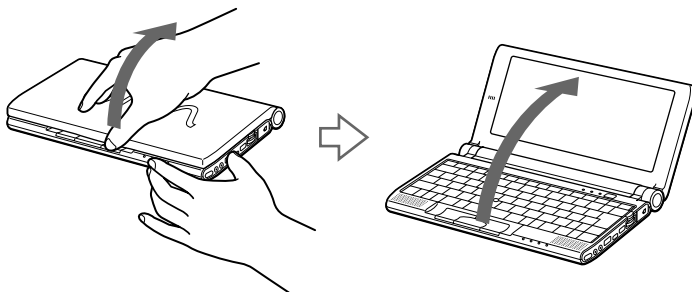
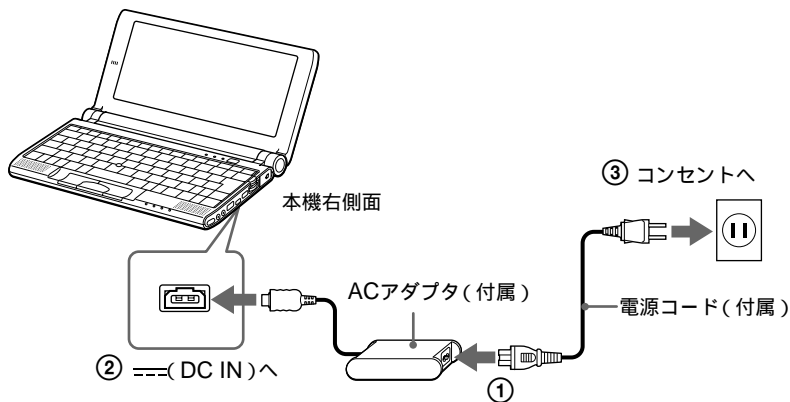
操作編

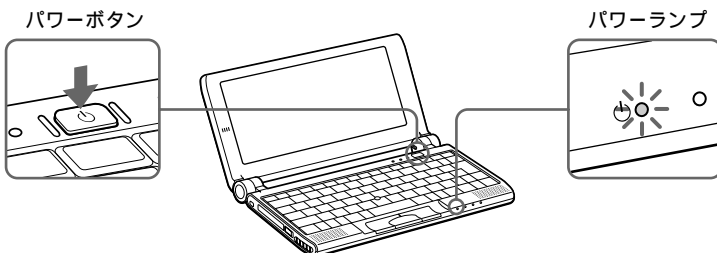
この章では、最初に本機の基本的な使いかたを、
次にいろいろな目的にあった本機の使いかたを
説明します。

電源を入れる

ここではAC電源につないだときの電源の入れかたについて説明します。
バッテリを使うときは、「バッテリで使う」（55ページ）をご覧ください。

1 ディスプレイパネルを開く。

本機下部をしっかりと押さえて開いてください。

2 AC電源をつなぐ。

3 **パワーボタンを押し、パワーランプが点灯（グリーン）したら離す。**

本機の電源が入り、しばらくしてWindows 98が起動します。
初めて電源を入れたときは、Windows 98セットアップ画面が表示されます。Windows 98セットアップ画面については、別冊の「はじめにお読みください」をご覧ください。

ご注意

4秒以上パワーボタンを押し続けると、電源は切れてしまいます。

電源を切るには

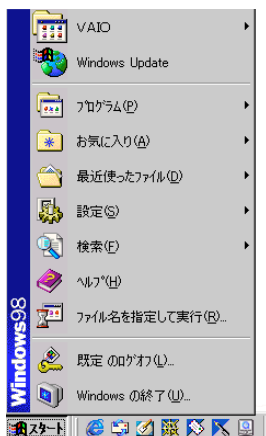
本機の電源を切るときは、次の手順で操作してください。

ご注意

以下の手順通りに電源を切らないと故障の原因になったり、作成した文書などのファイルが使えなくなったりすることがあります。

1 **［スタート］ボタンをクリックする。**

「スタート」メニューが表示されます。

次のページにつづく

2 メニューの［Windowsの終了］をクリックする。

「Windowsの終了」が表示されます。

3 「電源を切れる状態にする」をクリックして選び、つぎに［OK］をクリックする。

「Windowsを終了しています」と数秒表示されてから、本機の電源が自動的に切れ、パワーランプ（グリーン）が消灯します。

ディスプレイパネルを閉じるには

ディスプレイパネル両側のツメを、カチッと音がするまで確実にはめてください。

「スタート」メニューから［Windowsの終了］を選んでも電源が切れないときは

以下の作業を行ってから、再度操作してください。

- 使用中のソフトウェアをすべて終了する。
- PCカードをお使いの場合は、「PCカードを取り出す」（123ページ）の手順に従ってPCカードを取り出す。
- USB機器を接続しているときは取りはずす。
- 赤外線通信を終了する、または使用不可にする。

それでも電源が切れないときは、「故障かな？と思ったら」の「電源が切れない」（183ページ）をご覧ください。

移動するときなどしばらく作業を中断するときや、翌日まで本機を使わないときなどは、システム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードを使うと便利です。

詳しくは「バッテリの消費電力を節約する」（133ページ）、「省電力動作モードについて」（137ページ）をご覧ください。

再起動するには

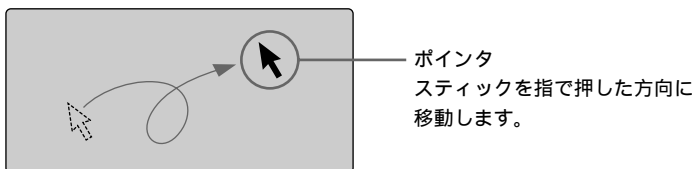
本機の設定を変更したり、ソフトウェアをインストールしたときなどは、本機を再起動する必要があります。

1 **［スタート］ボタンをクリックする。**
「スタート」メニューが表示されます。

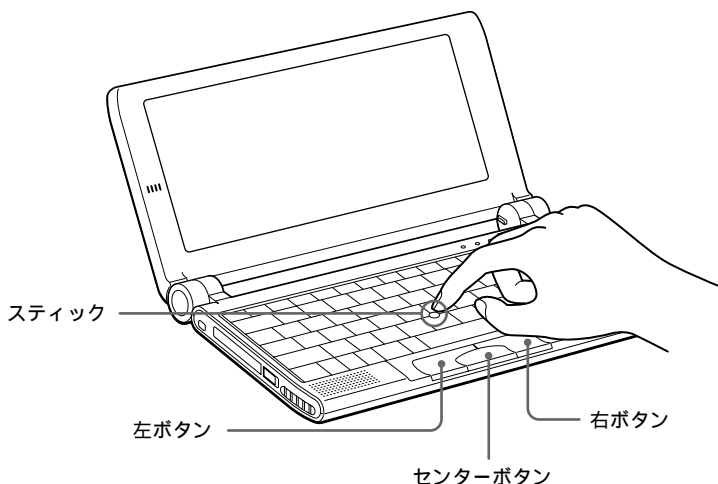
2 **メニューの［Windowsの終了］をクリックする。**
「Windowsの終了」が表示されます。

3 **「再起動する」をクリックして選び、つぎに［OK］をクリックする。**
「Windowsを終了しています」と数秒間表示されてから、本機が再起動します。

ポインティング・デバイスを使う

スティックを指で軽く押すと、画面上のポインタは押した方向に移動します。スティックを押す力（圧力）によって動く速度を調整できます。
スティックを強く押すとポインタは速く動きます。

ご注意

ポインタが自然に動くことがまれにありますが、故障ではありません。
しばらくポインティング・デバイスから指を離していればポインタは止まります。

ポインタを目的の位置まで動かして左ボタンまたは右ボタンを押すだけで、メニューを選んだり、さまざまな命令をコンピュータに伝えることができます。

スティックの設定を変更することができます。詳しくは、「ポインティング・デバイスの設定を変更する」（155ページ）をご覧ください。

クリックする

ポインタを希望の位置に合わせて、キーボードの手前にある左ボタンを1回押します。
［OK］や［キャンセル］などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。

ダブルクリックする

ポインタを希望の位置に合わせて、左ボタンを2回続けて押します。
ワードプロセッサや表計算などのソフトウェアを実行したり、作成した文書などのファイルを開くときなどに使います。

ドラッグする

ポインタを希望の位置に合わせて、左ボタンを押したまま、スティックを押し、希望の位置でボタンを離します。
ファイルを移動したり、ウィンドウの大きさを変更するときなどに使います。

右クリックする

ポインタを希望の位置に合わせて、右ボタンを1回押します。
押したときのポインタの位置によって、さまざまな内容のポップアップメニューが表示されます。

スクロールする

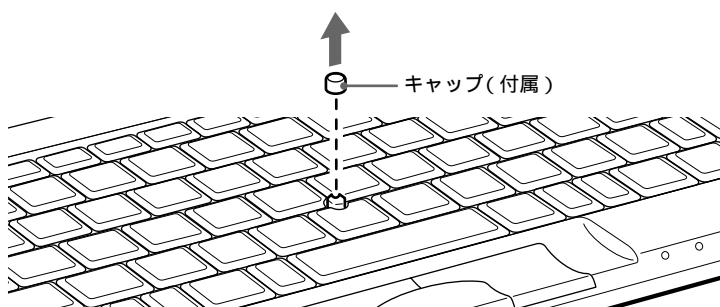
センターボタンを押しながらスティックを指で押します。ソフトウェア上のスクロールバーを上下左右に移動できます。

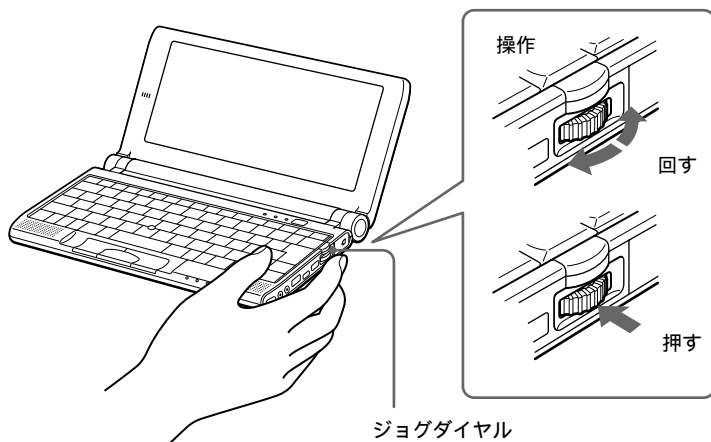
ご注意

スクロール機能を使うには、ソフトウェア側の対応が必要です。対応していないソフトウェアでは、この機能は使えません。

上記は工場出荷時の設定です。設定を変更したり、ポインティング・デバイスをより便利に使うには、「ポインティング・デバイスの設定を変更する」（155ページ）をご覧ください。

スティックのキャップを交換するには

スティックの先についているキャップは消耗品です。着脱式ですので、使いにくくなった場合は付属の予備キャップと交換することができます。

ジョグダイヤルを使う

ジョグダイヤルは、「回す／押す」の操作で画面のスクロールや起動したいソフトウェアの選択、本機の内蔵スピーカーの音量調節などを簡単に操作できます。ここでは、操作のしかたやジョグダイヤルでできることについて説明します。

ジョグダイヤルウィンドウにはランチャ状態とガイド状態の2種類があります。

ランチャ状態

使用中のソフトウェアやプログラムがない場合や、ジョグダイヤルウィンドウがアクティブ状態（ウィンドウ上部のバーが他のウィンドウよりも濃く表示されている状態）になっている場合。

ジョグダイヤルランチャー画面

次のページにつづく

ガイド状態

使用中のソフトウェアやプログラムがあり、そのウィンドウがアクティブ状態になっている場合。ソフトウェアによってはリストビューモードとして階層化された選択リストをジョグダイヤルえ選択できるものもあります。
ソニー製ソフトウェアの中には、リストビューモードが簡易モードと詳細モードに分かれているものがあります。Shiftキーを押しながらジョグダイヤルを操作することにより、モードの切り換えができます。

ジョグダイヤルガイド画面

表示状態を変更する

- ジョグダイヤルウィンドウをダブルクリックするたびに、大きさを3段階に変更できます。

- ジョグダイヤルウィンドウ右上の をクリックすると、ウィンドウが閉じます。
  再度表示させたい場合は、ジョグダイヤルを操作するか、ディスプレイ画面右下のタスクバーにある または をダブルクリックしてください。

ジョグダイヤルの使いかた

ランチャ状態のときの操作

ジョグダイヤルウィンドウが「ジョグダイヤルランチャー」画面になっていることを確認してください。
「ジョグダイヤルガイド」画面になっているときは、ジョグダイヤルウィンドウまたはデスクトップ上をクリックするか、Ctrl（コントロール）キーを押しながらジョグダイヤルを押してランチャ状態にしてください。

1 ジョグダイヤルを回して操作したい項目を選び、ジョグダイヤルを押す。

「ジョグダイヤルガイド」画面になり、ジョグダイヤルを回す／押すときの動作が表示されます。

［音量設定］を選択したときの「ジョグダイヤルガイド」画面

ジョグダイヤルでできる操作項目について詳しくは、36ページの「ジョグダイヤルを使ってこんなことができます」をご覧ください。

「ジョグダイヤル設定」ソフトウェアを使ってジョグダイヤルでできる操作を新たに割り当てたり、削除することができます。詳しくは、「ジョグダイヤルでできる操作を登録する」（69ページ）をご覧ください。

2 ジョグダイヤルを回して、または押して操作をする。

設定し直したい場合や、別の操作項目を実行したい場合は、ジョグダイヤルウィンドウをランチャ状態に戻し、手順1からやり直してください。

ガイド状態のときの操作

ジョグダイヤルウィンドウが「ジョグダイヤルガイド」画面になっているときは、ジョグダイヤルを回す／押すときの動作が表示されます。

❑ ジョグダイヤル対応のソフトウェアの場合

ジョグダイヤル対応のソニー製ソフトウェアがアクティブ状態になっている場合は、各ソフトウェアに割り当てられた操作がジョグダイヤルでできます。

ジョグダイヤルでできる操作項目について詳しくは、次ページの「ジョグダイヤルを使ってこんなことができます」をご覧ください。

❑ ジョグダイヤル非対応のソフトウェアの場合

使用中のソフトウェアやプログラムがジョグダイヤルに対応していない場合は、下の表のようにウィンドウのスクロールやサイズの変更などができます。

操作	機能
ジョグダイヤルを回す	上下にスクロールします。 アクティブ状態のソフトウェアに複数のウィンドウが表示されている場合は、最後にクリックしたウィンドウがスクロールします。
ジョグダイヤルを押す	アクティブ状態のウィンドウが最大化します。 もう1度押すと、元の大きさに戻ります。
Alt（オルト）キーを 押しながら、 ジョグダイヤルを押す	アクティブ状態のウィンドウが最小化します。 もう1度押すと、元の大きさに戻ります。
Shift（シフト）キーを 押しながら、 ジョグダイヤルを押す	アクティブ状態のソフトウェアやプログラムを終了します。

ジョグダイヤルを使ってこんなことができます

「ジョグダイヤルランチャ」には、あらかじめ以下の操作が設定されています。ジョグダイヤルの使いかたについて詳しくは、「ジョグダイヤルの使いかた」(34ページ)をご覧ください。

操作のなまえ	操作と機能
取扱説明書	ジョグダイヤルを押すと、本機のオンラインマニュアルが起動します。
インターネット	ジョグダイヤルを押すと、VAIOホームページ(http://www.vaio.sony.co.jp/)が表示されます。
スタートメニューフォルダ	ジョグダイヤルを押すと、スタートメニューフォルダの内容が表示されます。
外部モニタ出力	ジョグダイヤルを押すと、付属のディスプレイアダプタに接続したコンピュータ用ディスプレイと、本機の液晶ディスプレイの表示を切り換えることができます。 液晶ディスプレイのみ→液晶ディスプレイと外部ディスプレイ同時表示→外部ディスプレイのみ→液晶ディスプレイのみ→...
TV出力	ジョグダイヤルを押すと、付属のディスプレイアダプタに接続したテレビなどの外部モニタと、本機の液晶ディスプレイの表示を切り換えることができます。 液晶ディスプレイのみ→液晶ディスプレイと外部モニタの同時表示→液晶ディスプレイのみ...
アイドル／ ハイバネーション／ サスペンド	ジョグダイヤルを押すと、それぞれの省電力動作モードに移行します。省電力動作モードについて詳しくは、「省電力動作モードについて」(137ページ)をご覧ください。

操作のなまえ	操作と機能
消音設定	ジョグダイヤルを押すと、本機の内蔵スピーカーの音量を消すことができます。
音量設定	ジョグダイヤルを回して本機の内蔵スピーカーの音量を調節することができます。ジョグダイヤルを押すと、調節した音量に設定されます。
メガベース設定	ジョグダイヤルを押すと、本機のメガベース機能のオン／オフを切り換えることができます。

ソニー製ソフトウェアではこんな使いかたができます

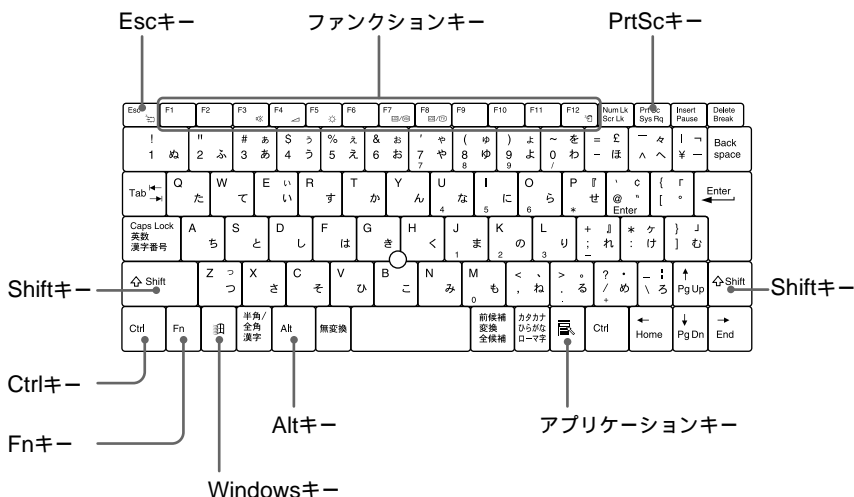
本機に付属のソニー製ソフトウエアでも、ジョグダイヤルを使ってさまざまな操作ができます。ジョグダイヤルの使いかたについては詳しくは、「ジョグダイヤルの使いかた」（34ページ）をご覧ください。

以下のソニー製ソフトウェアをお使いになっているときでも、ジョグダイヤルに対応していないウィンドウが開いている場合は、以下の操作はできません。ジョグダイヤルに対応していないソフトウェアの操作については、「ジョグダイヤル非対応のソフトウェアの場合」（35ページ）をご覧ください。

ソフトウェア	操作と機能
Navin' You	ジョグダイヤルを回すと、地図の拡大や縮小ができます。ジョグダイヤルを押すと、ファンクションパネルの表示／非表示の切り換えができます。
Smart Label	ジョグダイヤルを回すと、ラベルを上下に並べかえることができます。ジョグダイヤルを押すと、Time Viewモードに切り換わります。 **Time Viewモード時** ジョグダイヤルを回すと、過去や未来へ移動できます。ジョグダイヤルを短く押すと時間間隔が変更でき、長く押すと通常のデスクトップ画面に戻ります。 操作について詳しくは、「Smart Label」のヘルプをご覧ください。
Smart Capture	**Smart Captureウィンドウ時** • 簡易モード：キャプチャモード（スチルモードまたはビデオメールモード）を選択できます。 • 詳細モード：「Smart Capture」の基本機能を階層メニューから操作できます。詳しくは、「Smart Capture」のヘルプをご覧ください。 **Still Viewerウィンドウ時** 表示される静止画像を選択できます。ジョグダイヤルを回すと、その前後の静止画が表示されます。 **Movie Playerウィンドウ時** 表示される動画を選択できます。ジョグダイヤルを回すと、その前後の動画が表示されます。ジョグダイヤルを押すと、現在表示されている動画の再生／一時停止ができます。

ソフトウェア	操作と機能
Smart Write	ジョグダイヤルを回すと、カーソルが上下します。ジョグダイヤルを押すと、カーソルが文頭／文尾へ移動します。
PictureGear	ジョグダイヤルを回すと、シートビューと一枚表示ウィンドウで拡大や縮小ができます。ジョグダイヤルを押すと、最適な大きさになります。
Media Bar	ジョグダイヤルを回すと、トラックを選択できます。ジョグダイヤルを押すと、再生／一時停止ができます。
DVgate still	ジョグダイヤルを回すと、一時停止中のコマ送り／戻しができます。
DVgate motion	ジョグダイヤルを回すと、一時停止中のコマ送り／戻しができます。
DVgate clip	ファイルの再生スライダを操作できます。ジョグダイヤルを回すと、一時停止中のコマ送り／戻しができます。
DVgate assemble	リストのスクロールができます。ジョグダイヤルを回してスクロールできます。
DVgate scan	リストのスクロールができます。ジョグダイヤルを回してスクロールできます。
Smart Script	ジョグダイヤルを押すと、スクリプトの実行を開始／一時停止します。ジョグダイヤルを回すと、ステップを実行します。
CyberGyro	ジョグダイヤルを回すと、レンジを変更することができます。ジョグダイヤルを押すと、オートレンジモードに戻ります。

キーボードを使う

キーボードを使って文字や記号を入力したり、パソコンへ命令を送ることができます。ここでは、他のキーと組み合わせて使う、特殊なキーのなまえと機能を紹介します。
文字の入力のしかたについては、「文字を入力する」（42ページ）をご覧ください。

なまえ	機能
ファンクションキー	使用するソフトウェアによって働きが異なります。
Ctrl（コントロール）キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは、ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 例）Ctrlキーを押しながら、Sキーを押す。 メニューから「保存する」を選ばずに、ファイルを保存できます。

なまえ	機能
Alt（オルト）キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。オルタネートキーともいいます。 使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは、ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
Shift（シフト）キー	文字キーと組み合わせて使うと、大文字を入力できます。また、文字キーと他の機能キーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。
Windows （ウィンドウズ）キー	Windows 98の「スタート」メニューが表示されます。 他のキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 「Windowsキーとの主な組み合わせと機能」（179ページ）をご覧ください。
アプリケーションキー	右ボタンを押したときと同じ働きをします。
Fn（エフエヌ）キー	キーボード上で紫色で表記されている機能を使うとき、このキーと組み合わせて押します。 ファンクションキー（F1からF12キー）などと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。「Fnキーとの主な組み合わせと機能」（180ページ）をご覧ください。
Esc（エスケープ）キー	設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。
PrtSc（プリントスクリーン）キー	表示されている画面を取り込みます。取り込んだ画像は「ペイント」などのソフトウェア上に貼りつけられます。詳しくは、ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

文字を入力する

ここでは、文字の入力のしかたについて説明します。文字を入力するにはキーボードを使います。本機に付属している、「ワードパッド」という文章を作成するためのソフトウェアを使って、文字入力を練習してみましょう。キーボード上の各キーのなまえと働きについて詳しくは、「キーボードを使う」（40ページ）をご覧ください。

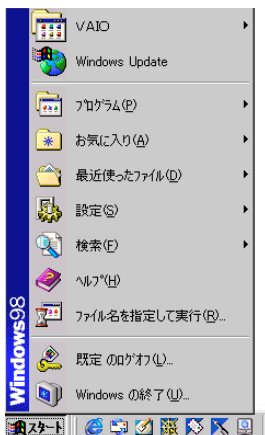
日本語入力の前に

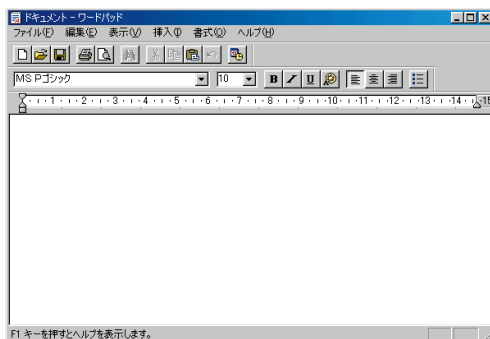
ここでは、ワードパッドを起動して、日本語を入力できるようにするまでの手順を説明します。

1 ワードパッドを起動する

まず、ワードパッドを起動します。

1 ［スタート］ボタンをクリックする。

スタートメニューが表示されます。

2 **［プログラム］にポインタを合わせ、［アクセサリ］から［ワードパッド］をクリックする。**

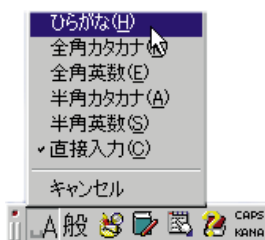
ワードパッドが起動し、文字を入力する画面が表示されます。

2 日本語入力を選ぶ

キーボード上の各キーにはアルファベットやひらがなが印刷されていますが、ただキーを押しても、漢字やカタカナは入力できません。

日本語を入力するためには、画面に表示されているMS-IME98のツールバーを使って、入力文字を切り換える必要があります。

MS-IME98ツールバー

1 **MS-IME98ツールバーの［␣A］をクリックする。**

文字入力選択メニューが表示されます。

2 **［ひらがな］をクリックする。**

画面上に表示されているツールバーの表示が［␣A］から［あ］に変わり、日本語を入力できるようになります。

［　］から［あ］に変わる。

ツールバーが表示されていないときは
ディスプレイ画面右下のタスクバーにある をクリックして、「ツールバーを表示」をクリックします。
ツールバーについて詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドをご覧ください。

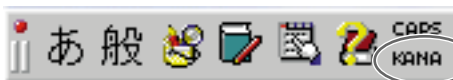
入力のしかたを選ぶ

日本語を入力する方法として、ローマ字入力方式とかな入力方式があります。お好みにあわせて、入力方法を選んでください。
なお、お買い上げ時は、ローマ字入力に設定されています。

ローマ字入力
キーボード上のアルファベットを組み合わせて、ローマ字で日本語を入力する方法です。1文字を入力するために2つのキーを組み合わせるので、操作が多少めんどうですが、英文タイプライタに慣れているかたはこちらが便利です。

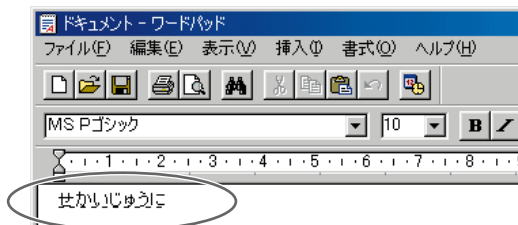
かな入力
キーボード上の各キーに印刷されているひらがなを使って、日本語を入力する方法です。1文字につき1つのキーを押せばよいので操作は楽ですが、50音それぞれのキーの配置を覚える必要があります。

かな入力とローマ字入力を切り換える

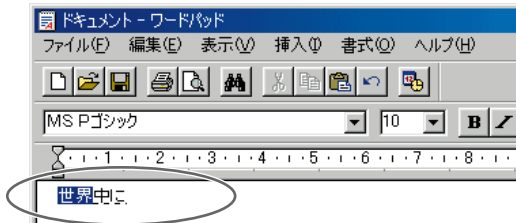
MS-IME98ツールバーの［KANA］をクリックするか、Ctrlキーを押しながら英数キーを押す。
ローマ字入力とかな入力とが切り換わります。

文字を入力する

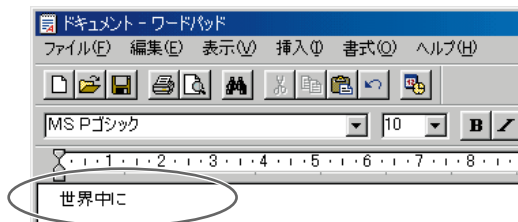
ここでは、具体的な文字の入力のしかたを説明します。
例として、「世界中にひろがったVAIOノート」という言葉を入力してみます。

1 漢字を入力する

1 「世界中に」の読みを入力する。

- **ローマ字入力の場合**
  S、E、K、A、I、J、U、U、N、Iの順にキーを押します。
- **かな入力の場合**
  せ、か、い、し、゛(濁点)、ゅ(Shiftキーを押しながら「ゆ」を押します)、う、に、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

2 スペースキーを押す。

入力した読みに当てはまる漢字が表示されます。
まちがった漢字が表示されたときは、正しい漢字が表示されるまで、何回かスペースキーを押します。

3 Enterキーを押す。

変換が確定します。

間違って入力したときは

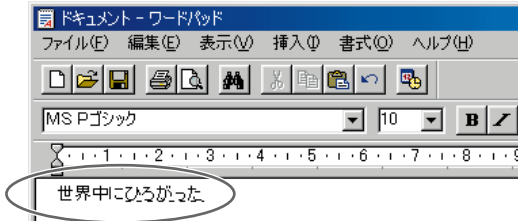
次のキーを使って修正します。

Backspace**キー**：カーソルの直前の1字を消し、カーソルの位置が戻ります。

Delete**キー**：カーソルのある位置の1字を消します。

Esc**キー**：確定していない文字をすべて消去します。

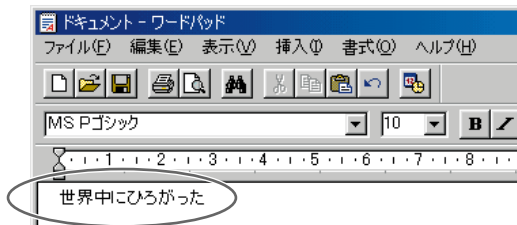
2 ひらがなを入力する

1 「ひろがった」の読みを入力する。

- **ローマ字入力の場合**

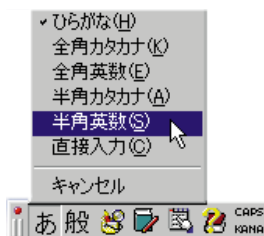
  H、I、R、O、G、A、T、T、Aの順にキーを押します。
- **かな入力の場合**

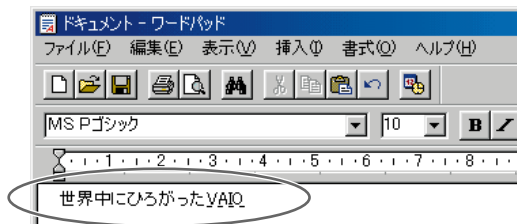
  ひ、ろ、か、゛（濁点）、っ（Shiftキーを押しながら「つ」を押します）、た、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

2 Enterキーを押す。

変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

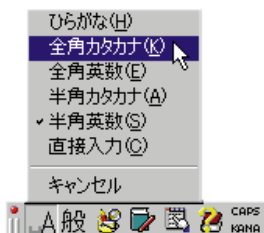
3 英字を入力する

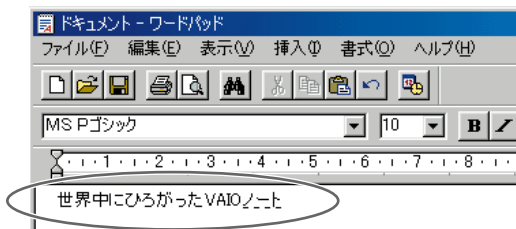
1 MS-IME98のツールバーの［あ］をクリックして、［半角英数］を選ぶ。

ツールバーの表示が［␣A］になり、アルファベットが入力できる状態になります。

2 Shiftキーを押しながら、V、A、I、Oの順にキーを押す。

3 Enterキーを押す。

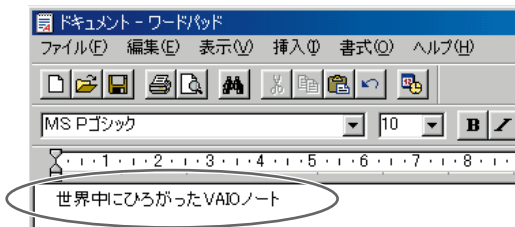
アルファベットの小文字や数字を入力するときは、Shiftキーを押す必要はありません。

4 カタカナを入力する

1 MS-IME98**のツールバーの［**␣A**］をクリックして、［全角カタカナ］を選ぶ。**

ツールバーの表示が［カ］になり、カタカナが入力できる状態になります。

2 「ノート」の読みを入力する。

- ローマ字入力の場合
  N、O、-（長音、［= ほ］キー）、T、Oの順にキーを押します。
- かな入力の場合
  の、ー（長音、［| ¥］キー）、と、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

3 Enterキーを押す。

変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

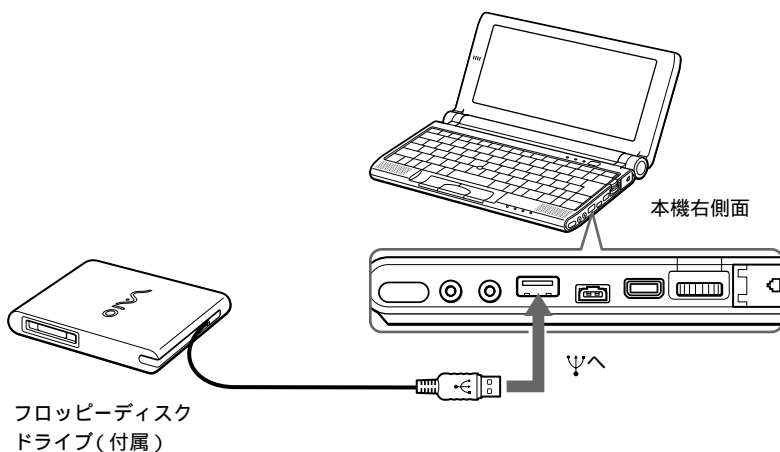
これで「世界中にひろがったVAIOノート」と入力できました。
キーボード上にない文字や記号の入力のしかたや、漢字に変換する文節の位置の調節のしかたなどについて詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドまたはMS-IME98のヘルプをご覧ください。

- 全角の「～」を入力するには、MS-IME98ツールバーで「ひらがな」を選んで（43ページ）、ひらがなで「から」と入力し、「～」が選ばれるまでスペースキーを押します。
- URLで使われる半角の「~」を入力するには、MS-IME98ツールバーで「半角英数」（47ページ）または「直接入力」を選び、Shiftキーを押しながら「＾」を押します。

フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクは、薄くて軽い、手軽に取り扱うことのできる記録メディアです。
ここでは、フロッピーディスクドライブの取り付けかたや、フロッピーディスクの取り扱いについて説明します。

フロッピーディスクドライブを取り付ける

フロッピーディスクドライブ（付属）を本機に接続します。

接続すると、フロッピーディスクドライブは自動的に認識されます。

ご注意

付属のUSBフロッピーディスクドライブは本機専用です。他のパソコンでは使用できません。

フロッピーディスクドライブは本機の電源を入れたままで抜き差しできます。

次のページにつづく

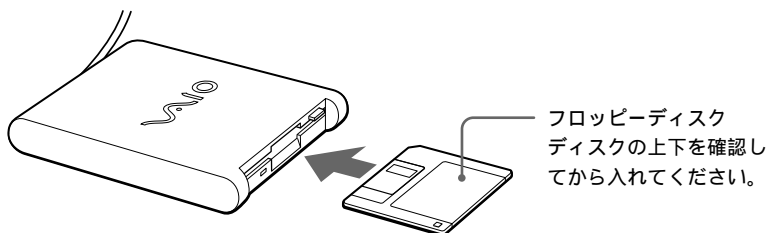
フロッピーディスクドライブを取りはずすには

フロッピーディスクドライブのアクセスランプが点灯していないことを確認してから、本機側のプラグからUSBケーブルを抜きます。

フロッピーディスクドライブを持ち運ぶときは

取りはずしたあとは、ケーブルをフロッピーディスクドライブ側面にはめ込むと、ケーブルが邪魔になりません。

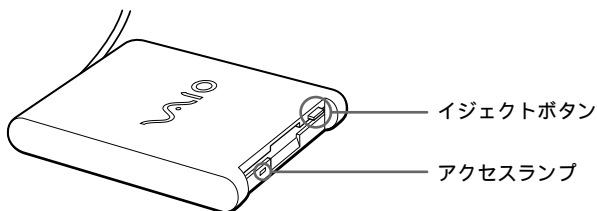
フロッピーディスクを入れる

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。

本機で使うフロッピーディスクは、あらかじめ初期化しておく必要があります。市販されているフロッピーディスクをお使いになるときは、「DOS/V 1.44MBフォーマット済」のものをご購入ください。初期化する必要がなくなります。
その他、本機で使えるフロッピーディスクについて詳しくは、次ページの「使用できるフロッピーディスク」をご覧ください。

フロッピーディスクを取り出すには

ディスクドライブのアクセスランプが点灯していないことを確認してから、イジェクトボタンを押します。

ご注意

アクセスランプが点灯しているときにイジェクトボタンを押すと、ディスクおよびデータの破損の原因となります。

イジェクトボタンを押してもフロッピーディスクが取り出せないないときは
フロッピーディスクドライブを取りはずして、VAIOカスタマーリンクにご連絡ください。

データを書き込み禁止にする

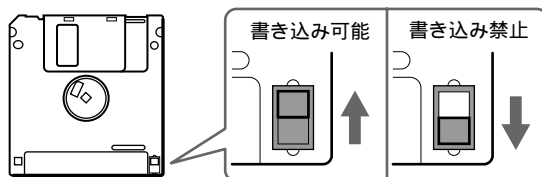
大切なデータを誤って消してしまうことのないように、フロッピーディスクには書き込み禁止のタブがついています。このタブを上下に動かして、フロッピーディスクを書き込み可能に、あるいは書き込み禁止にできます。

❑ 書き込み可能

データの書き込みが可能な状態です。

❑ 書き込み禁止

穴が見える位置にタブをスライドさせると、書き込み禁止の状態になります。データの読み出しはできますが、書き込みはできません。

フロッピーディスク裏面

使用できるフロッピーディスク

3.5インチフロッピーディスクには、2HD（両面高密度）タイプと2DD（両面倍密度倍トラック）タイプのものがあり、フォーマットによって2HD 1.44Mバイト、2DD 720Kバイト、2HD 1.2Mバイトの3種類に分けることができます。
本機はこれらのフロッピーディスクに対応しています。

種類	本機でできること
2HD 1.44Mバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2DD 720Kバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2HD 1.2Mバイト	読み書きともに可。 FORMAT、SYS、DRVSPACE（ドライブスペース）、DISKCOPYコマンドは実行不可。

次のページにつづく

ご注意

- データを保存するときは、2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイトタイプのフロッピーディスクをご使用ください。
- 他のパソコンとデータのやりとりをする場合は、下記のフロッピーディスクをご使用ください。

データをやりとりしたいパソコンのフロッピーディスクドライブの種類	使用するフロッピーディスク
1.44Mバイトの フロッピーディスクドライブ	2HD 1.44Mバイトまたは 2DD 720Kバイト
1.2Mバイトの フロッピーディスクドライブ	2HD 1.2Mバイトまたは 2DD 720Kバイト

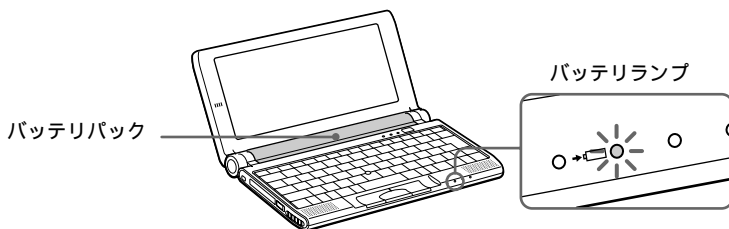
- 市販のアプリケーションソフトはフロッピーディスクの種類に関係なく作られていますが、一部のソフトウェアには2HD 1.44Mバイトおよび2DD 720Kバイト専用に作られているものがあります。これらのソフトウェアから2HD 1.2Mバイトのフロッピーディスクに読み書きを行ったときは、一部の機能が正しく動作しない場合があります。

バッテリで使う

充電したバッテリパックを本機に装着していると、AC電源につながなくても本機を使えます。別売りの大容量タイプのバッテリパックを取り付けることもできます（57ページ）。

ご注意

- 出荷時に装着されているバッテリは完全には充電されていないため、はじめてお使いになるときからバッテリが消耗している状態になっていることがあります。
- 本機は、バッテリの残量がわずかになると自動的にシステム ハイバネーションモード*になるよう工場出荷時に設定されていますが、ご使用中のソフトウェアや接続している周辺機器によっては、Windowsからの指示で作業を一時中断することができないため、この機能が正しく働かないことがあります。
  長時間席を外されるときなどにバッテリが消耗した場合、自動的にシステム ハイバネーションモードにならないと、本機の電源が切れ、作業中のデータが失われてしまうおそれがあります。
  バッテリでご使用のときは、こまめにデータを保存したり、手動でシステム サスペンドモードまたはシステム ハイバネーションモードにしてください。

  * システム ハイバネーションモードでは、作業中の状態がハードディスクに保存され、本機の電源が切れます。
  操作のしかたなど詳しくは、「省電力動作モードについて」（137ページ）をご覧ください。

バッテリランプについて

本機の動作状態を示します。

点灯	バッテリ動作中
パワーランプと一緒に点滅	バッテリの残量が少ない状態
2度連続点滅	バッテリ充電中
消灯	バッテリ切れ、またはAC電源で動作中

次のページにつづく

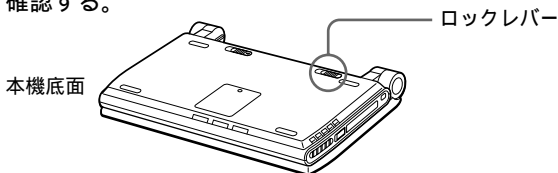
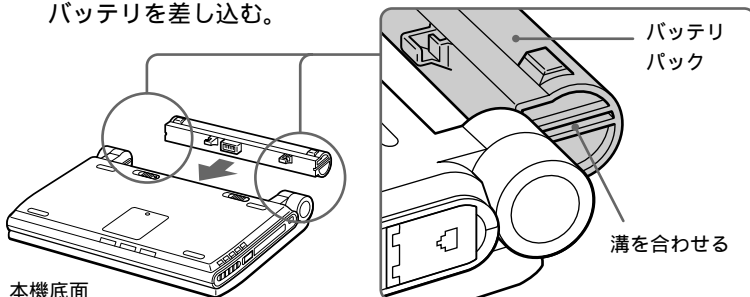
- 完全に充電したバッテリでの使用時間の目安は次の通りです。

バッテリタイプ	使用時間
標準タイプ（付属）	約2～2.5時間
大容量タイプPCGA-BP52（別売り）	約4～5.5時間
大容量タイプPCGA-BP54（別売り）	約8.5～11時間

  ただし、フロントライトユニット使用時は短くなる場合があります。
  バッテリの使用時間について詳しくは、「バッテリの残量を確認する」（140ページ）をご覧ください。
- AC電源につないでいるときは、バッテリパックを装着しているときでも、AC電源から電源が供給されます。
- バッテリで長時間使うには
  付属の「PowerPanel」ソフトウェアを使って本機のバッテリを最大限に長時間使用できるように、本機の動作状態を自動的に調節すること（スタミナモード）で、バッテリの使用時間をのばすことができます。詳しくは、「バッテリの消費電力を節約する」（133ページ）をご覧ください。
- バッテリの残量を確認するには
  付属の「BatteryScope」ソフトウェアを起動すると、バッテリの残量と予想使用時間を確認できます。詳しくは、「バッテリの残量を確認する」（140ページ）をご覧ください。

バッテリパックを取り付ける

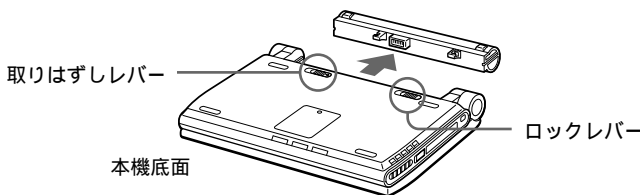
本機後面のバッテリ取り付け部にバッテリパックを取り付けます。

1 本機底面のロックレバーが解除されている（外側にある）ことを確認する。

2 本機後面とバッテリ両端の溝を合わせ、カチッと音がするまでバッテリを差し込む。

3 ロックレバーを内側にずらして、バッテリパックを固定する。

バッテリパックを取りはずすには

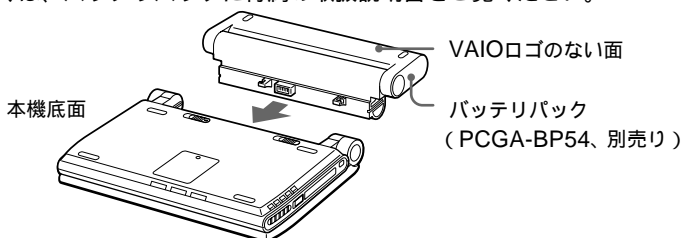
1 **本機の電源を切る。**

2 **ロックレバーを外側にずらす。**

3 **取りはずしレバーを横にずらして、バッテリパックを取りはずす。**

ご注意

- ACアダプタをつながない状態で、本機の電源を入れたままバッテリを取りはずすと、作業中のデータが失われます。
- ACアダプタをつながない状態で、本機がシステム サスペンドモードのときにバッテリを取りはずすと、保存されていないデータは失われます。

大容量のバッテリパック（PCGA-BP54）を取り付けるには

VAIOロゴのない面を上に向けて取り付けます。取り付けかたについて詳しくは、バッテリパックに付属の取扱説明書をご覧ください。

バッテリを充電する

本機をAC電源につないでいれば、本機を使っていてもバッテリは充電されます。充電中は、バッテリランプが2度連続で点滅します。
付属の標準バッテリの場合、バッテリの残量が空の状態から充電されるまでに約1.5時間かかります（約85%充電、使用状況による）。
バッテリが約85%まで充電されると、バッテリランプは消灯します。
約85%まで充電されたバッテリは、約1時間後に完全に充電されます。

別売りのバッテリチャージャーPCGA-BC5で充電することもできます。
詳しくは、PCGA-BC5の取扱説明書をご覧ください。

フロントライトユニットを使う

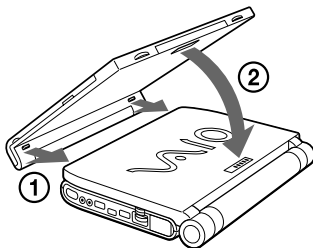
本機は反射型液晶ディスプレイを使用しています。太陽光や室内灯の光を反射して、画面表示が見られるようになっています。明るさが不十分で画面が見にくい場合は、付属のフロントライトユニットを取り付けてお使いください。

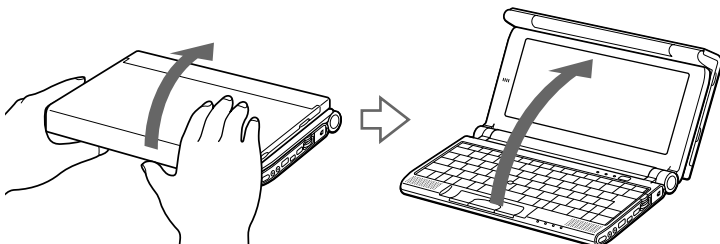
ご注意

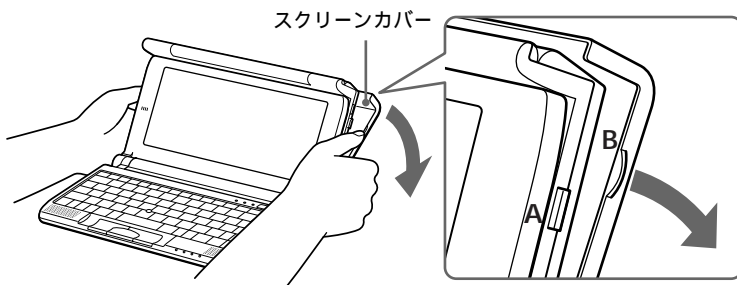
- スクリーンに傷をつけないようにご注意ください。
- スクリーンには触れないようにしてください。汚れた場合は、乾いた柔らかい布などで拭き取ってください。

フロントライトユニットを取り付ける

1 本機とフロントライトユニットをつなげる。

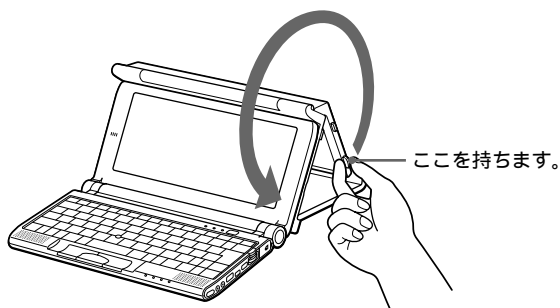
フロントライトユニットのつめの部分を本機のディスプレイパネル上部のくぼみに挿入してから、カチッと音がするまでフロントライトユニットを上から軽く押さえます。

2 ディスプレイパネルを開く。

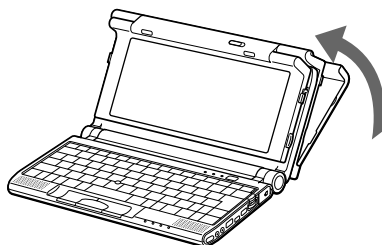
本機を両手でしっかりと持って開いてください。

3 スクリーンカバーを開く。

中指で**A**の突起を手前に、親指で**B**の突起を向こう側に押して開きます。

ご注意

スクリーンカバーを開きすぎないようにしてください。

4 スクリーンを手前に回転させながら、液晶ディスプレイの上に静かに降ろす。

下図のように、スクリーンに触れないようにスクリーン横のつめ部分を持って回転させ、液晶ディスプレイの上に降ろしてカチッと音がするまでスクリーンを固定します。

5 スクリーンカバーを閉じる。

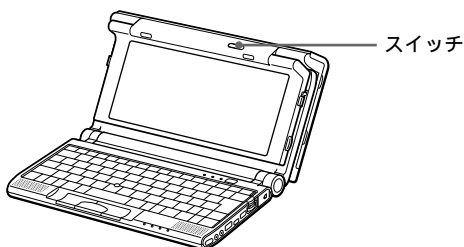
カチッと音がするまでスクリーンカバーを閉じます。

スクリーンをしまうには

スクリーンカバーを開き、スクリーンを向こう側へ回転させてから、スクリーンカバーを閉じます。

ご注意

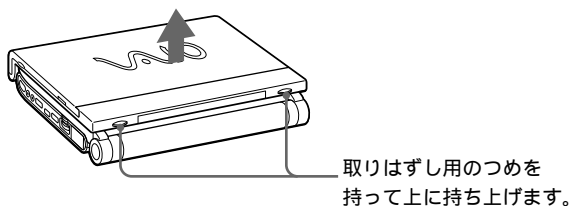
本機のディスプレイパネルを閉じる際は、必ずフロントライトユニットの電源を切り、スクリーンをしまってから閉じてください。スクリーンを出したままディスプレイパネルを閉じると、本機の故障の原因となります。

フロントライトユニットを使う

スクリーン右上にあるスイッチを右にずらして、電源を入れます。

フロントライトユニットの電源を切るには

スクリーン右上にあるスイッチを左にずらします。

フロントライトユニットを取りはずす

スクリーンを元の位置に戻し、液晶ディスプレイパネルを閉じてから、下図のように取りはずします。

ハンディGPSレシーバーを使う

ハンディGPSレシーバーをお使いになる前に、「Navin' You」の取扱説明書をご覧ください。

本機に付属のハンディGPSレシーバーを使って、外出先で見つけたおいしいお店の場所や、ハイキングで通った山道を記録したり、記録したものを本機のディスプレイ画面上に表示することができます。
ハンディGPSレシーバーのみを持ち歩いて使う方法と、本機に取り付けて使う方法があります。

- ハンディGPSレシーバーのみを持ち歩いてできること
  – 移動したあと（軌跡）を記録する。
  – 記録したい位置にマーク（印）をつける。
- ハンディGPSレシーバーを本機に取り付けてできること
  – マークや移動したあとを付属の「Navin' You」ソフトウェアの地図上に表示する。
  – 付属の「Navin' You」ソフトウェアを使って、現在地を地図上に表示する。
  – 付属の「CyberGyro」ソフトウェアを使って、目的地や目的物の方角、現在地の緯度経度、目的物までの距離を表示する。

その他、「Navin' You」を使って地図上での表示の設定を変えたり、i.LINK対応機器で取り込んだ画像を地図上に配置したり、マークや画像つきの地図を電子メールに添付して送ることもできます。詳しくは、「Navin' You」の取扱説明書およびヘルプをご覧ください。

基本的な使いかた

ハンディGPSレシーバーには、電源の切れている状態、電源の入っている状態、スリープモード（待機モード）の3モードがあります。モードによって、POWER（パワー）ボタンの働きが異なります。

❑ 電源の切れている状態（POWERランプ：消灯）

- POWERボタンを長く押す：電源が入り、自動的にGPSログの記録が始まります[1)]。工場出荷時の設定では、1分ごとに記録するよう設定されています。
  記録中以外は、自動的にスリープモードになります[2)]。再度POWERボタンを長押しするまで記録が続けられます。
- POWERボタンを短く押す：何も起こりません。

❑ 電源の入っている状態（POWERランプ：緑色に点灯）

POWERボタンを長く押すと、記録を終了し、電源が切れます。

❑ スリープモード（POWERランプ：緑色に点滅）

- POWERボタンを長く押す：記録を終了し、電源が切れます。
- POWERボタンを短く押す：一時的に電源が入ります。スリープモード中に現在の位置のGPSログを記録したい場合は、POWERボタンを短く押してからMARK（マーク）ボタンを押し、再度POWERボタンを短く押してスリープモードに戻してください。

1) GPSランプが緑色に点灯していることをご確認ください。室内やトンネル内などで、GPS衛星（人工衛星）からの電波を受信できないときは赤く点灯し、記録は始まりません。

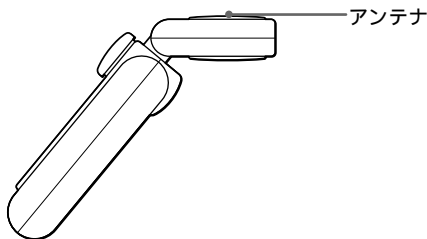
2) GPS記録時に室内やトンネル内などでGPS衛星からの電波を受信できないときは、最大5分間スリープモードにはなりません。

- 無効なボタンを押したときは、「ピピピピ」というエラー音が鳴ります。
- 付属のハンディGPS接続ケーブルを使って本機とハンディGPSレシーバーをつないだ場合は、ハンディGPSレシーバーのボタンは無効になります。「Navin' You」や「CyberGyro」、「Sony Handy GPS Setup」などの対応ソフトウェアからハンディGPSレシーバーを操作する際に、自動的に本機から電源が供給されます。
- GPSログの記録インターバルなどの設定は、「Sony Handy GPS Setup」で行います。詳しくは、「Navin' You」の取扱説明書をご覧ください。

GPSログについて

ハンディGPSレシーバーに記録されるGPSログは、電源を入れてから切るまでを1つのログデータとして管理します。

ご注意

- ハンディGPSレシーバーをお使いのときは、アンテナ部分を、天空に対して水平になるよう調節してください。

- 室内やトンネル内などでは、GPS衛星からの電波を受信できないため、ハンディGPSレシーバーのロギング機能（64ページ）はご使用できません。ロギング機能を使う場合は、必ず屋外でご使用ください。

ランプの表示について

ランプの種類	状態
GPSランプ（緑色／赤色）	緑色で点灯：測定可能 赤色で点灯：測定不可能
RECランプ（赤色）	点灯：メモリフルでこれ以上記録できない 点滅：記録中 早い点滅：メモリが不足している[1]
POWERランプ（緑色／赤色）	緑色で点灯：電源が入っている 緑色で点滅：スリープモード 赤色で早い点滅：電池消耗[1] 消灯：電源が切れている

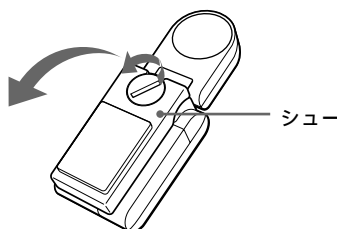
[1] ランプの点滅とともに、ビープ音が30秒間鳴ります。

ロギング機能を使う

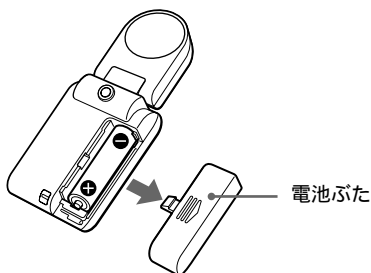
ロギング機能とは、移動したあと（軌跡）を記録する機能です。例えば、ハイキングで、出発地から到着地まで、通った山道を記録することができます。途中で休憩したところなどにマークをつけることもできます。

電池を入れる

1 ハンディGPSレシーバー裏面のマジックテープの付いているシューを取りはずす。

コインなどでネジを回して、シューを取りはずします。

車のダッシュボードにつけてお使いになる場合は、シューをハンディGPSレシーバーに取り付けてください。詳しくは、「車のダッシュボードにつける」（67ページ）をご覧ください。

2 電池ぶたをはずし、電池を入れる。

電池ぶたを矢印の方向へずらして開き、⊕と⊖の向きを合わせて単3アルカリ乾電池を1個入れ、ふたを閉めます。

工場出荷時の設定では、連続で約5時間使用することができます。

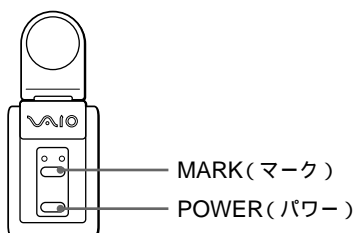
ご注意

乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。

ー ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
ー 乾電池は充電しないでください。
ー 長い間ハンディGPSレシーバーを使わないときは、乾電池を取り出してください。
ー 夏の車内など高温になるところに放置すると、乾電池の液もれの原因となります。高温になるところには放置しないでください。

記録する

POWERボタンを長く押して電源を入れます。電源が入ると同時に記録が始まります*。工場出荷時の設定では、1分ごとに記録するよう設定されています。記録中以外は、自動的にスリープモードになります。再度POWERボタンを長く押すまで記録が続けられます。
スリープモード中にマークをつけたい場合は、POWERボタンを短く押して一時的にスリープモードを解除し、GPSランプが緑色に点灯していることを確認してから、マークをつけたい場所でMARKボタンを押します。その後5分たつと、自動的にスリーモードに戻ります。POWERボタンをもう1度短く押しても、スリープモードに戻すことができます。

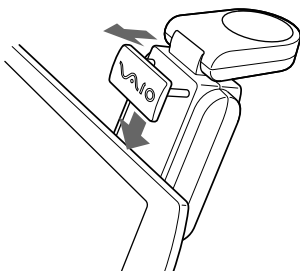
* GPSランプが緑色に点灯していることをご確認ください。室内やトンネル内などで、GPS衛星からの電波を受信できないときは赤く点灯し、記録は始まりません。

ご注意

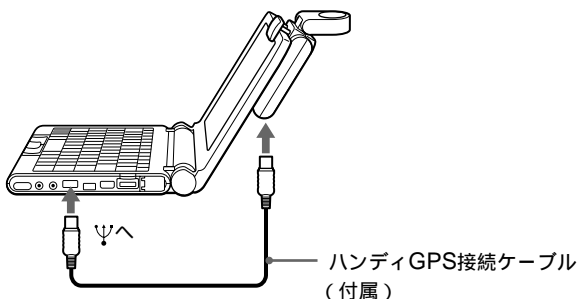
GPS衛星からの電波を受信するため、必ず屋外でご使用ください。

GPSログの記録インターバルなどの設定は、「Sony Handy GPS Setup」で行います。詳しくは、「Navin' You」の取扱説明書をご覧ください。

本機に取り付けて使う

1 **VAIOロゴが記されている部分を手前に引いたまま、本機液晶ディスプレイの右上に引っかけてから手を離す。**

手を離すと自動的に固定されます。

2 **付属のハンディGPS接続ケーブルを使って、ハンディGPSレシーバーと本機をつなぐ。**

「Navin' You」や「CyberGyro」ソフトウェアを起動したり、「Sony Handy GPS Setup」を起動すると、ハンディGPSレシーバーの電源が入ります。操作について詳しくは、「Navin' You」の取扱説明書およびヘルプ、または「CyberGyro」のヘルプをご覧ください。

ご注意

USBハブなどを使って接続した場合の動作保証はいたしかねます。

ハンディGPSレシーバーの詳細設定については、コントロールパネルの中の［Sony Handy GPS Setup］をダブルクリックするか、「Navin' You」を起動して、［Handy GPS設定］をクリックします。設定のしかたについて詳しくは、「Navin' You」の取扱説明書をご覧ください。

ストラップ（付属）をつける

ハンディGPSレシーバーのみを持ち歩いて使う場合、付属のストラップを図のように取りつけて使うと便利です。

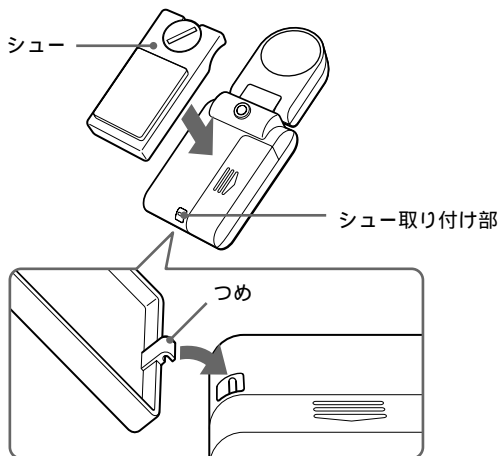
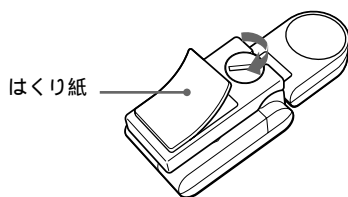
ご注意

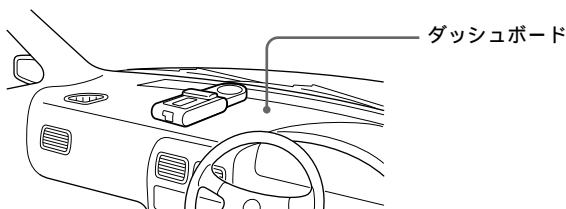
- ハンディGPSレシーバーをお使いのときは、アンテナ部分を、天空に対して水平になるよう調節してください。
- ストラップ使用時は振り回したり、強く引っぱったりしないでください。ストラップに強い力が加わると、ストラップの接続部がはずれます。接続部がはずれたストラップは、絶対に使用しないでください。

車のダッシュボードにつける

1 シューを取り付ける。

ハンディGPSレシーバーのシュー取り付け部にシューのつめを引っかけ、シューをハンディGPSレシーバーの上にかぶせてから、コインなどでシューのネジを回して固定ます。
ストラップをつけている場合は、ストラップをはずしてからシューを取り付けてください。

次のページにつづく

2 マジックテープのはくり紙をはがす。

3 ダッシュボードにつける。

アンテナ部分がフロントウィンドウの下にくるようにつけてください。

⚠警告

- **夏の車内など高温になるところに放置すると、乾電池の液もれの原因となります。高温になるところには放置しないでください。ダッシュボードに設置する際は、高温にならないようご注意ください。**
- **運転者は走行中に操作しないでください。**

「CyberGyro」ソフトウェアを使う

付属の「CyberGyro」ソフトウェアを使って、あらかじめ設定した目的地や目的物の方角、現在地の緯度経度、目的物までの距離を本機の画面上に表示することができます。

本機に取りつける

「本機に取りつけて使う」（66ページ）の手順に従って、ハンディGPSレシーバーを本機に取りつけます。

「CyberGyro」を起動する

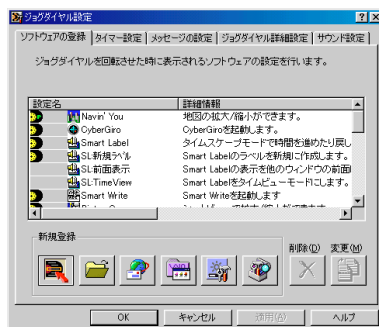
［スタート］ボタンをクリックして、［VAIO］にポインタを合わせ、［CyberGyro］をクリックし、「CyberGyro」を起動します。
目的地の設定など操作について詳しくは、「CyberGyro」のヘルプをご覧ください。

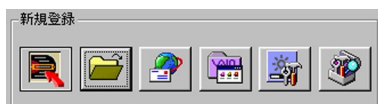
ジョグダイヤルでできる操作を登録する

本機に付属の「ジョグダイヤル設定」ソフトウェアを使って、ジョグダイヤルでできる操作を新たに登録または削除できます。

1 **ジョグダイヤルウィンドウの［setup］ボタンをクリックする。**

「ジョグダイヤル設定」が表示されます。

ここをクリックする。

- ジョグダイヤルウィンドウが画面上に表示されていない場合は、ジョグダイヤルを操作するか、ディスプレイ画面右下のタスクバーにある または をダブルクリックしてください。
- ディスプレイ画面右下のタスクバーにある または を右クリックしてポップアップメニューを表示させ、［ジョグダイヤル セットアップ］をクリックして「ジョグダイヤル設定」を表示させることもできます。

2 **「新規登録」メニューの中から割り当てたい操作の登録方法を選び、ボタンをクリックする。**

「新規登録」メニューには、以下のようなボタンが用意されています。これらのボタンは、ジョグダイヤルでできる操作の登録方法を示すものです。

登録したいソフトウェアのファイルをこのボタンにドラッグすることで簡単に登録できます。
ファイルをドラッグすると ボタンをクリックしたときと同じ画面（下を参照）が表示されます。ソフトウェアの名前などはドラッグしたソフトウェアの名前が自動的に表示されるので、入力する手間が省けて便利です。

ソフトウェアのファイル名を指定することで登録できます。
ボタンをクリックすると以下の画面が表示されるので、ソフトウェアの名前などを入力して、[次へ>] をクリックします。

[参照] ボタンをクリックすると、ソフトウェア名が検索でき、クリックするだけで自動的に入力することができて便利です。

電子メールの自動取り込みや、インターネットブラウザの起動などの操作を登録できます。
ボタンをクリックすると以下の画面が表示されるので、接続先や処理内容を指定して、[次へ>] をクリックします。

次のページにつづく

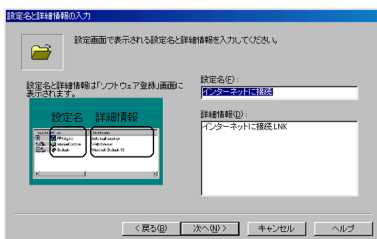
ジョグダイヤルで操作できるソニー製ソフトウェアの登録ができます。*
ボタンをクリックすると設定画面が表示されます。改めて登録し直したいソフトウェアを選択し、[次へ>] をクリックします。

音量調節など本機の使用環境の設定を登録できます。*
ボタンをクリックすると設定画面が表示されます。改めて登録し直したい項目を選択し、[次へ>] をクリックします。

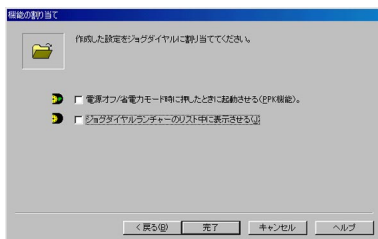
ジョグダイヤルを使って操作すると便利な機能を登録できます。
ボタンをクリックすると設定画面が表示されます。登録したい項目を選択し、[次へ>] をクリックします。

* 本機に付属のソニー製ソフトウェアや使用環境の設定項目はすでに登録されています。

3 設定名と詳細情報を確認して、[次へ>] をクリックする。

以下の画面が表示されるので、「設定名」(ジョグダイヤルウィンドウ上で表示される名前) と「詳細情報」を確認して、[次へ>] をクリックしてください。

ボタンで登録を行うときは「設定名」と「詳細情報」をそれぞれ入力してから、[次へ>] をクリックしてください。

次のページにつづく

4 「ジョグダイヤルランチャーのリスト中に表示させる」を選択して、[完了]をクリックする。

手順1の画面に戻り、[OK]をクリックすると登録は完了です。
手順1の画面の登録リスト左側にマークの付いているものが、ジョグダイヤルで操作できるソフトウェアです。登録したものが正しく設定されているか確認できます。

「電源オフ／省電力モード時に押したときに起動させる（PPK機能）」を選択すると、電源が切れている状態や省電力動作モード時にジョグダイヤルを押すことで、ソフトウェアを起動させることができます（PPK機能）。詳しくは、次ページの「好みのソフトウェアを自動的に起動する（PPK機能）」をご覧ください。

ソフトウェアの登録を無効にする

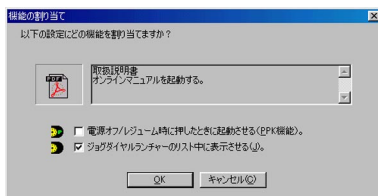
登録リストの中から登録を無効にしたいソフトウェアをクリックして選択し、 ボタンをクリックしてください。確認画面が表示されますので、[OK]をクリックします。

好みのソフトウェアを自動的に起動する（PPK機能）

起動させたいソフトウェアを割り当てる

電源を切った状態や省電力動作モード時にジョグダイヤルを押すだけで、好みのソフトウェアを起動したり、スクリプトファイル（インターネットブラウザの起動や電子メールの取り込みなど）を実行することができます（PPK機能）。

1 ジョグダイヤルウィンドウの［setup］ボタンをクリックする。
「ジョグダイヤル設定」が表示されます。

2 起動させたいソフトウェアを登録リストから選択してダブルクリックする。
「機能の割り当て」が表示されます。

3 「電源オフ／省電力モード時に押したときに起動させる（PPK機能）」を選択して、［OK］をクリックする。
これで登録は完了です。
登録リストの中で マークの付いているものが、起動するソフトウェアです。自分で登録したものがきちんと設定されているかどうか確認できます。

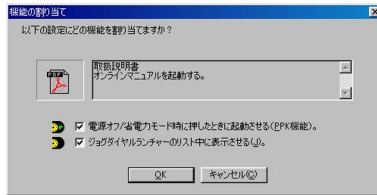
リストの中に起動させたいソフトウェアがない場合は、「ジョグダイヤルでできる操作を登録する」の手順4（72ページ）で「電源オフ／省電力モード時に押したときに起動させる（PPK機能）」を選択すると、登録することができます。

ソフトウェアの割り当てを無効にする

1 **ジョグダイヤルウィンドウの [setup] ボタンをクリックする。**

「ジョグダイヤル設定」が表示されます。

2 **無効にしたいソフトウェアを登録リストから選択してダブルクリックする。**

「機能の割り当て」が表示されます。

3 **「電源オフ／省電力モード時に押したときに起動させる（PPK機能）」をクリックしてチェックをはずし、[OK] をクリックする。**

これで完了です。

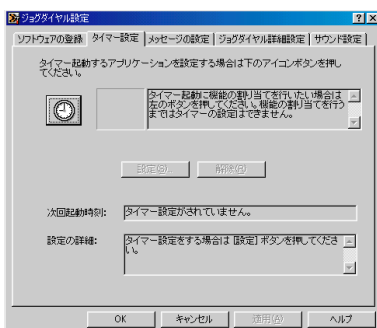
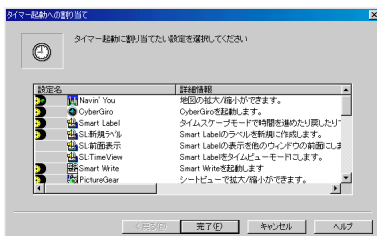
ソフトウェアの割り当てを変更する

「起動させたいソフトウェアを割り当てる」の手順2（73ページ）で変更したいソフトウェアを選択し、割り当て直してください。

内蔵タイマで好みのソフトウェアを起動する

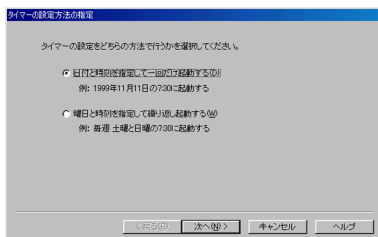
内蔵タイマを使うと好きな時刻に好みのソフトウェアを起動できます。
本機が省電力動作モードのときでも、タイマ起動できます。
ジョグダイヤルに起動させたいソフトウェアを割り当てるときと同様に、スクリプトファイルを好みの時刻に実行することもできます。

1 **ジョグダイヤルウィンドウの［setup］ボタンをクリックする。**
「ジョグダイヤル設定」が表示されます。

2 **［タイマー設定］タブをクリックする。**
設定画面が表示されます。

3 **をクリックする。**
「タイマー起動への割り当て」画面が表示されます。

4 **登録リストからタイマ起動したいソフトウェアを選び、クリックする。**

5 **［完了］をクリックする。**
手順2の画面に戻ります。

6 [設定] をクリックする。

「タイマーの設定方法の指定」が表示されます。

「日付と時刻を指定して一回だけ起動する」を選ぶと設定した1回のみ、「曜日と時刻を指定して繰り返し起動する」を選ぶと、毎週決まった時間にタイマが起動します。

7 [次へ>] をクリックする。

タイマ起動時刻を設定します。
手順6で「日付と時刻を指定して一回だけ起動する」を選んだときは日付と時刻を、「曜日と時刻を指定して繰り返し起動する」を選んだときは曜日と時刻を設定します。

8 [次へ>] をクリックする。

9 [完了] をクリックする。

これで設定は完了です。
[ソフトウェアの登録] タブをクリックし、登録リストの中で 🕘 マークが付いたものがタイマ設定されたソフトウェアです。
タイマ設定すると (インフォメーション) ランプが点灯します。

自動的にソフトウェアを起動したあと、本機を一定時間後に省電力動作モードにすることもできます

上記の手順8で [指定時間の経過後に省電力モードに移行する] をクリックし、処理を中断するまでの時間などを設定します。

ご注意

- タイマ起動後、実際にソフトウェアが動作を始めるまでに時間がかかることがあります。どれくらい時間がかかるかを、あらかじめ確認しておくことをおすすめします。
- 動作しているプログラムやデバイスによっては、省電力動作モードに移行できないことがあります。

タイマ設定を無効にする

［タイマー設定］の設定画面の をクリックして、「現在の設定を無効にする」を選択して［完了］をクリックください。

タイマ設定を変更する

［タイマー設定］の設定画面の をクリックして、「現在の設定を無効にして別の設定を割り当てる」を選択して［次へ>］をクリックください。「タイマー起動への割り当て」画面が表示されますので、タイマ設定に割り当てたいソフトウェアを割り当て直してください。

ワンタッチで電子メールを確認する

ジョグダイヤルの便利な使いかたの例として、ワンタッチで電子メールを確認できるよう設定してみましょう。ジョグダイヤルを押すだけで、電子メールを確認できます。

ご注意

この機能を使う前に、以下の点を確認してください。

- インターネットに接続するための接続会社と契約は済んでいますか。
- 電子メールのアカウントを取得していますか。
- Windows 98の「ダイヤルアップネットワークの設定」は済んでいますか。
- 「ダイヤルアップネットワークの設定」で、「パスワードを保存する」にチェックはついていますか。
- 電子メールソフトウェアの設定は済んでいますか。

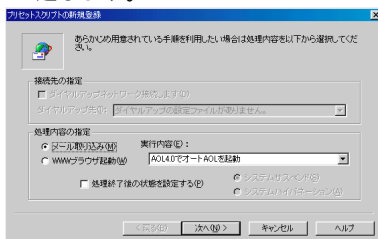
1 **ジョグダイヤルウィンドウの［setup］ボタンをクリックする。**
「ジョグダイヤル設定」が表示されます。

2 「新規登録」メニューの をクリックする。

「プリセットスクリプトの新規登録」が表示されます。

以下の手順で設定します。

① [ダイヤルアップネットワーク接続します] をクリックし、ダイヤルアップ先を設定する。
下矢印ボタンをクリックして、「インターネット接続ウィザード」などで設定したダイヤルアップ先を選びます。

② [メール取り込み] をクリックし、実行内容を設定する。
下矢印ボタンをクリックして、使用する電子メールソフトウェアを選びます。

記入例

3 [次へ>] をクリックする。

(インフォメーション) ランプの設定をします。

4 [次へ>] をクリックする。

「設定名と詳細情報の入力」が表示されます。

5 設定名 (ジョグダイヤルウィンドウ上で表示される名前) と詳細情報を確認して、[次へ>] をクリックする。

「機能の割り当て」が表示されます。

6 「電源オフ/省電力モード時に押したときに起動させる (PPK機能)」を選択して、[OK] をクリックする。

これで設定は完了です。電源を切った状態や省電力動作モード時にジョグダイヤルを押すと、指定した電子メールソフトウェアが起動して、自動的に電子メールを確認します。

(インフォメーション) ランプについて

インフォメーションランプは上記手順3の「インフォメーションランプの設定」画面で選んだ条件に従って点滅します。

点滅しているインフォメーションランプは本機がシステム スタンバイモードに移行しても消えません。点滅しているインフォメーションランプは、省電力動作モードからの復帰等や本機起動時、タスクバー上のジョグダイヤルアイコンをダブルクリックすると消灯します。

タイマ設定がされている場合は点灯に変わります。

電話回線を使用するソフトウェアを起動する場合は

通信状態やサーバーの状態によっては、正常に回線を切断できないことがあります。プログラム実行中は実行状態を監視して、異常が発見された場合には手動で回線を切断してください。

電話回線自動接続機能を持つ電子メールソフトウェアを使うときは

電子メールソフトウェアには、「Microsoft Outlook」などの電話回線に自動的に接続する機能を持つものもあります。
このような機能を持った電子メールソフトウェアを使用するときは、「ジョグダイヤル設定」ソフトウェアのダイヤルアップ機能（スクリプトなど）を使ってインターネットに接続するよりも、電子メールソフトウェアの機能を使ってインターネットに接続したほうが、接続不良などの異常事態が発生したときに、安定して回線を切断できる可能性が高くなります。
「ジョグダイヤル設定」ソフトウェアの簡易設定では、電子メールソフトウェアなどの起動前にダイヤルアップネットワークに自動的に接続します。そのため、電子メールソフトウェア側でダイヤルアップできるときは、電子メールソフトウェア側でダイヤルアップするように設定を変更するようおすすめします。

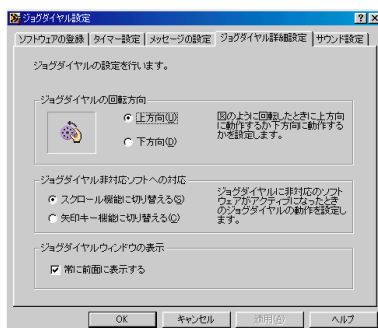
スクリプト実行中はパソコンの操作をしないでください

簡易設定によるメール取り込みには「Smart Script」で作成したスクリプトを使用しています。
これらのスクリプトを実行中に本機の操作をすると、誤動作の原因となりますのでご注意ください。

ジョグダイヤルの設定をする

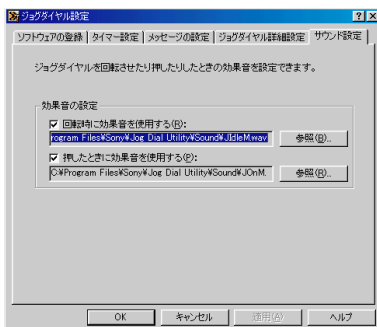
ジョグダイヤルの回転方向や、ジョグダイヤルに対応していないソフトウェアへの機能の割り当て、ジョグダイヤルを操作するときの効果音などを設定できます。

1 **ジョグダイヤルウィンドウの［setup］ボタンをクリックする。**
「ジョグダイヤル設定」が表示されます。

2 **［ジョグダイヤル詳細設定］タブをクリックする。**
設定画面が表示されます。

- **ジョグダイヤルの回転方向を設定する**
  「ジョグダイヤルの回転方向」で、「上方向」か「下方向」どちらかを選択してください。工場出荷時では、「上方向」が選択されています。
- **ジョグダイヤルに対応していないソフトウェアへの機能の割り当てをする**
  「ジョグダイヤル非対応ソフトへの対応」で、割り当てたい機能を選択してください。工場出荷時では、「スクロール機能に切り替える」が選択されています。
- **ジョグダイヤルウィンドウの表示方法を設定する**
  「ジョグダイヤルウィンドウの表示」で、ジョグダイヤルウィンドウを常に前面に表示させるかどうかを選択してください。
  工場出荷時では、「常に前面に表示する」が選択されています。
  チェックをはずすと他のウィンドウの背面に隠れることがありますが、その場合でもジョグダイヤルは使用できます。

次のページにつづく

3 ［サウンド設定］タブをクリックする。

設定画面が表示されます。
ジョグダイヤルを操作するときの効果音を設定します。

［参照］ボタンをクリックしてWAVEファイルを選択し、好みの効果音に設定できます。また、自分で録音した音声などのWAVEファイルを効果音に設定することもできます。
さらに、「回転時に／押したときに効果音を使用する」のチェックをはずすことで、効果音が出ないように設定することもできます。

4 ［OK］をクリックする。

設定が有効になります。
他の設定を続けたいときは、［適用］をクリックしてください。

インターネットを楽しむ

本機には電話回線に接続して通信を行うためのモデムが内蔵されているので、電話回線につないでインターネットを楽しむことができます。

インターネットに接続する

ここでは、インターネットに接続するための大まかな流れを記します。

電話回線につなぐ

本機に内蔵しているモデムを電話回線につなぎます。
詳しくは、「はじめにお読みください」の「カスタマー登録する／インターネットに接続する」および「内蔵モデムを電話回線につなぐ」（103ページ）をご覧ください。

インターネット接続サービスを提供する会社と契約する

詳しくは、「はじめにお読みください」の「カスタマー登録する／インターネットに接続する」、および「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

インターネットに接続する

詳しくは、「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

外出先でインターネットにアクセスする

ここでは、外出先でインターネットにアクセスする方法の概略を説明します。アクセスできるようにしておくと、外出先でどうしても電子メールを送信したいときや、電子メールを確認したいときに便利です。

外出先でインターネットにアクセスするには、4通りの方法があります。

- 公衆電話を使ってアナログ接続する
- 公衆電話を使ってISDN接続する
- デジタル携帯電話を使って接続する
- PHSを使って接続する

公衆電話を使ってアクセスする

デジタル携帯電話やPHSを使ってアクセスする

公衆電話を使ってアナログ接続する

本機はモデムを内蔵しているので、モジュラジャックのある公衆電話に直接つなげます。
テレホンコードとモジュラジャック付きの電話機さえあれば、どこからでもアクセスできますが、アナログ接続のため、使用する電話機によってはすぐに接続が切れてしまうことがあります。

1 **本機と電話機のアナログポートをテレホンコードでつなぐ。**

2 **電話機の「データ通信」ボタンを押す。**

3 **テレホンカードを入れる。**

4 **通信用のソフトウェアを起動する。**
これでインターネットにアクセスできます。

通信を終了するときは

次の2つの方法があります。使用するソフトウェアにあわせて使い分けてください。

- ディスプレイ画面右下のタスクバーのを右クリックして、ショートカットメニューを表示させてから、[切断] を選ぶ。
- 通信用ソフトウェアで、通信を終了するコマンドを実行する。

ご注意

公衆電話のデジタルポートにはつながないでください。故障の原因となります。

公衆電話を使ってISDN接続する

ISDNのTA（ターミナルアダプタ）カードを本機に装着してモジュラジャックのある公衆電話につなぐと、外出先でもISDN経由で接続できます。
通信速度が速く（最大64kbps）、安定した状態でアクセスできますが、市販のISDNのターミナルアダプタカードが必要です。

ご注意

アクセスしようとしているプロバイダがISDNに対応しているかどうかをあらかじめ確認しておいてください。プロバイダによっては、通常のアナログ接続用とISDN接続用で異なる電話番号を用意していることがあります。

デジタル携帯電話を使って接続する

本機をデジタル携帯電話に接続して、インターネットにアクセスできます。デジタル携帯電話が使えるところではどこからでも、また移動中でもアクセスできますが、通信速度が遅く、携帯電話にあわせた接続キットが必要です。

ご注意

接続キットや接続のしかたについて詳しくは、電話会社にお問い合わせください。

PHSを使って接続する

本機をPHSに接続して、インターネットにアクセスできます。
通信速度が速く、PHSが使えるところではどこからでもアクセスできますが、PHSにあわせた接続キットが必要です。また、PIAFS方式で接続するときは、契約しているプロバイダなどがPIAFSに対応している必要があります。

ご注意

- 接続キットや接続のしかたについて詳しくは、電話会社にお問い合わせください。本機のPCカードスロットに直接装着できるPHSもあります。
- PIAFS方式でアクセスするときは、接続しようとしている電話番号がPIAFS方式に対応しているかどうかをあらかじめ確認しておいてください。

外出先で使うときのヒント

プログラマブルパワーキーに電子メールソフトウェアの起動からメールの確認までを登録しておくと、ボタン1つで電子メールの確認ができるので便利です。詳しくは、「ワンタッチで電子メールを確認する」(77ページ)をご覧ください。

情報をメモして活用する

本機のメモ機能について

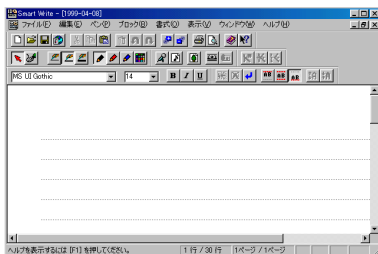
本機には、情報を気軽にメモして活用するために、次の2種類のソフトウェアを付属しています。

- Smart Write：文字、画像、音声でメモをとるときに便利です。（86ページ）
- Smart Label：音声と画像でメモをとるときに便利です。（91ページ）

文字でメモをとる（Smart Write）

ちょっとしたメモをとりたいときなどに便利です。
「Smart Write」ソフトウェアを使いこなすために、「Smart Write」のヘルプもあわせてご覧ください。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、**［VAIO］**にポインタを合わせ、［ステーショナリ］を選び、**［Smart Write］**をクリックする。**
「Smart Write」ソフトウェアが起動します。

2 **キーボードを使って文字を入力する。**

静止画でメモをとるには

本機に接続したデジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器から、静止画（ビットマップファイル）を取り込んで、文字や音声と一緒にメモできます。

1 「Smart Write」のツールバーにある をクリックする。
「Smart Capture」ソフトウェアが起動します。

2 キャプチャモード切替ボタンで［STILL］（スチルモード）を選ぶ。

3 「Smart Write」のツールバーにある をクリックする。
静止画が挿入されます。

動画でメモをとるには

本機に接続したデジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器から、動画を取り込んで、文字や音声と一緒にメモできます。

1 「Smart Write」のツールバーにある をクリックする。
「Smart Capture」ソフトウェアが起動します。

2 キャプチャモード切替ボタンで［MOVIE］（ビデオメールモード）を選ぶ。

3 「Smart Write」のツールバーにある をクリックする。
録画が始まります。

4 もう一度 をクリックする。
録画が終了して動画が挿入されます。

動画を再生するには

挿入された動画のイメージ画像をダブルクリックします。

音声でメモをとるには

音声を文字や画像と一緒にメモできます。

1 **「Smart Write」のツールバーにある　をクリックする。**
「録音」画面が表示されます。

2 **［録音］をクリックしてマイクに向かって話す。**
録音が始まります。

3 **［録音終了］をクリックして録音を停止する。**

4 **［OK］をクリックする。**
音声が挿入されます。

音声メモを再生するには

をダブルクリックします。

文字、音声メモ、画像メモを消すには

BackspaceキーまたはDeleteキーを押します。

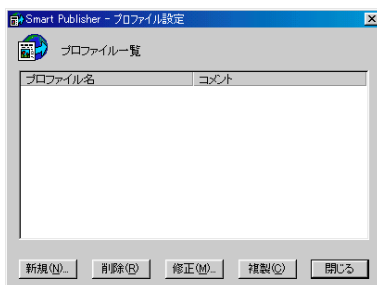
「Smart Write」を終了するには

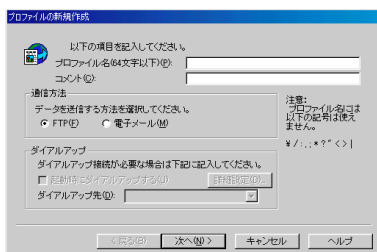
［ファイル］メニューから［アプリケーションの終了］を選びます。

作成したデータをインターネットに送信する（Smart Publisher）

「Smart Write」ソフトウェアで作成したデータを簡単にインターネットに送信することができます。
インターネットに送信する前にインターネットに接続する設定を完了している必要があります。インターネットへの接続については、「インターネットに接続する」（82ページ）、または別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。
また、「Smart Publisher」ソフトウエアを使こなすために、「Smart Publisher」のヘルプもあわせてご覧ください。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［VAIO］にポインタを合わせ、［ステーショナリ］を選び、［Smart Publisher］をクリックする。**

「Smart Publisher」ソフトウェアが起動し、「プロファイル設定」画面が表示されます。

2 **［新規］をクリックする。**

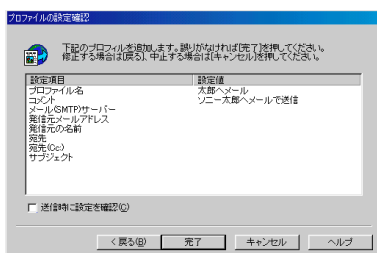
「プロファイルの新規作成」画面が表示されます。

3 必要な情報を入力し、［次へ］をクリックする。

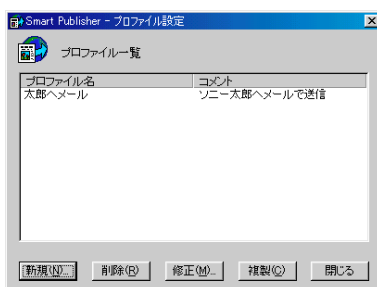
プロファイル名、コメントを入力し、データ通信方法をFTPと電子メールから選びます。

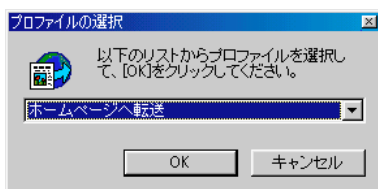
データ送信の際にダイヤルアップ接続が必要な場合には、接続先を選びます。

［次へ］をクリックすると、通信方法で選んだ方法の設定画面が表示されます。

4 必要な情報を入力し、［次へ］をクリックする。

引き続き画面の指示に従って操作します。前の画面を見るには［<戻る］をクリックします。最後に「プロファイルの設定確認」画面が表示されます。

5 ［完了］をクリックする。

プロファイル一覧に作成したプロファイルが表示されます。

6 「Smart Write」ソフトウェアを起動し、ツールバーにあるをクリックする。

「Smart Publisher」ソフトウェアが起動します。

7 プロファイルを選んで、[OK] をクリックする。

選んだプロファイルに従い、送信されます。

「Smart Publisher」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Publisher」のヘルプをご覧ください。

音声でメモをとる（Smart Label）

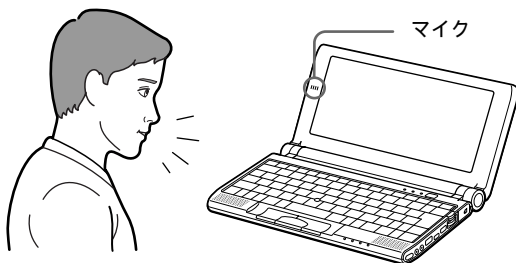
「Smart Label」ソフトウェアを使うと、電話中にとっさに番号をメモしたいというときなど、相手の言う電話番号を本機の前で復唱するだけで簡単にメモがとれます。

「Smart Label」ソフトウェアで作成したメモ、録音したメモ、デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器から取り込んだ静止画／動画は自動的に「ラベル」として、デスクトップに貼りつけられます。また、「Time Viewモード」を選択すると、過去に削除したラベルの内容を見たり、未来にラベルを置くこともできます。詳しくは、「Smart Label」のヘルプをご覧ください。

1 [スタート] ボタンをクリックし、[VAIO] にポインタを合わせ、[ステーショナリ] を選び、[Smart Label] をクリックする。

「Smart Label」ソフトウェアが起動し、ディスプレイ画面右下のタスクバーに が表示されます。

2　タスクバーの を右クリックして［新規ラベルの追加］にポインタを合わせ、［サウンドラベル］を選んでクリックする。

ラベルが表示され、音声が録音されます。本機のマイクに向かって話してください。設定により、最大で1,000秒間の録音ができます。

3　録音を終了するときは、■をクリックする。

録音の終了したラベルは、デスクトップの好きな場所に貼り付けることができます。

メモを再生するには

ラベルをクリックし、▶IIをクリックします。

音声メモまたは動画メモが再生されます。再生を一時停止するには▶IIを、停止するには■をクリックします。

静止画を取り込むには

本機に接続したデジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器から静止画を取り込めます。

1　ディスプレイ画面右下のタスクバーの を右クリックし、メニューの「Smart Captureを表示」をクリックする。

「Smart Capture」ソフトウェアが起動します。

2　キャプチャモード切替ボタンで「STILL」（スチルモード）を選ぶ。

次のページにつづく

3 ［CAPTURE］**をクリックする。**

ラベルが選択されているときはそのラベルに静止画が取り込まれ、ラベルが選択されていないときは［はい］をクリックすると新しいラベルが作成されて静止画が取り込まれます。

動画を取り込むには

本機に接続したデジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器から動画を取り込めます。

1 **ディスプレイ画面右下のタスクバーの を右クリックし、メニューの「Smart Captureを表示」をクリックする。**

「Smart Capture」ソフトウェアが起動します。

2 **キャプチャモード切替ボタンで「MOVIE」（ビデオメールモード）を選ぶ。**

3 ［CAPTURE］**をクリックする。**

ラベルが選択されているときはそのラベルに録画が取り込まれ、ラベルが選択されていないときは［はい］をクリックすると新しいラベルが作成されて録画が始まります。

4 **再度**［CAPTURE］**をクリックする。**

録画が終了します。

取り込んだ画像をオリジナルの大きさで表示するには

i.LINK対応機器から取り込んだ画像は、ラベルの大きさに合わせて縮小して表示されます。オリジナルの大きさで表示するには、表示するラベルのメニューボタンをクリックして［画像］を選び、さらにサブメニューから「オリジナルのサイズに設定」を選びます。

メモを消すには

消したいラベルを右ボタンでクリックし、［ラベル削除］をクリックします。ラベルが消去されます。

「Smart Label」のラベルに文字や画像データを追加したりすることもできます。詳しくは「Smart Label」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

「Smart Capture」を終了するには

ディスプレイ画面右下のタスクバーの を右クリックし、メニューの「Smart Captureを表示」のチェックをはずします。

他の機器とデータをやりとりする

本機で作成したデータを他機に送ったり、他機で作成したデータを本機で受け取ったりすることができます。自宅や職場などで複数のパソコンをお使いのときは、作成したデータをやりとりすることで、本機をより活用いただけます。また、データ交換の方法を工夫することで、Macintoshなど、Windowsが動作しない機種とデータをやりとりすることもできます。

例えば...

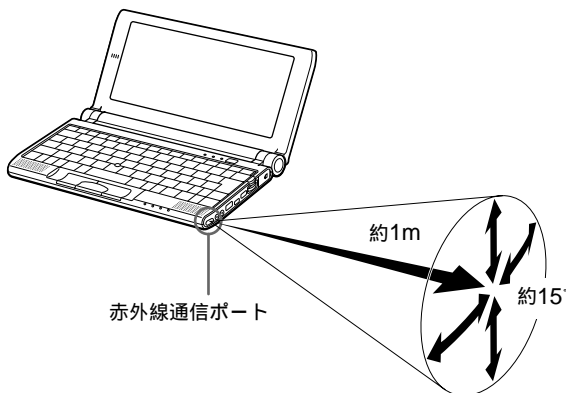
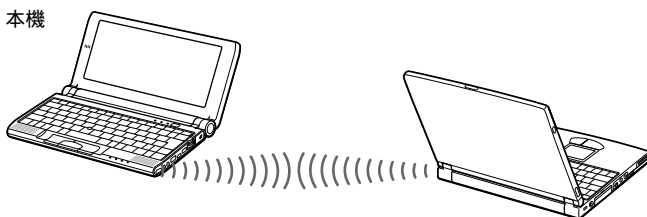
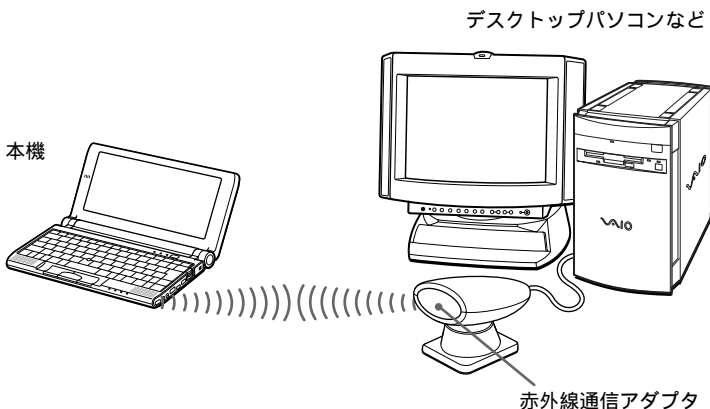
外出するときに、必要なデータだけを職場のデスクトップパソコンから本機に読み込んで、外出先でデータを修正します。職場に戻ってから、本機で修正したデータをデスクトップパソコンに戻して、データを加工したり保存したりできます。

ここでは、データ交換で使われている、以下の方法について説明します。

- 赤外線（IrDA規格）を使ってやりとりする
- ネットワークを使ってやりとりする
- Smart Connectを使ってやりとりする
- PCカードを使ってやりとりする

赤外線（IrDA）でデータをやりとりする

本機右側面の赤外線通信ポートを使って、IrDA対応の赤外線通信ポートの付いた他の機器とデータをやりとりできます。ケーブルをつながずにデータの送受信ができるため、ケーブルをつなぐ手間が省けます。
パソコンだけでなく、赤外線通信ポートを持っている機器であればデータをやりとりできます。

次のページにつづく

他のノートパソコンとデータをやりとりするときは、下図のように赤外線ポートどうしが向き合うように配置してください。

赤外線通信ポートのない機器でも、別売りの赤外線通信アダプタを取り付けると、本機と赤外線でデータをやりとりできるようになるものもあります。
詳しくは、お持ちの機器の販売店にご相談ください。

赤外線でデータをやりとりするには

実際にデータをやりとりするには、本機に付属のソフトウェアを使います。

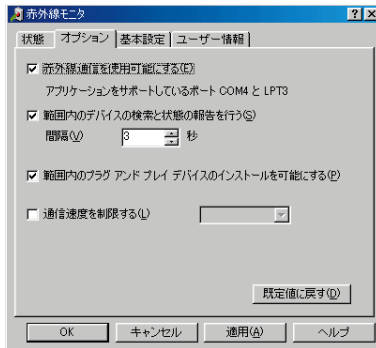
- 「PictureGear」：デジタルスチルカメラなどから画像データを取り込む。
- Windowsの赤外線転送：パソコン間で文書などのデータをやりとりする。

工場出荷時の設定では、赤外線でデータをやりとりすることができません。次の操作を行って、赤外線通信が使えるように設定してください。

次のページにつづく

1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

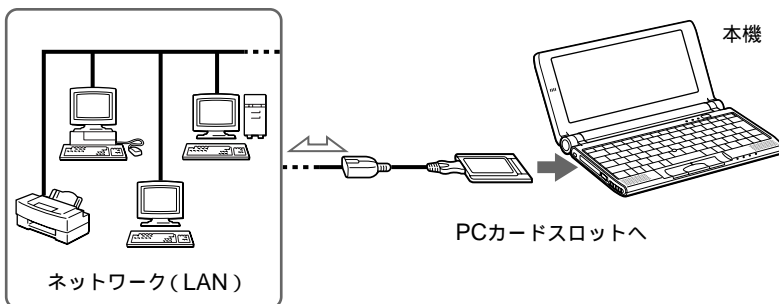
2 **［コントロールパネル］の中の［赤外線モニタ］をダブルクリックする。**

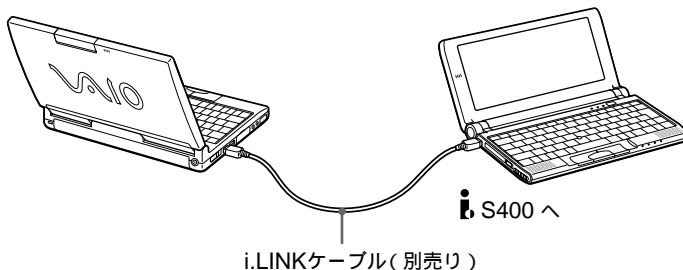
3 **［オプション］タブをクリックし、「赤外線通信を使用可能にする」をチェックする。**

4 **［OK］をクリックする。**

ご注意

- 手順3で「赤外線通信を使用可能にする」をチェックすると、一定時間ごとに通信相手を探すため、バッテリの消耗が早まります。バッテリの消耗を防ぐため、データのやりとりが終わったあとは、「赤外線通信を使用可能にする」のチェックをはずしておくことをおすすめします。
- 赤外線通信の設定を変更するときは、手順3で設定するか、ディスプレイ画面右下のタスクバーのをクリックし、「赤外線モニタ」を起動して設定してください。タスクバーのを右クリックして赤外線通信の設定を変更しないでください。
- データを正しく送受信するために、赤外線でデータをやりとりするときは以下の点にご注意ください。
  – 通信を行う機器を近づけ過ぎない。
  – 赤外線通信ポートは真正面で向き合うように配置する。
  – 赤外線通信ポート間に物を置かない。
  – 強い直射日光の当たる場所や、インバーター蛍光灯の下では赤外線通信を避ける。

ネットワーク（LAN）につないでデータをやりとりする

本機を職場などのネットワーク（LAN）に接続して、ネットワーク内の他の機器とデータをやりとりできます。
本機とネットワークをつなぐには、ネットワークPCカードが必要です。この場合、接続したいネットワークに合わせた種類のネットワークカードをお使いください。
ネットワークに接続するために必要な周辺機器や設定については、職場などのネットワークのシステム管理担当者にご相談ください。

Smart Connectを使ってデータをやりとりする

Smart Connectに対応したVAIOと本機をi.LINKケーブルで接続し、お互いのファイルをコピーしたり、削除、編集などを行うことができます。また、接続先のVAIOにつないだプリンタを使って印刷することもできます。
詳しくは、Smart Connectの取扱説明書およびオンラインマニュアルをご覧ください。

i.LINKについて詳しくは、「i.LINKとは？」（108ページ）をご覧ください。

ご注意

本機で「Smart Capture」ソフトウェアを起動中に、Smart Connectを使って、アナログ／DV変換機能を搭載したVAIOデスクトップパソコンとデータをやりとりする場合は、あらかじめデスクトップパソコンで下記の設定を行っておいてください。

1. **［スタート］ボタンをクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、**［Giga Pocket］**を選び、［アナログ**DV**スイッチャー］をクリックする。**
2. ［i.LINK**端子を使用する］を選ぶ。**
   Smart Connect使用中は、「アナログDVスイッチャー」を起動したままにしてください。

PCカードを使ってデータをやりとりする

PCカードを使って、PCカードに対応した機器とデータをやりとりできます。PCカードについて詳しくは、「PCカードを使う」（121ページ）をご覧ください。
本機やPCカードに対応した機器で作成したデータをメモリカードに保存して、データをやりとりできます。

音楽CD／ビデオCDを再生する

音楽CDやビデオCDを再生して楽しむことができます。音楽CDを再生して音楽を聞きながら、他のソフトウェアを操作することもできます。
（一部ソフトウェアを除きます。）
本機で音楽CDなどを再生するには、別売りのCD-ROMドライブ（PCGA-CD51）またはCD-Rドライブ（PCGA-CDR51）が必要です。
接続について詳しくは、「CD-ROMドライブをつなぐ」（112ページ）をご覧ください。

ご注意

別売りのCD-ROMドライブPCGA-CD5をお使いの場合、本機の内蔵スピーカーから音は出ません。音楽CDを聞くには、ヘッドホンや外部スピーカーなどをCD-ROMドライブにつなぎ、［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックします。「コントロールパネル」が表示されたら、［マルチメディア］をダブルクリックしてから［音楽CD］タブをクリックし、［このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする］のチェックをはずしてください。

Media Barで音楽CD／ビデオCDを再生する

「Media Bar」を使うとMIDIファイルなどの音声・動画ファイルを再生することもできます。「Media Bar」を使うには以下の流れに沿って行います。

画面上の［AV再生の設定］をダブルクリックする

「Media Bar」を設定するための画面が表示されます。

画面の指示にしたがって操作する

画面の指示にしたがって必要な項目を設定します。

再生する

設定が終了すると、「Media Bar」操作画面が表示されます。
「Media Bar」の使いかたについては、「Media Bar」の取扱説明書をご覧ください。

いろいろなソフトウェアを使う

本機は、さまざまな用途に応じたソフトウェアを付属しています。これまで説明してきた使いかたの他にも、幅広く本機を活用していただけます。
ここでは、付属のソフトウェアの中から一部をご紹介します。

❑ **i.LINK対応機器から動画を取り込む**

「DVgate motion」ソフトウェアを使います。
本機のi.LINKコネクタにi.LINK対応のデジタルビデオカメラレコーダーなどをつなぐことにより、動画を本機に取り込むことができます。
使いかたについて詳しくは、「DVgate motion」の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

「DVgate motion」ソフトウェアを使うには、データスペースとしてD:ドライブが必要です。本機は、ハードディスクがC:ドライブとD:ドライブの2つに分かれています（工場出荷時）。操作のしかたなど、詳しくは「パーティションサイズを変更する」（173ページ）をご覧ください。

❑ **i.LINK対応機器から静止画を取り込む**

「DVgate still」ソフトウェアを使います。
本機のi.LINKコネクタにi.LINK対応のデジタルビデオカメラレコーダーなどをつなぐことにより、静止画を本機に取り込むことができます。
使いかたについて詳しくは、「DVgate still」の取扱説明書をご覧ください。

❑ **i.LINK対応機器から画像を取り込む**

「Smart Capture」ソフトウェアを使います。
本機のi.LINKコネクタにi.LINK対応のデジタルビデオカメラレコーダーなどをつなぐことにより、画像を本機に取り込むことができます。
取り込んだ静止画を表示したり、動画を再生できます。また、それらの画像を電子メールに添付して送ることもできます。
使いかたについて詳しくは、「Smart Capture」の取扱説明書をご覧ください。

❑ 画像データを管理する

「PictureGear」ソフトウェアを使います。
デジタルスチルカメラなどから読み込んだいろいろな種類の画像データを表示し、まとめて管理できます。
使いかたについて詳しくは、「PictureGear」の取扱説明書をご覧ください。

❑ 仮想世界を散歩する

「さぱり（3Dマルチユーザーチャットワールド）」ソフトウェアを使います。インターネット上に点在する仮想世界を、現実の世界のように散歩します。また、「さぱり」の「公園」や「コースト」などのマルチユーザー対応の仮想世界ではチャット（会話）も楽しめます。使いかたについて詳しくは、「さぱり」のオンラインマニュアルをご覧ください。

このほかにも、以下のような使いかたができます。

- インターネットのホームページを見る
- 辞書を使う
- ゲームを楽しむ

別冊の「付属ソフトウェア一覧」には、本機に付属のソフトウェアをまとめてご紹介しています。そちらもあわせてご覧ください。

拡張編

この章では、本機と電話回線やプリンタなどの
周辺機器との接続のしかたなどを説明します。

内蔵モデムを電話回線につなぐ

本機には、ファックスモデムが内蔵されています。付属のテレホンコードを使って本機を電話回線につなぐと、インターネットなどのデータ通信をしたり、ファックスを送受信できるようになります。
内蔵モデム（V.90、K56flex対応）の通信速度は、データ受信時最大56kbps、データ送信時最大33.6kbpsです。電話回線の状況によって通信速度は変化することがあります。

ご注意

使用可能な回線は、一般電話回線です。PBX回線には接続しないでください。

1 お使いの電話回線のダイヤル方法を確認する。

電話機のダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がし、「カチカチ」という音がしないときはトーン式ダイヤルです。ボタンではなくダイヤルを回す電話機またはダイヤルボタンを押すたびに「カチカチ」という音がする電話機は、パルス式ダイヤルです。

2 モデムのダイヤル方法を設定する。

① **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

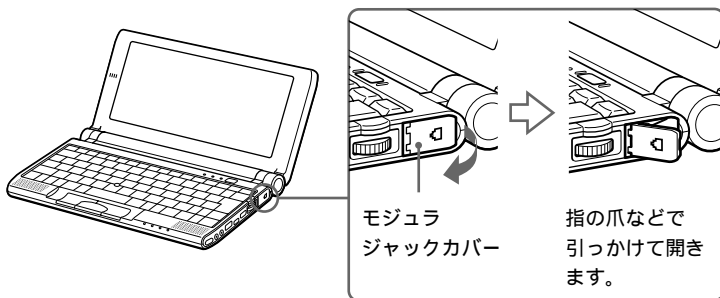
② **「コントロールパネル」の中の［モデム］をダブルクリックする。**

③ **［ダイヤルのプロパティ］をクリックする。**

④ **「ダイヤル方法」から、上記手順1で確認したお使いの電話回線のダイヤル方法に合わせて［トーン］または［パルス］を選択する。**

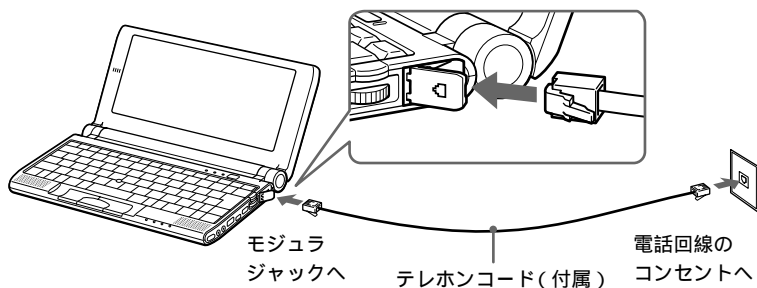
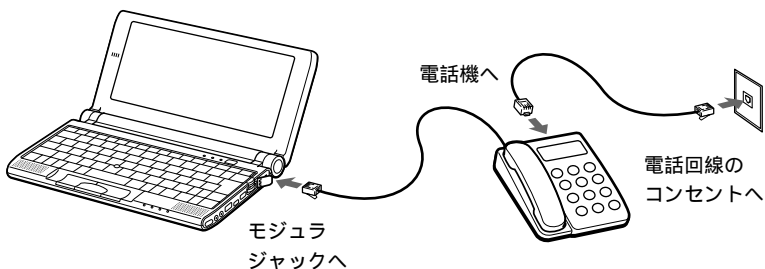
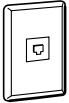
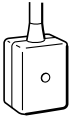
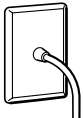
⑤ ［OK］**をクリックして「ダイヤルのプロパティ」ダイアログボックスを閉じる。**

⑥ ［OK］**をクリックして「モデムのプロパティ」ダイアログボックスを閉じる。**

3 モジュラジャックカバーを開ける。

ご注意

カバーを開く際は、強く引っ張りすぎないようにご注意ください。引きすぎると破損の原因となります。

4 電話回線につなぐ。

モジュラジャックは本機の後ろ側から、モジュラプラグのつめがカチッとロックするまで斜めに差し込みます。

モジュラジャックが2つある電話機をお使いのときは、下図のようにつなぎます。

ご注意

接続したあとに、使用する電話、ファックス、通信などの設定を、ソフトウェアで設定する必要があります。詳しくは、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

電話回線についてのご注意

- 使用可能な回線は、一般電話回線です。PBX回線には接続しないでください。
- ISDN回線にデジタルで接続する場合は、PCカードのTA（ターミナルアダプタ）カードまたはUSB接続のTAが必要です。
- 本機の内蔵モデムは、通信相手が応答しない場合、60秒で電話を切るように設定されています。30秒以内に電話を切るようにモデムの設定を変更することもできますが、この場合、交換機の接続遅延時間によっては接続できないことがあります。設定を変更する場合でも、30秒以上に設定するようおすすめします。
- 契約したプロバイダがV.90またはK56flexに対応している場合、通信状態が極めて良好なときは最大56Kbpsで通信が可能です。ただし、電話回線の状態によって、通信速度は変化します。V.90、K56flexは自動的に選択されます。
- モデムのプロパティからは国選択ができますが、本機を使用する場合は必ず日本国モード（工場出荷時のまま）でご使用ください。
  他国のモードをご使用になると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

電話回線のコンセントの種類

電話回線のコンセントは以下の4種類があります。ご自宅、外出先のコンセントに合った方法で接続してください。

コンセントの型	接続に必要なソニーの別売りアクセサリ
モジュラ型	不要（そのままつなぐことができます）
3ピンジャック型	テレホンモジュラアダプタTL-30
直付け型ローゼット[1]	モジュラローゼットTL-32CRなど
埋め込み型[2]	テレホンモジュラジャックコンセントTL-31

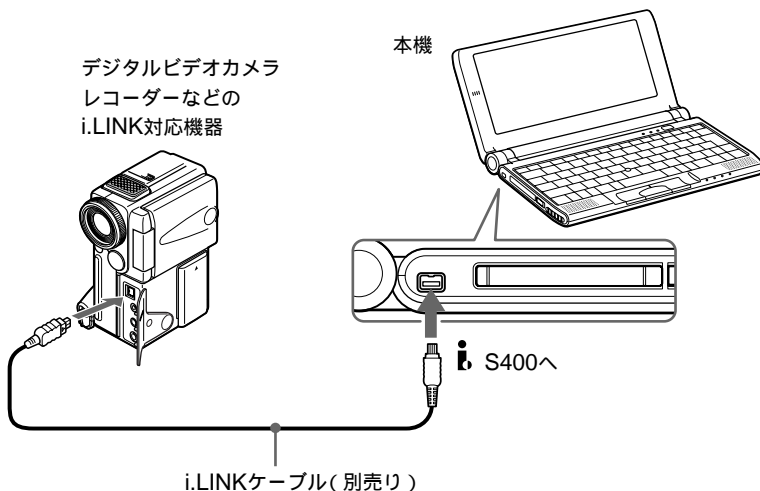
1) 直付けタイプからモジュラジャックへの交換工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

2) 電話工事担任者による取り付け工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

ご注意

ビジネスホン、ホームテレホンなどの電話機やドアホン付きの電話機をお使いのときは、工事が必要となる場合があります。電話機を取り付けた業者にご相談ください。

i.LINK対応機器をつなぐ

本機左側面のi.LINK（IEEE1394）コネクタを使ってデジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器に接続し、画像をデジタルのまま取り込むことができます。

i.LINK対応機器として、DV端子を備えたソニー製のデジタルビデオカメラレコーダーを接続することができます。

ご注意

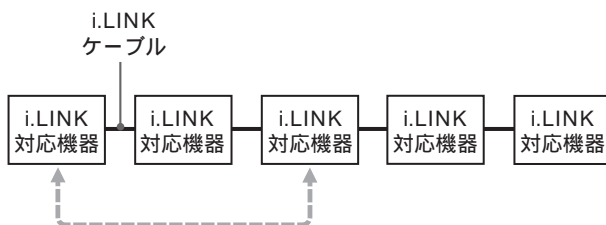
- i.LINKを使った接続や操作には、機器によって異なるものがあります。接続に必要なケーブルや、操作できる機器について詳しくは、「必要なi.LINKケーブル」（111ページ）および「本機と操作できるi.LINK対応機器」（111ページ）をご覧ください。
- 一度に接続できるデジタルビデオカメラレコーダーは1台のみです。ソフトウェアの制限により、同時に2台のデジタルビデオカメラレコーダーを接続することはできません。
- 本機のi.LINKコネクタは、i.LINK対応機器に電源を供給しません。i.LINKコネクタからの電源供給が必要な一部の機器は、正しく使用できないことがあります。
- 本機のi.LINKコネクタは最大400Mbpsのデータ転送に対応していますが、実際の転送速度は接続したi.LINK対応機器の転送速度により変わります。
- 接続のしかたや画像の取り込みかたは、接続するi.LINK対応機器や使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、i.LINK対応機器の取扱説明書や、本機に付属している「Smart Capture」や「DVgate still」などの各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

i.LINKとは？

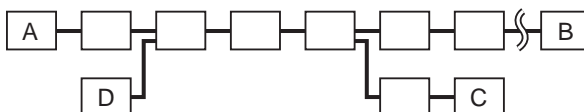
i.LINKは、i.LINKコネクタを持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインタフェイスです。
i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、さまざまな操作やデータのやりとりができます。
また将来、さらに多様な機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。
複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけではなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。このため、機器を接続する順序を気にする必要はありません。
ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

- i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
  IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。
- 著作権保護に対応したi.LINK対応機器には、デジタルデータのコピー・プロテクション技術が採用されています。
  この技術は、DTLA（The Digital Transmission Licensing Administrator）というデジタル伝送における著作権保護技術の管理運用団体から許可を受けているものです。
  このDTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器間では、コピーが制限されている映像／音声／データにおいて、i.LINKでのデジタルコピーができない場合があります。
  また、DTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器と搭載していない機器との間では、i.LINKでデジタルの映像／音声／データのやりとりができない場合があります。

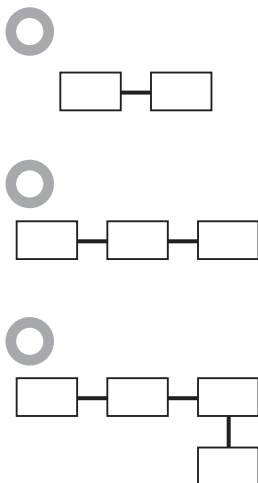
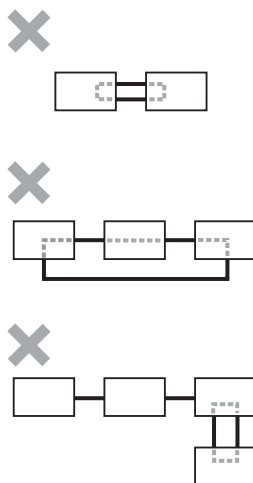
i.LINKでの接続について

i.LINK対応機器は、i.LINKケーブルで数珠つなぎにして接続します。このような接続のしかたを「デイジー・チェーン」と呼びます。

2つの機器の間に他の機器がつながれていても、操作やデータのやりとりを行うことができます。

途中から分岐してつなぐこともできます

- i.LINKコネクタを3つ以上持つ機器の場合、途中から分岐してつなぐこともできます。
- i.LINK対応機器は、本機を含めて63台まで接続できます。ただし、一番長い経路の接続は17台までです。(i.LINKケーブルは、一番長い経路に対して連続して16本まで使用することができます。)
  ひとつの経路に対して使用したi.LINKケーブルの数を「ホップ」と呼びます。例えば、下図のA→Cの経路は6ホップ、A→Dの経路は3ホップとなります。

A→B、A→C、A→D、B→C、B→D、C→D、**いずれの経路も最大17台の機器を接続できます(最大16ホップ)。**

接続が輪にならないようにご注意ください

デジタル信号は、接続したすべてのi.LINKケーブルに流れます。信号を出力した機器に同じ信号が戻らないよう、接続が輪にならないようにつないでください。接続が輪（環状）になることを「ループ」と呼びます。

接続についてのご注意

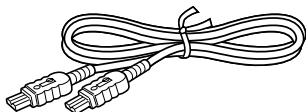
- パソコンなど一部のi.LINK対応機器の中には、電源が切られているとデータを中継しない機器があります。i.LINKでの接続の際は、接続する機器の取扱説明書もご覧ください。
- i.LINK対応機器には、その機器が対応している最大データ転送速度がi.LINKコネクタの周辺に表記されています。i.LINKの最大データ転送速度は、約100／200／400Mbpsが定義されており、それぞれS100、S200、S400と表記されます。最大データ転送速度が異なる機器を接続した場合や、機器の仕様により、実際の転送速度が表記と異なることがあります。

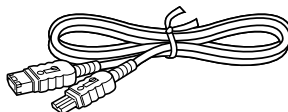
必要なi.LINKケーブル

ソニーのi.LINKケーブルをお使いください

i.LINK対応機器の接続には、本機で操作できるi.LINK対応機器に付属のi.LINKケーブルまたは、下記のソニー製i.LINKケーブル（別売り）をお使いください。

4ピン⟷4ピン

- VMC-IL4415（1.5 m）
- VMC-IL4435（3.5 m）

4ピン⟷6ピン

- VMC-IL4615 (1.5 m)
- VMC-IL4635 (3.5 m)

ご注意

DVケーブルはご使用になれません。

本機で操作できるi.LINK対応機器

本機では、下記のi.LINK対応機器と組み合わせて操作できます。
（1999年8月10日現在）

- i.LINKコネクタを持つソニーパーソナルコンピュータ
- i.LINKコネクタを持つソニーノートブックコンピュータ*

* 別売りのドッキングステーションやポートリプリケーターを取り付ける必要があるモデルもあります。取り付けかたについて詳しくは、お使いのノートブックコンピュータの取扱説明書をご覧ください。

- ソニーが1999年7月末日までに発売したDV端子付きの家庭用DV機器（メディアコンバーターおよびDigital 8デジタルビデオカメラレコーダーを含む）

ご注意

本機はDTLAコピープロテクション技術（108ページ）に対応していないため、デジタルCSチューナーやD-VHSビデオデッキなどのDTLAコピープロテクション技術に対応した機器に接続しても操作することはできません。

CD-ROMドライブをつなぐ

CD-ROMはコンピュータで扱うプログラムやデータを記録した、読みとり専用の記録メディアです。ここでは、別売りのCD-ROMドライブPCGA-CD51の取り付けかたについて説明します。

ご注意

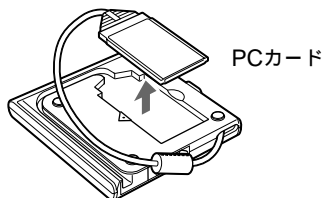
- 接続のしかたは、お使いになるドライブによって異なります。詳しくはお使いになるドライブの取扱説明書をご覧ください。
- 本機で音楽CDを聞くにはPCGA-CD51が必要です。別売りのCD-ROMドライブPCGA-CD5では、音楽CDを聞けません。詳しくは、99ページをご覧ください。
- ドライブによっては本機で使用できないものもあります。詳しくは、VAIOカスタマーリンクまたは販売店にご確認ください。

CD-ROMドライブを取り付ける

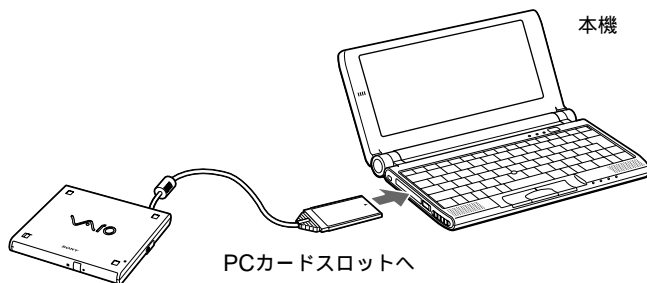
PCGA-CD51はPCカードを使って本機と接続します。

ご注意

プロダクト リカバリ CD-ROMで本機を再セットアップするときは、本機の電源を切ってからCD-ROMドライブを取り付け、CD-ROMドライブ底面のマニュアルイジェクトピンを使ってトレイを開いてリカバリCDを入れてから、本機の電源を入れ直してください。
それ以外のときは、本機の電源を入れたままでもCD-ROMドライブを取り付けることができます。

1 **CD-ROMドライブの底面から、PCカードをはずす。**

2 PCカードを本機に取り付ける。

PCカードのSONYという文字が書かれている面を上にして取り付けます。スロットの奥にあるコネクタに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。カードを挿入すると、イジェクトボタンが出ます。

「マイコンピュータ」内にCD-ROMドライブのアイコンが表示されます。

CD-ROMドライブを取りはずすには

「PCカードを取り出す」（123ページ）の手順に従ってPCカードを取り出します。

ご注意

- CD-ROMドライブのトレイにディスクが入っていないことを確認してから取りはずしてください。
- イジェクトボタンを押してもディスクが取り出せないときは、CD-ROMドライブ底面のピンをマニュアルイジェクト穴に押し込んでください。詳しくは、CD-ROMドライブ（PCGA-CD51）の取扱説明書をご覧ください。

デジタルスチルカメラを使う

デジタルスチルカメラで撮影した画像を本機に取り込めます。
ここではソニーデジタルスチルカメラまたは他の機種をお使いのときの一般的な使いかたを説明します。

ご注意

- 接続のしかたや画像の取り込みかたは、デジタルスチルカメラによって異なります。詳しくは、デジタルスチルカメラの取扱説明書をご覧ください。
- 赤外線で接続するには、赤外線通信を使えるようにする必要があります。詳しくは、「赤外線（IrDA）でデータをやりとりする」（94ページ）をご覧ください。

ソニーデジタルスチルカメラを使う

以下の方法で本機にデータを取り込むことができます。

- “メモリースティック”を使う
- 赤外線を使う

“メモリースティック”でデータを取り込むには

“メモリースティック”に画像を記録するソニーデジタルスチルカメラをお使いのときは、別売りのメモリースティック用PCカードアダプタを使って、本機のPCカードスロットに挿入しデータを取り込みます。

赤外線でデータを取り込むには

赤外線通信機能があるソニーデジタルスチルカメラをお使いのときは、本機とデジタルスチルカメラの赤外線通信ポートが向き合うように設置し、本機にデータを取り込みます。

画像を取り込むには

本機に付属の「PictureGear」ソフトウェアを使って画像を取り込みます。
詳しくは、「PictureGear」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

ソニーデジタルスチルカメラ「MDサイバーショット」をお使いの場合は、「PictureGear」ソフトウェアを使って画像を取り込むことはできません。

他のデジタルスチルカメラを使う

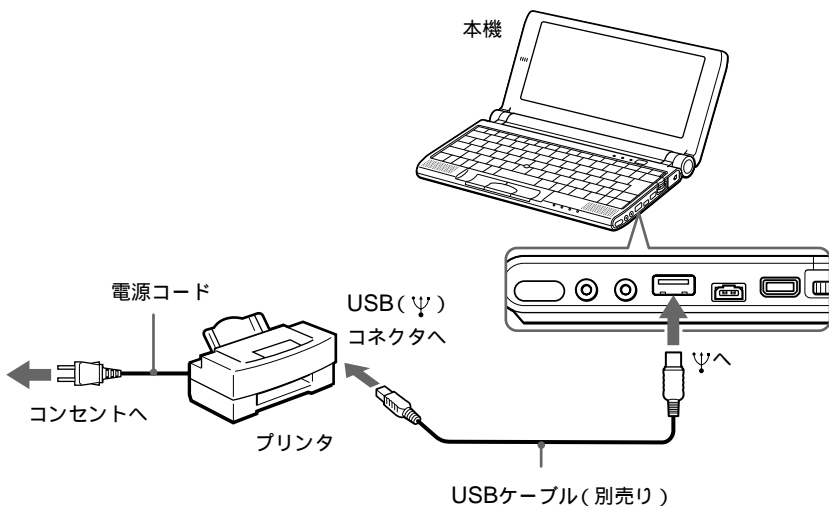
デジタルスチルカメラから撮影した画像を取り込むには、一般的に次の方法があります。お使いの機種に合った方法で、画像を取り込んでください。

- 画像を記録したフロッピーディスクを本機のフロッピーディスクドライブに入れる。ソニーデジタルスチルカメラ「デジタルマビカ」などで記録したフロッピーディスクの画像は、本機に付属の「PictureGear」ソフトウェアで取り込めます。
- PCカードに画像を記録するデジタルスチルカメラのときは、メモリカードを本機のPCカードスロットに差し込む。
  PCカードについて詳しくは、「PCカードを使う」（121ページ）をご覧ください。

ご注意

お使いの機種およびソフトウェアが本機に対応しているかどうかについては、デジタルスチルカメラおよびソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

プリンタをつなぐ

USB対応のプリンタを本機につないで、作成した書類などを印刷できます。

ご注意

- プリンタの取扱説明書などでUSBコネクタの形状をご確認の上、USBケーブルをご購入ください。
- プリンタドライバのインストールおよび設定方法については、お使いのプリンタの製造元にお問い合わせください。

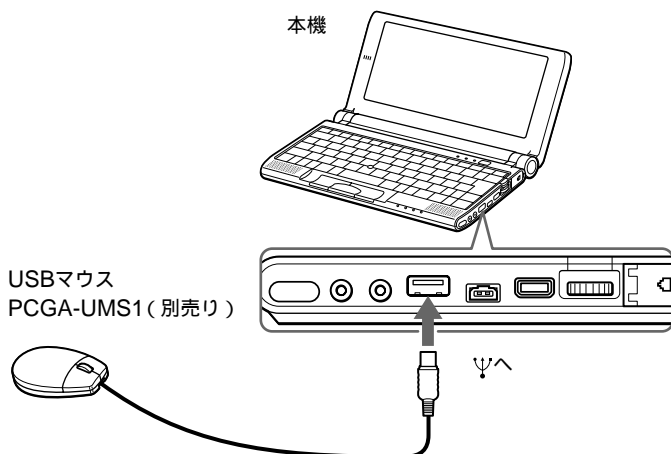
プリンタを使用するには

プリンタに付属のドライバソフトを本機にインストールする必要があります。

ご注意

本機には、プリンタポートが存在しないため、ドライバを本機にインストールする際、プリンタに付属のインストールプログラムから正常にインストールできないことがあります。この場合は、［マイコンピュータ］から［プリンタ］の［プリンタの追加］を選んで、画面の指示にしたがってプリンタのドライバをインストールしてください。

マウスをつなぐ

別売りのソニー製マウス（PCGA-UMS1）を接続できます。

本機にはあらかじめPCGA-UMS1用のドライバがインストールされているので、接続するだけでご使用になれます。

ご注意

シリアルマウスおよびPS/2マウスは使用できません。

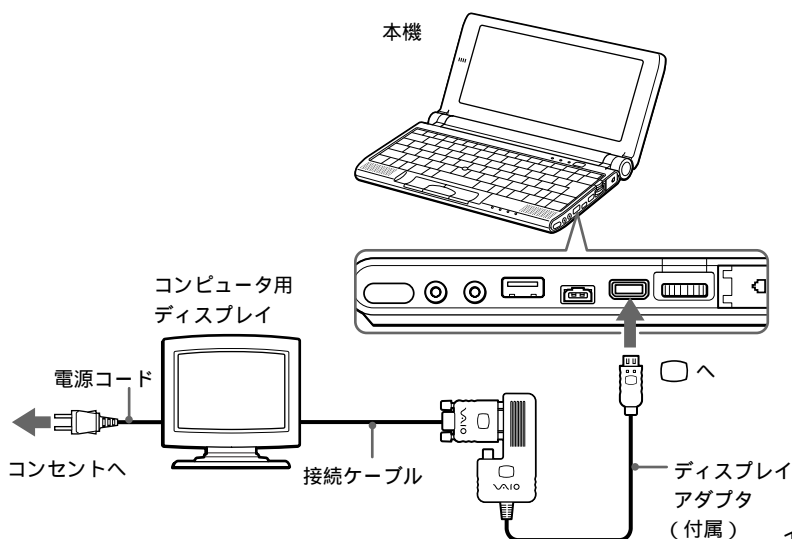
外部ディスプレイやテレビをつなぐ

大きな画面で内容を確認したいときなどは、付属のディスプレイアダプタを使って、本機に外部ディスプレイやテレビを接続します。
下記の操作によって、本機のディスプレイと、接続した外部ディスプレイなどとの表示を切り換えられます。

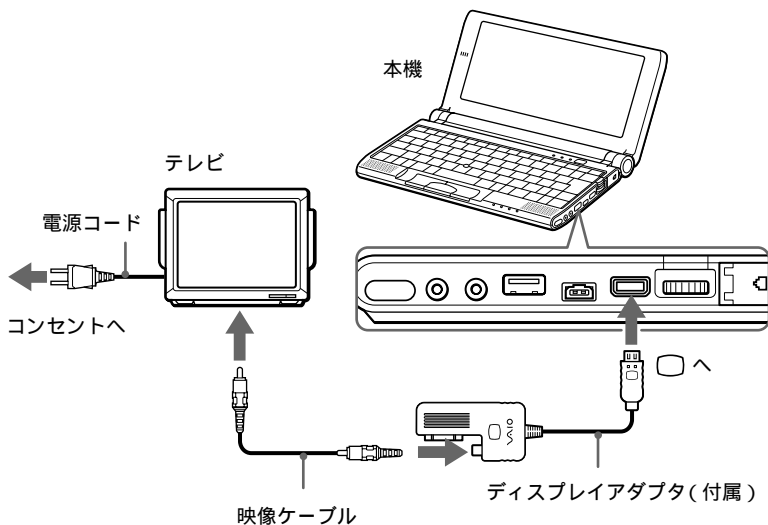
操作	参照ページ
ジョグダイヤル操作	「ジョグダイヤルを使ってこんなことができます」(36ページ)
メニュー画面での設定	「表示するディスプレイを選ぶ」(144ページ)
Fnキー	「Fnキーとの主な組み合わせと機能」(180ページ)

ご注意

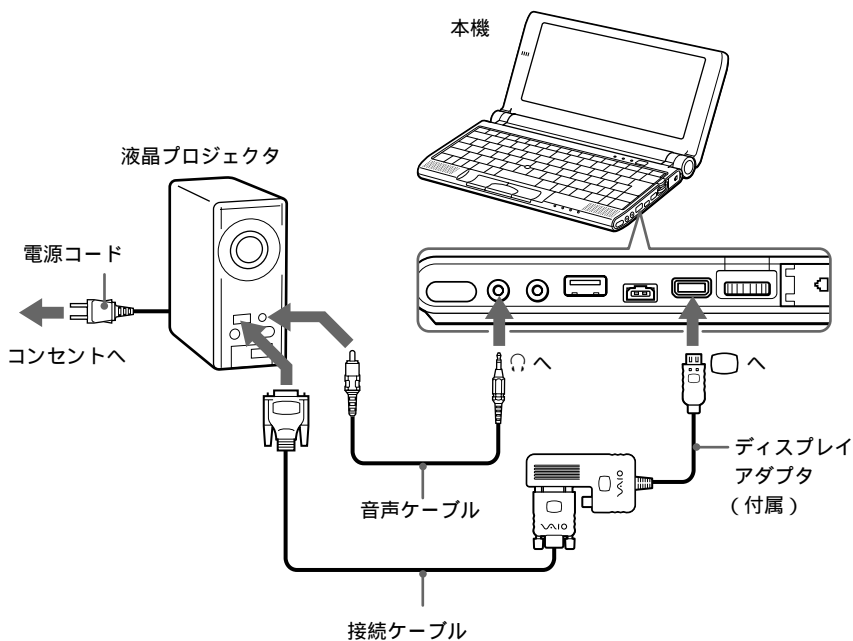
- 本機と接続する機器の電源を切り、コンセントからACアダプタや電源コードを抜いてから接続してください。
- 電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- コンピュータ用ディスプレイやプロジェクタの種類によっては、本機の液晶ディスプレイと同時表示できないものもあります。

コンピュータ用ディスプレイをつなぐには

テレビをつなぐには

i.LINK対応機器から取り込んだ画像をテレビに映して見ることができます。接続してから、テレビの入力切換を「外部入力」に合わせます。

ご注意

- 画面領域のうち640x400ドットがテレビに表示されます。残りの領域はスクロールすることができます。
- 本機のテレビ出力はNTSC方式にのみ対応しています。

液晶プロジェクタをつなぐには

液晶プロジェクタを使うと、プレゼンテーションをするときなどに便利です。接続のしかたは機器によって異なります。詳しくは、液晶プロジェクタの取扱説明書をご覧ください。

ディスプレイアダプタを取りはずすときは

本機の電源を切ってから、アダプタをはずしてください。

メモリを増設する

別売りの専用メモリを増設すると、データの処理速度や、複数のソフトウェアを同時に起動したときの処理速度が向上します。

ご注意

専用メモリの増設は、弊社の指定サービス窓口にて行ってください。
ご自分で増設されて故障が発生した場合は、保証期間中であっても有償修理となります。

PCカードを使う

本機には、PC CardタイプIとタイプIIに準拠したPCカードを挿入できるPCカードスロットがあります。また 、本機のPCカードスロットは16ビットCardおよびCard Busに対応しています（ZV（Zoomed Video）Portには対応していません）。

ご注意

- PCカードによっては本機で使用できないものや、機能が制限されるものがあります。
- PCカードによってはドライバを最新のものにすることによって、不具合が改善される場合があります。PCカードの製造メーカーから最新のドライバを入手してお使いください。

次のページにつづく

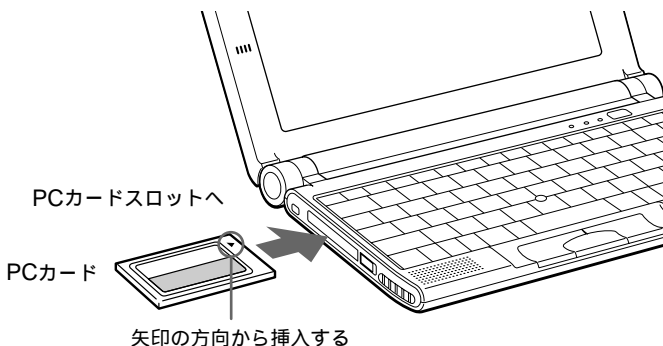
PCカードを取り付ける

PCカードを取り付けるときに本機の電源を切る必要はありません。

PCカードをスロットに挿入する。

スロットの奥にあるコネクタに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。カードを挿入すると、イジェクトボタンが出ます。

イジェクトボタンは、手前に倒して収納してください。

カードがうまく入らない場合は、無理にカードを押し込まずに、カードの挿入方向を確認してからもう1度挿入し直してください。

取り付けたあとの使いかたについては、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- PCカードによっては、「Sony Notebook Setup」を起動し、使用しないデバイスを一時的に無効にする必要のある場合があります。デバイスの設定について、詳しくは、「デバイスを一時的に使用できないように設定する」（130ページ）をご覧ください。
- お使いのPCカードのメーカーが提供する最新のドライバをお使いください。
- 「システムのプロパティ」の［デバイスマネージャ］タブでPCカードに「！」が付いている場合は、ドライバを削除し、再度インストールしてください。

PCカードを取り出す

ご注意

本機の電源が入っているときにカードを取り出す場合は、必ず以下の手順にしたがってください。誤った取り出しかたをすると、システムが正常に動作しない可能性があります。本機の電源が切れているときは手順1～4の操作は不要です。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

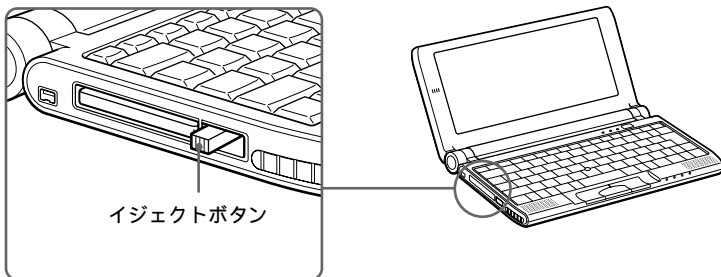
2 **［PCカード］をダブルクリックする。**

3 **リストから取り出したいPCカードをクリックし、次に［停止］ボタンをクリックする。**

4 **「このデバイスは安全に取り外せます。」と表示されたら［OK］ボタンをクリックする。**

5 **PCカードスロットのイジェクトボタンを押す。**

カードがコネクタからはずれます。カードの端を持って、スロットから引き抜いてください。

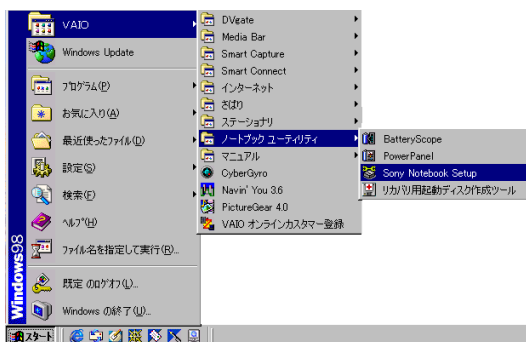
第3章

セットアップ編

Sony Notebook SetupやPowerPanel、BatteryScopeといった付属のユーティリティソフトウェアを使ったり、Windowsの設定を変更することで、ご使用になる環境や好みに合わせた動作環境をつくれます。

本機の情報を確認する

本機の製品情報や、メモリの容量などのシステム情報を確認することができます。

1 ［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［ノートブック ユーティリティ］から［Sony Notebook Setup］をクリックする。

Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

2 ［システム情報］タブをクリックする。

本機の製品情報やハードウェア情報を確認できます。

確認が終わったら

［OK］をクリックします。

メガベースの設定を変更する

メガベース（低音増幅機能、ヘッドホン使用時のみ）の設定変更や効果の確認ができます。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［ノートブック ユーティリティ］から［Sony Notebook Setup］をクリックする。**

Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

2 **［メガベース］タブをクリックする。**

メガベースの設定項目が表示されます。

3 **好みにあわせて設定を変更する。**

メガベースのオン、オフの切り換えができます。また、「サウンドファイル」のリストからサンプルを選び、再生しながら切り換えると、メガベースによる低音増幅機能の効果を確認できます。

4 **［OK］をクリックする。**

Fnキーと Bキーを同時に押しても、メガベースのオン／オフを切り換えることができます。詳しくは、「Fnキーとの主な組み合わせと機能」（180ページ）をご覧ください。

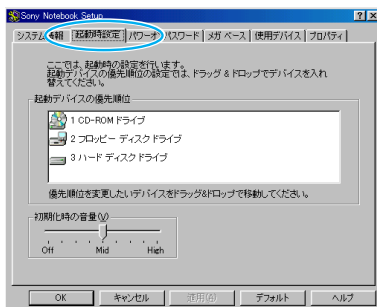
起動時の設定を変更する

起動ドライブや、起動時に流れる音楽の音量の設定変更ができます。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［ノートブック ユーティリティ］から［Sony Notebook Setup］をクリックする。**

Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

2 **［起動時設定］タブをクリックする。**

設定画面が表示されます。

3 **好みにあわせて設定を変更する。**

– 起動デバイス：順序を変更したいドライブを上下にドラッグします。リスト表示中の上にあるドライブから先に本機が起動します。
– 初期化時の音量：スライダを使って、起動時に流れる音楽の音量を設定できます。

4 **［OK］をクリックする。**

次に電源を入れるときは、手順3で設定した順位の高いドライブから本機が起動し、設定した音量で音楽が流れます。

本機をCD-ROMドライブから起動するには

別売りのCD-ROMドライブ（PCGA-CD51およびPCGA-CD5）またはCD-Rドライブ（PCGA-CDR51）が必要です。

パスワードを登録する

パスワードを登録して、パスワードを知っているユーザーだけが本機を使えるようにできます。大切なデータを守りたいときなどに便利です。
ここで登録したパスワードは、本機を起動してSONYのロゴマークが表示されたあとに入力します。

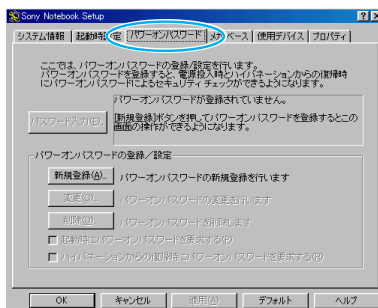
ご注意

パスワードを忘れると、本機を起動することができなくなります。パスワードは必ずメモを取るなどして、忘れないようにしてください。万一パスワードを忘れてしまったときは、修理（有償）が必要となります。VAIOカスタマーリンクまでご相談ください。

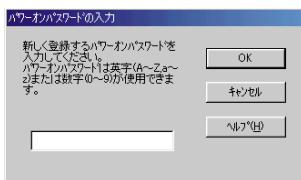
1 **［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［ノートブック ユーティリティ］から［Sony Notebook Setup］をクリックする。**
Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

2 **［パワーオンパスワード］タブをクリックする。**
パスワードの設定項目が表示されます。

3 **［新規登録］をクリックする。**

次のページにつづく

4 **［はい］をクリックする。**

5 **登録したいパスワードを入力してから、［OK］をクリックする。**

パスワードは半角の英数字7文字以内で入力します。1文字入力するごとに、「＊」が表示されます。

6 **手順5で入力したパスワードをもう1度入力してから、［OK］をクリックする。**

7 **［OK］をクリックする。**

入力したパスワードが登録されます。

パスワードの登録をやめるときは

手順4で、［いいえ］をクリックします。

パスワードを変更する

1 **「パスワードを登録する」の手順1と2を行う。**

2 **「パスワード入力」をクリックする。**

パスワード入力画面が表示されます。変更前のパスワードを入力し、［OK］をクリックします。

3 **［変更］をクリックする。**

パスワード入力画面が表示されます。

4 **登録したいパスワードを入力してから、［OK］をクリックする。**

5 **手順4で入力したパスワードをもう1度入力してから、［OK］をクリックする。**

パスワードが変更されます。

6 **［OK］をクリックする。**

パスワードを削除する

1 **「パスワードを登録する」**（128ページ）**の手順**1**と**2**を行う。**

2 **「パスワード入力」をクリックする。**
パスワード入力画面が表示されます。登録してあるパスワードを入力し、［OK］をクリックします。

3 **［削除］をクリックする。**
確認画面が表示されます。

4 **［はい］をクリックする。**
パスワードが削除されます。
削除をやめるときは、［いいえ］をクリックします。

5 ［OK］**をクリックする。**

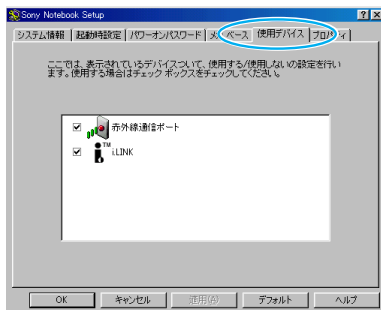
デバイスを一時的に使用できないように設定する

別売りのハードウェアやソフトウェアを使用するときに、IRQ、DMAといったハードウェアリソースが足りなくなることがあります。この場合、本機の使用していないデバイスを使用できないように設定することで、使えるハードウェアリソースの割り当てを、一時的に変更できます。

1 **［スタート］ボタンをクリックして**［VAIO］**にポインタを合わせ、［ノートブック ユーティリティ］から**［Sony Notebook Setup］**をクリックする。**
Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

次のページにつづく

2 **［使用デバイス］タブをクリックする。**

使用デバイスの設定項目が表示されます。

3 **使用していないデバイスのチェックボックスをクリックし、チェックをはずす。**

4 **［OK］をクリックする。**

設定を有効にするために本機を再起動する必要がある場合もあります。表示されるメッセージに従って再起動してください。

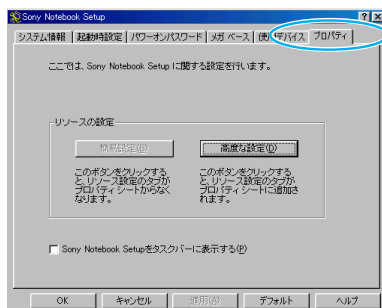
使用するデバイスごとに詳細な設定をする

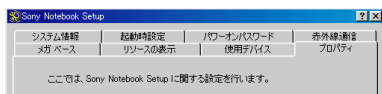
Sony Notebook Setup の［簡易設定］と［高度な設定］を切り換えることで、使用するデバイスごとにIRQやDMAといったリソースを割りあてられます。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［ノートブック ユーティリティ］から［Sony Notebook Setup］をクリックする。**

Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

2 ［プロパティ］タブをクリックする。

リソースを設定するタブの表示／非表示の切り換えボタンが表示されます。

3 ［高度な設定］をクリックする。

［リソースの表示］［赤外線通信］タブが新たに表示されます。

4 リソースを設定する。

設定したいデバイスのタブをクリックして、設定画面を表示させ、リソースの一覧から任意の値を選んでクリックします。

5 すべての設定が終わったら、［OK］をクリックする。

設定を有効にするために本機を再起動する必要があります。表示されるメッセージに従って再起動してください。

工場出荷時の設定に戻すには

Sony Notebook Setup の［デフォルト］をクリックします。

なお、［デフォルト］をクリックしても、登録したパスワードの設定は戻りません。

バッテリの消費電力を節約する

バッテリで本機を使用しているときは、本機のハードディスクや液晶ディスプレイを自動的に停止させたり、バッテリでの動作時間をのばすことができます（パワーマネージメント機能）。
詳しくは「省電力動作モードについて」（137ページ）をご覧ください。

PowerPanelを起動する

本機に付属している「PowerPanel」ソフトウェアを使うことで、使用状況に合わせた電力の節約をできるようになります。
本機を起動すると「PowerPanel」のツールバーがディスプレイ画面右側に表示されます（工場出荷時の設定）。

ボタンにポインタを合わせると、情報ボックスが表示されてボタンの機能を確認できます。

PowerPanelツールバーが表示されていないときは

ディスプレイ画面下のタスクバーにポインタを合わせ、右クリックします。ポップアップメニューから［ツール バー］を選び、［PowerPanel］をクリックするとタスクバーにPowerPanelツールバーが表示されます。

PowerPanelツールバーをディスプレイ画面右側に表示させたいときは、ツールバーをドラッグし、ディスプレイ画面右へ移動してください。

使用環境にあったプロファイルを選ぶ

本機の動作モードを設定する（プロファイルトレイ）

ディスプレイ画面右側のプロファイルトレイには、現在選択されているプロファイルが表示されています。プロファイルを変更するには、プロファイルトレイをクリックし、選択メニューから設定したいプロファイルをクリックします。

AC

AC電源をつないで使用するとき、ここで設定した状態になります。AC電源をはずすと、バッテリで使用していたときに選んでいた状態に戻ります。

ノーマル

消費電力を節約しつつ、できるだけ通常の動作状態を保つよう、自動的に調整します。

スタミナ

バッテリを最大限に長時間使用できるように動作状態を自動的に調節します。工場出荷時の設定では、バッテリ動作時には自動的に「スタミナ」が選択されます。

- バッテリ動作時にいずれかのプロファイルを選択すると、そのプロファイルのパワーマネージメント機能が有効になり、以後バッテリ動作時には自動的にそのプロファイルが選択されます。
- プロファイル選択メニューには上記の他にもいろいろなプロファイルが用意されています。お使いになるソフトウェアに合わせてプロファイルを選択することができます。
- 「プロファイル自動選択」を選択すると、使用中のソフトウェアに合わせて自動的にプロファイルが切り換わります。

特定のデバイスの電力供給をコントロールする（コマンドボタン）

設定したいボタンをクリックすると、クリックしたボタンのパワーマネージメント機能が実行されます。

システム アイドル
一時的にシステム全体の動作を停止します。システムをもとの状態に戻すには、キーボードのいずれかのキーを押します。サスペンド状態よりも早く通常の状態に復帰できます。ちょっと席をはずすときなどに便利です。

システム サスペンド
現在の本機の状態をメインメモリに記憶させ、CPUの電源を切ります。システムをもとの状態に戻すには、キーボードのいずれかのキーを押します。翌日まで作業を中断するときなどに便利です。

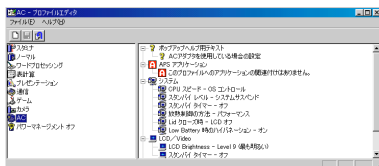
システム ハイバネーション
現在のシステムの状態をハードディスクに書き込んでから、自動的に本機の電源を切ります。本機の電源を入れると、電源を切る前の状態に戻ります。
この機能を使って電源を切ると、「電源を切るには」の手順で電源を切ったときよりも、次回電源を入れたときに短時間でもとの作業状態に復帰できます。2〜3日本機を使わないときなどに便利です。

LCD/Video スタンバイ
本機の画面が暗くなります。キーボードのいずれかのキーを押すともとの状態に戻ります。

プロファイルのパワーマネージメント設定を変更する

使用環境にあわせて、プロファイルのシステムタイマや画面の輝度などのパワーマネージメント設定を変更することもできます。
以下の手順に従って設定を変更してください。

1 プロファイルトレイをクリックし、選択メニューから［プロファイルの編集・作成］をクリックする。

「プロファイルエディタ」が起動します。

2 設定を変更したいプロファイルをクリックする。

3 変更したい項目をダブルクリックする。

設定値のリストが表示されます。
現在有効な設定値がチェックされています。

4 好みの設定値をクリックする。

5 「ファイル」メニューをクリックし、［保存］をクリックする。

6 「ファイル」メニューをクリックし、［終了］をクリックする。

「プロファイルエディタ」が終了し、手順4で選んだ設定値が有効になります。

新しくプロファイルを作成して追加することもできます。詳しくは「PowerPanel」のヘルプをご覧ください。

省電力動作モードについて

バッテリでの使用時間を延ばすため、本機にはいくつかの省電力動作モードが用意されています。モードごとに特長がありますので、使用状況に合わせて使い分けてください。

通常モード

（パワーランプ点灯：グリーン）
通常の動作モードですが、液晶ディスプレイやハードディスクなど、特定のデバイスの電源だけを切って、消費電力を節約することもできます。
バッテリの残量がわずかになると、自動的にシステム ハイバネーションモードになります（工場出荷時の設定）。

スタンバイ／休止状態

本機ではWindows 98の2つの省電力動作モード（スタンバイおよび休止状態）をさらに下記の3つのモードに分け、より使用状況に合った使い分けができます。
パワーボタンを押したり、「Windowsの終了」画面で［スタンバイ］を選択したときは、使用中のプロファイルで設定されている「スタンバイレベル」の省電力動作モードに移行します。

❑ **システム アイドルモード**
（パワーランプ点灯：アンバー（赤褐色））
一時的にシステム全体の動作を停止します。ちょっと席をはずすようなときに便利です。
バッテリの残量がわずかになると、自動的にシステム ハイバネーションモードになります（工場出荷時の設定）。

- **システム アイドルモードにするには**

  Fnキーを押しながらSキーを押します。または、「PowerPanel」ソフトウェアを使って設定することもできます（135ページ）。また、ジョグダイヤルを使って設定することもできます（36ページ）。

- **通常モードに戻すには**

  本体のキーボードのいずれかのキーを押します。

❑ **システム サスペンドモード**

(パワーランプ点滅:アンバー)

現在作業中の状態を保持したまま、CPUの電源を切ります。翌日に作業を再開するときなどに便利です。バッテリの残量がわずかになると、自動的にシステム ハイバネーションモードになります(工場出荷時の設定)。

- **システム サスペンドモードにするには**

  Fnキーを押しながらEscキーを押します。または、パワーボタンを押したり(工場出荷時の設定)、「PowerPanel」ソフトウェアを使って設定することもできます(135ページ)。また、ジョグダイヤルを使って設定することもできます(36ページ)。

- **通常モードに戻すには**

  キーボードのいずれかのキーを押すか、パワーボタンを一瞬押します。

❑ **システム ハイバネーションモード**

(パワーランプ消灯)

現在作業中の状態をハードディスクに保存して、本機の電源を切ります。2〜3日本機を使わないようなときに便利です。

- **システム ハイバネーションモードにするには**

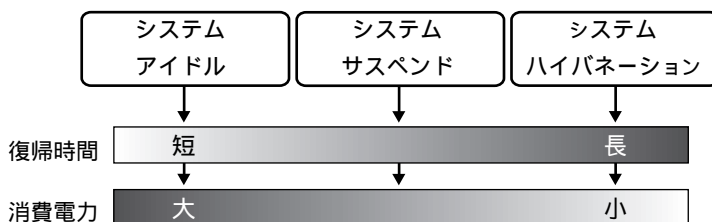
  Fnキーを押しながらF12キーを押します。または、「PowerPanel」ソフトウェアを使って設定します(135ページ)。
  バッテリランプがパワーランプといっしょに点滅するか、「バッテリーが少なくなりました」というメッセージがあったら、Fnキーを押しながらF12キーを押してシステム ハイバネーションモードにすることをおすすめします。 また、ジョグダイヤルを使って設定することもできます(36ページ)。

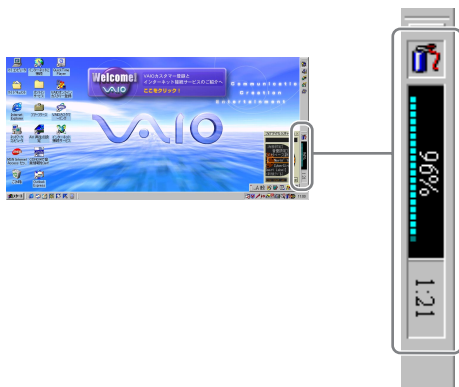
- **通常モードに戻すには**

  パワーボタンで本機の電源を入れ直します。電源を入れると、前回の作業状態に戻ります。

ご注意

- 本機は、バッテリの残量がわずかになると、自動的にシステム ハイバネーションモードになるよう工場出荷時に設定されていますが、ご使用中のソフトウェアや接続している周辺機器によっては、Windowsからの指示で作業を一時中断することができないため、この機能が正しく働かないことがあります。
長時間席を外されるときなどに、バッテリが消耗した際、自動的にシステム ハイバネーションモードにならないと、本機の電源が切れ、作業中のデータが失われてしまうおそれがあります。
バッテリでご使用のときは、こまめにデータを保存したり、手動でシステム サスペンドモード、またはシステム ハイバネーションモードにしてください。
- システム ハイバネーションモードから通常モードに戻すときに、パワーボタンを4秒以上押したままにすると、ハードディスクに保存していたシステム ハイバネーションモードになる前の作業状態がすべて消去されます。

復帰時間と消費電力について

BatteryScopeを起動する

本機に付属している「BatteryScope」ソフトウェアを使うことで、本機に取り付けたバッテリの状態を、パーセント表示または時間表示で確認できます。
本機を起動すると「BatteryScope」のツールバーがディスプレイ画面右側に表示されます（工場出荷時の設定）。

❑ **パーセント表示**

バッテリの残容量がパーセントで表示されます。

❑ **時間表示**

バッテリの放電予測時間が「分単位」で表示されます。

BatteryScopeツールバーが表示されていないときは

ディスプレイ画面下のタスクバーにポインタを合わせ、右クリックします。ポップアップメニューから［ツール バー］を選び、［BatteryScope］をクリックするとタスクバーにBatteryScopeツールバーが表示されます。

BatteryScopeツールバーをディスプレイ画面右側に表示させたいときは、ツールバーをドラッグし、ディスプレイ画面右へ移動してください。

バッテリアイコンの見かた

BatteryScopeのツールバーや「BatteryScope」画面に表示されるバッテリアイコンの種類と、バッテリの状態は以下の通りです。

バッテリアイコン	バッテリの状態
	放電中
	充電中
	満充電
	バッテリ未装着

使用環境に合わせてツールバーの表示を変更したり「BatteryScope」ソフトウェアの初期設定で用意されている警告表示や警告音を変更することができます。
詳しくは「BatteryScope」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

バッテリ残量の見かた

ディスプレイ画面右下のタスクバーのをダブルクリックすると、「BatteryScope」が表示され、バッテリの放電予測時間や完全に充電されるまでの予測時間など、バッテリについてより詳しい情報を見ることができます。

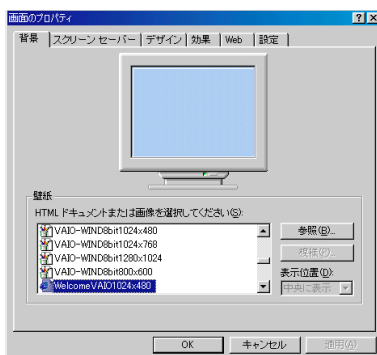
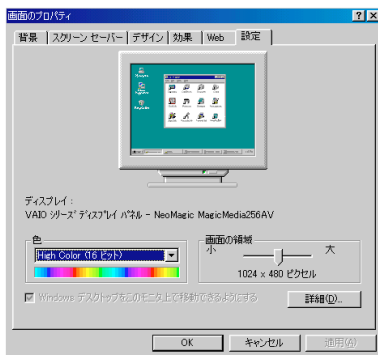
ディスプレイの設定を変更する

本機の解像度は、標準では1024×480ドットに設定されています。ディスプレイの解像度と色数の設定の変更をするには、以下の手順に従ってください。
Windows 98のヘルプもあわせてご覧ください。

1 ［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」が表示されます。

2 ［画面］をダブルクリックする。

「画面のプロパティ」が表示されます。

3 ［設定］タブをクリックする。

4 「色」リストで色数を、「画面の領域」のスライダで解像度をそれぞれ設定する。

5 ［OK］をクリックする。

設定が更新されます。

ご注意

設定によっては本機を再起動する必要がある場合があります。画面に表示される指示に従ってください。

色数について

- 手順4の「カラーパレット」の設定と実際に表示される色数は以下の通りです。
  High Color（16ビット）→ 65,536色
  True Color（24ビット）→ 約1,677万色（液晶ディスプレイ上はディザリング機能により実現）
- True Color（24ビット）に設定すると、画面の描画速度が少し遅くなります。

ご注意

標準ディスプレイの解像度のまま外部ディスプレイに表示すると、縦長に見えることがあります。必要に応じて解像度を変更するか、デュアルディスプレイをお使いください。詳しくは、「デュアルディスプレイを使う」（149ページ）をご覧ください。

上の手順3の後で［詳細］をクリックすると、「NeoMagic MagicMedia 256AVのプロパティ」が表示されます。ここで［全般］タブをクリックし、［タスクバーに設定インジケータを表示する］をチェックすると、ディスプレイ画面右下のタスクバーにが表示されます。このアイコンをクリックすると、「画面のプロパティ」を表示させなくても、簡単に解像度や色数を変えることができます。

表示するディスプレイを選ぶ

本機はNeoMagic社のビデオコントローラを使用しています。本機の外部ディスプレイコネクタに外部ディスプレイなどをつないでいる場合には、どのディスプレイに表示するか設定できます。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」が表示されます。

2 **［画面］をダブルクリックする。**

「画面のプロパティ」が表示されます。

3 **［設定］タブをクリックする。**

4 **［詳細］をクリックする。**

「NeoMagic MagicMedia 256AVのプロパティ」が表示されます。

5 ［NeoMagic］**タブをクリックする。**

NeoMagicの設定項目が表示されます。

次のページにつづく

6 表示するディスプレイの種類を選ぶ。

設定	表示される機器
LCDパネル	本機の液晶ディスプレイ
CRT／プロジェクタ	付属のディスプレイアダプタを使って本機につないだコンピュータ用の外部ディスプレイ、およびプロジェクタ
TV	付属のディスプレイアダプタを使って本機につないだテレビや、アナログ接続したプロジェクタ（NTSCのみ対応）

- 「外付けディスプレイ」の［CRT/プロジェクタ］をチェックしたときは、「内蔵ディスプレイ」の［LCDパネル］のチェックをはずせば、本機の液晶ディスプレイの表示を消すことができます。
- 「外付けディスプレイ」の［CRT/プロジェクタ］をチェックして「内蔵ディスプレイ」の［LCDパネル］のチェックをはずしたときは、リフレッシュレートのスライダを動かしてディスプレイの水平周波数を設定することはできますが、解像度スライダーは動きません。
- デスクトップの広さとディスプレイの水平周波数の両方を設定するには、次ページの手順2で「モニタ設定」の［独立ディスプレイ・タイミング］をチェックすれば、解像度スライダとリフレッシュレートスライダを動かしてそれぞれ設定ができます。

7 ［OK］をクリックする。

「画面のプロパティ」に戻ります。

8 ［OK］をクリックする。

選んだディスプレイが有効になります。

Fnキーとファンクションキーを組み合わせて押しても、表示するディスプレイを切り換えられます。
詳しくは、「Fnキーとの主な組み合わせと機能」（180ページ）をご覧ください。

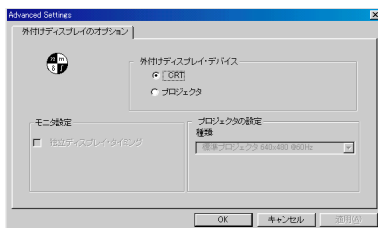
ご注意

- 外部ディスプレイが外部ディスプレイコネクタに接続されていないときは、「CRT/プロジェクタ」は選択できません。
- コンピュータ用ディスプレイやプロジェクタの種類によっては、本機の液晶ディスプレイと同時表示できないものもあります。

CRTに表示するときは

前ページの「表示するディスプレイを選ぶ」の手順6で「CRT/プロジェクタ」を選んだときは、表示するコンピュータ用外部ディスプレイの種類（CRT、プロジェクタ）やプロジェクタの対応解像度などが設定できます。

1 **前ページの「表示するディスプレイを選ぶ」の手順6で［詳細］をクリックする。**

「Advanced Settings」が表示されます。

2 **表示するディスプレイの種類などを設定する。**

外付けディスプレイ・デバイス

設定	接続している機器
CRT	コンピュータ用外部ディスプレイ
プロジェクタ	プロジェクタ

「モニタ設定」の［独立ディスプレイ・タイミング］

外部ディスプレイの解像度やリフレッシュレートを、内蔵ディスプレイとは別々に設定できます。

「プロジェクタの設定」

お使いのプロジェクタの対応解像度を選びます。

3 **［OK］をクリックする。**

ご注意

色数がTrue Color（24ビット）に設定されているときは、［独立ディスプレイ・タイミング］を選べません。

テレビに表示する

「表示するディスプレイを選ぶ」の手順6（145ページ）で「TV」を選んだときは、表示するテレビの方式の設定や、表示位置の調節ができます。

1 「表示するディスプレイを選ぶ」の手順6（145ページ）で［詳細］をクリックする。

「Advanced Settings」が表示されます。

2 「TV オプション」タブをクリックする。

標準TV出力

設定	機能
NTSC	日本の通常のテレビやビデオモニタに接続
PAL	本機では使用できません

ご注意

画面領域のうち640x400ドットがテレビに表示されます。残りの領域はスクロールすることができます。

出力の選択

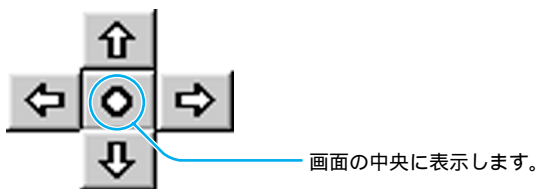
設定	機能
Sビデオ	本機では使用できません
コンポジット	通常のビデオ出力

イメージエンハンスメント

設定	機能
フリッカー防止	テレビのちらつきを改善

次のページにつづく

画面の位置調節

画面の表示位置を設定します。

矢印ボタンを押すと、矢印の方向に表示位置が移動できます。

出力オプション

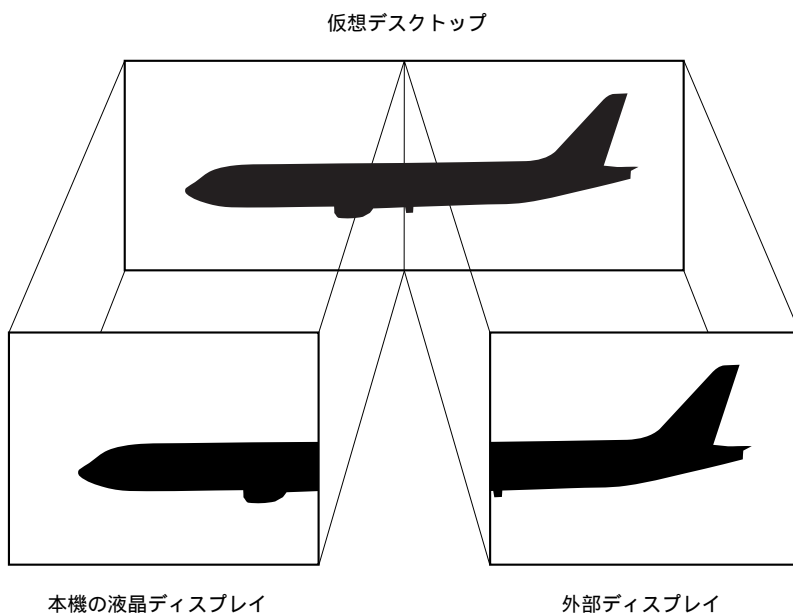
設定	機能
コントラスト	テレビのコントラストの調節
輝度	テレビの明るさの調節

3 [OK] **をクリックする。**

デュアルディスプレイを使う

デュアルディスプレイとは

デュアルディスプレイとは、複数のディスプレイを使って、ひとつの大きな仮想デスクトップを実現する機能です。

仮想デスクトップの例

画面が広く使えるだけでなく、片方の画面にアプリケーション本体を置き、もう片方の画面にツールパレットやアイコンバーを置くなど、工夫次第で画面を効率よく使うことができます。

デュアルディスプレイを設定する

本機では、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの組み合わせでデュアルディスプレイを利用できます。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」が表示されます。

2 **［画面］をダブルクリックする。**

「画面のプロパティ」が表示されます。

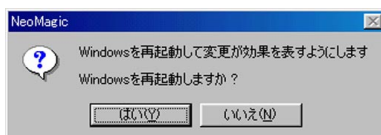
3 **［設定］タブをクリックする。**

4 **［詳細］をクリックする。**

「NeoMagic MagicMedia 256AVのプロパティ」が表示されます。

5 **［NeoMagic］タブをクリックする。**

6 **［デュアルディスプレイ設定］をチェックし、［OK］をクリックする。**

「Windowsを再起動しますか？」というメッセージが表示されます。

7 **［はい］をクリックする。**

Windowsが再起動します。

8 **手順1〜3の操作を行って「画面のプロパティ」を表示する。**

9 **数字の2が書かれているモニタの絵をクリックする。**

次のページにつづく

10 ［はい］をクリックする。

11 ［OK］をクリックする。

デュアルディスプレイが有効になります。

画面の色と解像度を変更する

仮想デスクトップを構成する各ディスプレイごとに、画面の色数と解像度を設定できます。

前ページの手順1～3を行い「画面のプロパティ」を表示し、変更したいディスプレイをクリックし、「色」リストで色数を、「画面の領域」スライダで解像度を設定します。

仮想デスクトップのつながりを変更する

仮想デスクトップのつなぎかたを変更できます。

「画面のプロパティ」で、数字の2が書かれているモニタの絵をドラッグし、数字の1が書かれているモニタと接するように移動させます。仮想デスクトップが、表示されている画面の形に変わります。

1と書かれているモニタの絵が本機の液晶ディスプレイ、2と書かれているモニタの絵が外付けディスプレイを表します。

デュアルディスプレイを解除する

「デュアルディスプレイを設定する」（150ページ）と同様の操作を行い、手順6で［デュアルディスプレイ設定］のチェックをはずし、［OK］をクリックします。次に「Windowsを再起動しますか？」というメッセージが表示されるので［はい］をクリックします。

ご注意

- 外部ディスプレイと本機の液晶ディスプレイの色数を異なる設定にした場合、ウィンドウを両方のディスプレイにまたがるように配置すると、ソフトウェアが正しく動作しないことがあります。色数を異なる設定にする場合は、ウィンドウを両方のディスプレイにまたがるように配置しないでください。
- デュアルディスプレイを使用しているときは、本機がシステム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードに入らないようにご注意ください。本機が通常の動作モードに戻らないことがあります。
- 設定によっては本機を再起動する必要があるものもあります。画面に表示される指示に従ってください。

ウィンドウのデザインを変更する

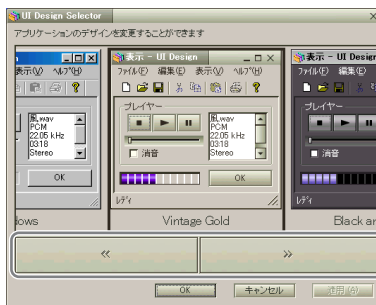
「UI Design Selector」に対応したソニー製ソフトウェアのインタフェイスデザインを好みに合わせて変更することができます。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」が表示されます。

2 **［UI Design Selector］をダブルクリックする。**

「UI Design Selector」が表示されます。

3 **［<<］または［>>］をクリックして、デザインを選ぶ。**

4 **［適用］をクリックする。**

「UI Design Selector」画面のデザインが変わります。ソニー製ソフトウェアのウィンドウもこの画面と同じデザインになります。

5 **デザインを選び直すときは、［<< ］または［>>］をクリックする。**

6 **［OK］をクリックする。**

ソニー製ソフトウェアのウィンドウのデザインが変更され、
「UI Design Selector」が閉じます。

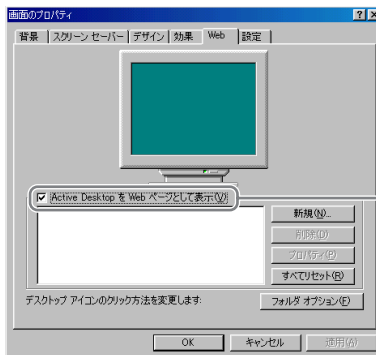
アクティブデスクトップをWindows 98のデスクトップ画面からはずす

本機の初期設定では、「アクティブデスクトップ」が標準のデスクトップ画面になっています。
このアクティブデスクトップ画面を、Windows 98のデスクトップ画面に表示しないように変更することもできます。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**
「コントロールパネル」が表示されます。

2 **［画面］をダブルクリックする。**
「画面のプロパティ」が表示されます。

3 **［Web］タブをクリックする。**

4 **［Active DesktopをWebページとして表示］をクリックして、チェックをはずす。**

5 **［OK］をクリックする。**
Windows 98のデスクトップ画面からアクティブウィンドウがはずれます。

スティックの設定を変更する

スティックの感度などの設定を好みに合わせて変えることで、スティックをより便利に使えます。次の機能を使って、ほとんど手やポインタの位置を動かさずに片手だけで本機を快適に操作できます。

- プレスセレクト機能
- スクロール／拡大機能

プレスセレクト機能を使う

左ボタンをクリックする操作をスティックを軽くたたく動作で代用できます。右ボタンをクリックする操作の代用にすることもできます。
また、スティックを押さえながら動かして希望の位置で離すとドラッグすることができます。

プレスセレクト機能を使うには

1 ［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」が表示されます。

2 ［スティック］をダブルクリックする。

「スティックのプロパティ」が表示されます。

3 ［プレス・セレクト］タブをクリックする。

次のページにつづく

4 **[プレス・セレクト - オン] のチェックボックスをクリックし、チェックする。**

5 **[OK] をクリックする。**

変更した設定が有効になります。

スティックの感度を調節する

ここでは、スティックとプレスセレクト機能の感度を同時に調節します。感度を低くすると、強く押さなければプレスセレクト機能が効かなくなります。同時にポインタの動きも鈍くなります。感度を高くすると、軽く押すだけでプレスセレクト機能が効くようになります。同時にポインタの動きも速くなります。

1 **[スタート] ボタンをクリックして [設定] にポインタを合わせ、[コントロールパネル] をクリックする。**

「コントロールパネル」が表示されます。

2 **[スティック] をダブルクリックする。**

「スティックのプロパティ」が表示されます。

3 **[感度] タブをクリックする。**

4 **スティックの感度を調節する。**

5 **[OK] をクリックする。**

変更した設定が有効になります。

スクロール／拡大機能を使う

センターボタンを押したときに働く機能を選択します。

- スクロール機能
  センターボタンを押しながらスティックを動かすとスクロールバーに触らずに、スクロールバーを動かすことができます。ホームページの下の方を見たいときや、長い文章を読んでいるときなどにこの機能を使うと便利です。
- 拡大機能
  拡大機能を使うと、画面に四角い虫メガネが現れます。
  虫メガネを移動するには：
  センターボタンを押しながらスティックを動かします。
  虫メガネの倍率を変えるには：
  センターボタンを押しながらクリックします。
  虫メガネのサイズを変えるには：
  センターボタンを押しながら右クリックします。

ご注意

工場出荷時にはスクロール機能に設定されています。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」が表示されます。

2 **［スティック］をダブルクリックする。**

「スティックのプロパティ」が表示されます。

3 ［スクロール機能］タブをクリックする。

4 ［スクロール］または［拡大表示］のチェックボックスをクリックし、チェックする。

どちらも使わないときは、［オフ］をチェックします。

5 ［OK］をクリックする。

変更した設定が有効になります。

その他

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 本体に手やひじをつくなどして力を加えないでください。本機の液晶ディスプレイはガラスでできています。力を加えると、ガラスが割れてしまいます。
- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- 炎天下や窓をしめきった自動車内など、異常な高温になる場所には置かないでください。本機が変形し、故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。

結露について

結露とは本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときなどに、本機の表面や内部に水滴がつくことで、そのままご使用になると故障の原因となります。
結露が起きたときは、電源を入れずに約1時間放置してください。

液晶ディスプレイについて

- 液晶ディスプレイの表面を濡れたもので拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- 液晶ディスプレイに物をのせたり、落としたりしないでください。
また、手やひじをついて体重をかけないでください。
- 本機を戸外など寒冷な場所から室内へ持ち込むと、液晶ディスプレイに結露が生じることがあります。結露が生じたら、水滴をよく拭き取ってからご使用ください。水滴を拭き取るときは、ティッシュペーパーをお使いになることをおすすめします。液晶面が冷えているときは、水滴を拭き取っても、また結露が生じてしまいます。液晶面が室温に暖まるまでお待ちください。
- 液晶ディスプレイは非常に精密度の高い技術でつくられていますが、黒い点が現れたり、赤と青、緑の点が消えないことがあります。故障ではありません。

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、衝撃や振動、ほこりに弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。

次のページにつづく

ハードディスクには衝撃や振動、ほこりからデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 衝撃を与えないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化（毎時10℃以上の変化）のある場所では使用しないでください。

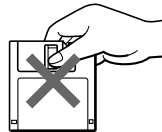
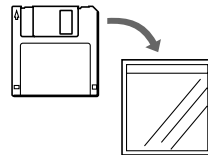
何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

バックアップをとる

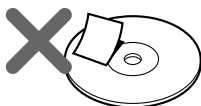
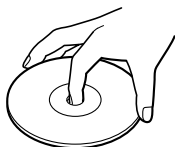
ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないことになります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップをとることをおすすめします。アプリケーションプログラムはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、Windows 98のヘルプをお読みください。

フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。

- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクはフロッピーディスクドライブから取り出して、必ずケースなどに入れて保管してください。

ディスクの取り扱いについて

ディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。

- 文字の書かれていない面（再生面）に触れないようにして持ちます。

- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- ディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、ディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。

ACアダプタについて

- 本機には、付属のACアダプタをご使用ください。指定以外のACアダプタを使用すると、故障の原因になることがあります。
- ACアダプタを海外旅行者用の電子式変圧器などに接続しないでください。発熱や故障の原因となります。

コンピュータウイルスについて

コンピュータウイルスとは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。
ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピュータウイルスに侵入されると…」に見られるような被害が起きてしまいます。
コンピュータウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピュータにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピュータウイルスに侵入されると…

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルがかってに消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

コンピュータウイルスを侵入させないために

- 見知らぬ人から送られてきた、またはネットワーク経由で入手した文書やプログラムなどのデータは必ずウイルスチェックをする。
- 本機にはコンピュータウイルス検査・ウイルス除去用ソフトウェアとして、「VirusScan」ソフトウェアが付属しています。
  使いかたについて詳しくは、「VirusScan」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
  また、ウイルスに関するデータファイルを常に更新することをお勧めします。
  インターネット上で、下記のURLから最新のデータファイルを入手できます。
  http://www.nai.com/japan/
- コンピュータウイルスはフロッピーディスクなどを介して広がることがありますので、他人のフロッピーディスクなどを使うときはご注意ください。フロッピーディスクなどのデータを共有する場合は、共有する人を限定してください。

ウイルスが侵入して被害を受けてしまったときに備えて、日頃から作成した文書のバックアップをとる習慣をつけましょう。

ソフトウェアの不正コピー禁止について

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。
また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは禁じられています。ソフトウェアの使用許諾書をよくお読みのうえ、お使いください。

データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。
データの損失については、一切責任を負いかねます。

ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows 98用、DOS/V用などを表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。
市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用された場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。また、本機に付属のOS以外をインストールした場合の動作保証はいたしかねます。

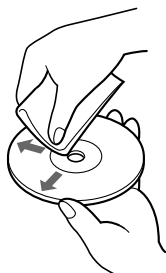
お手入れ

- 本機についたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- 液晶ディスプレイは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れてきたと思ったら、こまめに拭くように心がけてください。

ご注意

- 濡れたもので液晶ディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。
  化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書きに従ってください。

ディスクのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読みとりエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。

- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3か月間です。ユーザー登録していただいたお客様は1年間になります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはVAIOカスタマーリンクへご連絡ください

VAIOカスタマーリンクについては、添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
ただし、故障の原因が不当な分解や改造であると判明した場合は、保証期間内であっても、有償修理とさせていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではノートブックコンピュータの修理は引取修理を行っています。
当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い
修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。当社の修理により、ハードディスク内のプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、当社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

交換部品の所有権について
修理によって交換された旧部品は、当社の所有となりますので、あらかじめご了承ください。

部品の保有期間について

当社ではノートブック コンピュータの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、VAIOカスタマーリンク修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

型名および製造番号は、本体底面または保証書に記載されています。

- **型名：**
- **製造番号：**
- **故障の状態：できるだけ詳しく**
- **購入年月日：**

主な仕様

本体

プロセッサ

モバイルPentium® II プロセッサ
266 PE MHz

キャッシュ（プロセッサに内蔵）

1次：32Kバイト
2次：256Kバイト

チップセット

Intel® 440 ZXチップセット

メインメモリ

64 Mバイト（SDRAM）
最大128 Mバイトまで拡張可能

メモリスロット

専用メモリスロット（1）

グラフィックアクセラレーター

128ビット高速グラフィックアクセラレーター
NeoMagic Magic Media 256AV
（NM2200）

ビデオメモリ

約2.5 Mバイト（ビデオチップ内蔵）

液晶ディスプレイ

8.9インチ、ウルトラワイドXGA対応、
反射型TFTカラー液晶

液晶ディスプレイ表示モード

1024 × 480ドット（約1,677万色[1]）
640 × 480ドット（約1,677万色[1]）

[1] グラフィックアクセラレーターのディザリングにより実現

外部ディスプレイ表示モード

1,280 × 1,024ドット（256色）
1024 × 768ドット（約1,677万色）
1024 × 480ドット（約1,677万色）
800 × 600ドット（約1,677万色）
640 × 480ドット（約1,677万色）

フロッピーディスクドライブ

USB接続、3.5インチ、
1.44 Mバイト／1.2 Mバイト／720 Kバイト

ハードディスクドライブ

約8.1Gバイト[2]

[2] C：ドライブ　5.0 Gバイト
D：ドライブ　3.1 Gバイト（工場出荷時）

（1 Gバイト=10億バイトで算出）

外部接続端子

i.LINK S400コネクタ

IEEE1394準拠、4ピン（1）

USBコネクタ

USB4ピン（1）

マイク入力コネクタ

モノラルミニジャック（1）

ヘッドホン出力コネクタ

ステレオミニジャック（1）

モデムコネクタ

モジュラジャック（1）

赤外線ポート

IrDA 1.1、最大4Mbps（1）

外部モニタ

専用コネクタ（変換ケーブル付属）

インジケータ

パワーランプ
バッテリランプ
ハードディスクランプ
インフォメーションランプ
Num Lockランプ
Caps Lockランプ
Scroll Lockランプ

PCカードスロット

Type I／II ×1、16bit/Cardbus対応

オーディオ機能

YAMAHA YMF7448 搭載ハードウェアMIDI音源（XG、GM互換）
ステレオスピーカー、内蔵モノラルマイク

次のページにつづく

内蔵ファックスモデム

V.90およびk56flex対応
データ受信時最大　56Kbps
データ送信時最大　33.6Kbps
ファックス送信時最大　14.4Kbps

入力デバイス

スクロール機能対応スティック式ポインティング・デバイス、
ジョグダイヤル

Handy GPS

電源
USB接続または単3形乾電池1本

消費電力
約1.2W（連続使用時）

消費電流
150mA（USB接続時）

乾電池での駆動時間
約2.5時間（連続測位時）

受信周波数
1575.42MHz（L1帯、C/Aコード）

受信方法
16チャンネル オールインビュー、2衛星測位

受信感度
-130dBm

測位更新時間
約1秒

測位精度
1σ（68%）　<30m
3σ（95%）　<90m

インタフェイス
USBロースピード、インタラプト転送

実効転送速度
9600bps

電源・その他

電源
ACアダプタまたはバッテリパック

バッテリ駆動時間
標準タイプ　約2〜2.5時間（PCGA-BP51）
大容量タイプ　約4〜5.5時間（PCGA-BP52）
　約8.5〜11時間（PCGA-BP54）
ただし、フロントライトユニット使用時は短くなる場合があります。

動作温度
5 ℃〜35 ℃（温度勾配10 ℃／時以下）

動作湿度
20 %〜80 %（結露のないこと）
ただし35 ℃における湿度は65 %以下（湿球温度29 ℃以下）

保存温度
–20 ℃〜60 ℃（温度勾配10 ℃／時以下）

保存湿度
10 %〜90 %（結露のないこと）
ただし60 ℃における湿度は20 %以下（湿球温度35 ℃以下）

外形寸法
約248 × 27 × 153 mm（幅／高さ／奥行き）
（フロントライトユニット含まず）

質量
約960 g（標準タイプバッテリ装着時）

フロントライトユニット

外形寸法
約248 × 29 × 151 mm（幅／高さ／奥行き）

質量
約310 g

ACアダプタ

電源

AC 100～240 V、50/60 Hz
（付属電源コードはAC 100 V用）

消費電力

最大40 W

出力電圧・電流

最大16 V、2.5A

動作温度

5 ℃～35 ℃（温度勾配10 ℃／時以下）

動作湿度

20 %～80 %（結露のないこと）
ただし35 ℃における湿度は65 %以下（湿球温度29 ℃以下）

保存温度

–20 ℃～60 ℃（温度勾配10 ℃／時以下）

保存湿度

10 %～90 %（結露のないこと）
ただし60 ℃における湿度は20 %以下（湿球温度35 ℃以下）

外形寸法

約48 × 28 × 115 mm（幅／高さ／奥行き）

質量

約215 g

バッテリパック

出力電圧・容量

11.1 V、1550 mAh

動作温度

5 ℃～35 ℃（温度勾配10 ℃／時以下）

動作湿度

20 %～80 %（結露のないこと）
ただし35 ℃における湿度は65 %以下（湿球温度29 ℃以下）

保存温度

–20 ℃～60 ℃（温度勾配10 ℃／時以下）

保存湿度

10 %～90 %（結露のないこと）
ただし60 ℃におけ湿度は20 %以下（湿球温度35 ℃以下）

外形寸法

約204.6 × 22 × 24.6 mm
（幅／高さ／奥行き）

質量

約162 g

付属品・別売り品

付属品

「はじめにお読みください」の「付属品を確かめる」をご覧ください。

別売り品

ACアダプタ
PCGA-AC5N

リチャージャブルバッテリパック
PCGA-BP51（標準タイプ）
PCGA-BP52、PCGA-BP54（大容量タイプ）

CD-ROMドライブ
PCGA-CD51

CD-Rドライブ
PCGA-CDR51

増設メモリモジュール
PCGA-MM164（64Mバイト）

USBマウス
PCGA-UMS1

バッテリチャージャー
PCGA-BC5

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

ソフトウェアをアンインストールする／再インストールする

ハードディスクの空き容量が足りないために、新しいソフトウェアをインストールできないときは、すでにインストールされているソフトウェアをハードディスクから削除（アンインストール）できます。

ソフトウェアをアンインストールする

1 **[スタート] ボタンをクリックし、[設定] にポインタを合わせて [コントロールパネル] をクリックする。**

「コントロールパネル」が表示されます。

2 **[アプリケーションの追加と削除] をダブルクリックする。**

「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」が表示されます。

3 **[インストールと削除] タブをクリックする。**

4 **削除したいソフトウェアをクリックしてから、[追加と削除] をクリックする。**

アンインストーラーが起動し、「ファイル削除の確認」が表示されます。

5 **「はい」をクリックする。**

選んだソフトウェアがアンインストールされます。

ソフトウェアを再インストールする

アンインストールしたソフトウェアを再インストールすることもできます。本機に付属しているソフトウェアは、付属のプロダクト リカバリ CD-ROM（以降、リカバリCDと略します）を使って再インストールします。

ソフトウェアによって再インストールのしかたが異なります

- ソニー製のソフトウェアの場合
  詳しくは、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
- ソニー製以外のソフトウェアの場合
  「リカバリCDで本機を再セットアップする」（171ページ）をご覧ください。

ご注意

- 付属のリカバリCDを使うには、別売りのCD-ROMドライブが必要です。
- リカバリCDを使うまえに、大切なデータはバックアップをとっておいてください。

リカバリCDで本機を再セットアップする

ここでは、別売りのCD-ROMドライブで付属のプロダクト リカバリCD-ROM（以後、リカバリCDと略します）を使って、本機を再セットアップする方法を説明します。

リカバリCDとは

リカバリCDには、出荷時のハードディスク中のすべてのファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、プリインストールされているソフトウェアを消してしまった場合には、リカバリCDを使ってハードディスクの内容を出荷時の状態に戻すことができます。

リカバリCDを使うと、次のことができます

- ハードディスクを初期化したうえで、すべてのファイルを復元する。
- ハードディスクを初期化せずに、すべてのファイルを復元する。
- ハードディスクのパーティションサイズを変更する。
  詳しくは、「パーティションサイズを変更する」（173ページ）をご覧ください。

ご注意

- 本機専用のCD-ROMドライブPCGA-CD51・PCGA-CD5およびCD-RドライブPCGA-CDR51以外のドライブをお使いのときは、リカバリCDを使うために起動用ディスクを作成する必要があります。起動用ディスクを作成しないと、Windowsが起動できなくなった場合に、リカバリCDを使って本機を再セットアップすることができなくなります。正常に動作しているときに起動用ディスクを作成するようおすすめします。
- 付属のリカバリCDは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。
- リカバリCDで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフ トウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや、作成したデータを復元することはできません。またWindows 98だけを復元することもできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて初期値に戻ります。
  再セットアップ後に、もう1度設定し直してください。
- ハードディスクを初期化した場合、それ以前にハードディスク上にあったファイルはすべて消えてしまいます。また、ハードディスクを初期化しない場合でも、ハードディスク上のファイルが保存されることを保証するものではありません 。再セットアップを行う前に、大切なデータは必ずフロッピーディスクに保存するなどして、バックアップをとっておいてください。
- ハードディスクを初期化せずにすべてのファイルを復元した場合、システムが正常に動作しないことがあります。このような場合は、 もう1度再セットアップを行って、ハードディスクを初期化してから、すべてのファイルを復元してください。
- リカバリCDで再セットアップしたあと、続いてWindows 98のセットアップを行う必要があります。その際、付属のMicrosoft Windows 98 ファーストステップガイドの表紙に記載されている、プロダクト キーが必要になります。Microsoft Windows 98 ファーストステップガイドは大切に保管してください。

準備する

1 CD-ROMドライブまたはCD-Rドライブを本機に取り付ける。
詳しくは、「CD-ROMドライブをつなぐ」（112ページ）をご覧ください。

2 本機をACアダプタにつなぎ、AC電源を接続する。

再セットアップする

別売りのCD-ROMドライブPCGA-CD51・PCGA-CD5、またはCD-RドライブPCGA-CDR51をお使いのときは、以下のように操作します。
ソニー製DVD-ROMドライブPBD-D50、またはCD-ROMドライブPRD-650／250をお使いのときは、「起動ディスクを作成する」（175ページ）をご覧ください。
パーティションサイズを変更するときは、次ページの「パーティションサイズを変更する」をご覧ください。

1 付属の「プロダクト リカバリ CD-ROM Vol.1 of 3」をドライブに入れてから、本機の電源を入れる。
「プロダクト リカバリ CD-ROM リストアユーティリティ」画面が表示されます。

2 画面の指示に従って操作する。
操作を続けるかどうか表示されたときはYキーを押し、Enterキーを押してください。
画面の指示に従って操作をしていくと、メニュー画面が表示されます。再セットアップの方法を選び、引き続き画面の指示に従って操作してください。再セットアップを中止するときは5を選び、Enterキーを押します。

3 「2枚目のディスクをいれてください。」というメッセージが表示されたら、「プロダクト リカバリ CD-ROM Vol.2 of 3」をドライブに入れ、いずれかのキーを押す。
本機が再起動し、再セットアップの続きが始まります。
再セットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って本機を再起動してください。

「プロダクト リカバリ CD-ROM Vol.3 of 3」にはドライバなどが収められています。本機を再セットアップする際は使用しません。

パーティションサイズを変更する

本機のハードディスクはC:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれており、D:ドライブは、「DVgate motion」ソフトウェアなどで取り込んだ動画などの容量が大きいデータを保存したり、操作したりするための領域（データスペース）として使えるように設定されています（工場出荷時）。付属のリカバリCDを使ってパーティションサイズを変更できます。
動画の取り込みや書き出しを行う場合は大容量のデータを高速で読み書きするため、ハードディスクの断片化が起こり、フレーム落ちの原因となります。そのためデータスペースとしてお使いになるパーティションは、ハードディスクの空き容量が常に連続になるよう、最適化（デフラグ）またはフォーマットを行ってください。
パーティションを区切ると、Windows 98はC:ドライブにインストールされます。
C:ドライブを最適化するには非常に時間がかかる場合がありますので、D:ドライブをデータスペースとしてお使いになることをおすすめします。

ご注意

ハードディスクのパーティションサイズを変更すると、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけではなく、D:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更する前に、大切なデータはフロッピーディスクやCD-Rなどに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

1 **前ページの「再セットアップする」の手順1～3を行う。**

2 **メニュー画面が表示されたら、「3. パーティションサイズの変更...」を選び、Enterキーを押す。**
パーティションサイズの選択画面が表示されます。
Escキーを押すと、現在のパーティションサイズを確認できます。

3 **パーティションサイズを選び、Enterキーを押す。**
サイズ変更を中止する場合は、Nキーを押してからEnterキーを押すと手順2の画面に戻ります。

次のページにつづく

4 画面の指示に従って操作をする。

操作を続けるかどうか表示されたときはYキーを押し、Enterキーを押してください。
パーティションサイズが変更され、自動的に本機が再起動します。
再起動後、各ドライブが初期化され、再セットアップが始まります。

5 「2枚目のディスクをいれてください。」というメッセージが表示されたら、「プロダクト リカバリ CD-ROM Vol.2 of 3」をドライブに入れ、いずれかのキーを押す。

本機が再起動し、再セットアップの続きが始まります。
再セットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って本機を再起動してください。

起動ディスクを作成する

ソニー製のDVD-ROMドライブPBD-D50またはCD-ROMドライブPRD-650／250をお使いの場合には、以下の手順で起動用ディスクを作成できます。

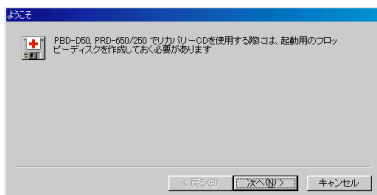
準備する

DVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブを本機で使用できる状態にしておく。

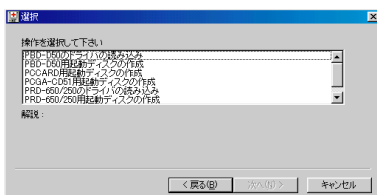
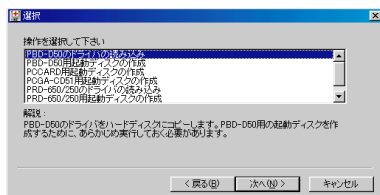
- DVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブを本機に接続しておく。
- 本機の電源を入れて、フロッピーディスクドライブを本機に接続しておく。
- お使いになるドライブに付属のセットアップディスクを用意する。

ドライバをハードディスクにコピーする

1 **[スタート] ボタンをクリックし、[VAIO] にポインタを合わせ、[ノートブック ユーティリティ] を選び、[リカバリ用起動ディスク作成ツール] をクリックする。**

「ようこそ」の画面が表示されます。

2 **[次へ>] をクリックする。**

「選択」の画面が表示されます。

次のページにつづく

3 リストの中から使用するドライブのドライバ読み込み操作を選び、[次へ] をクリックする。

4 各ドライブの接続キットに付属のフロッピーディスクを入れ、[次へ] をクリックする。

本機のハードディスクにドライバがコピーされます。

[完了] をクリックすると、「リカバリ用起動ディスク作成ツール」が終了します。引き続き「起動用ディスクを作成する」の手順を行ってください。

起動用ディスクを作成する

1 前ページの「ドライバをハードディスクにコピーする」の手順1と2を行う。

2 リストの中から、使用するドライブ用の起動ディスク作成操作を選び、[次へ] をクリックする。

3 新しいフロッピーディスクを入れる。

フロッピーディスクに「起動ディスク」と書いたラベルを貼ってから、フロッピーディスクドライブに入れます。

4 [次へ] をクリックする。

フォーマットが始まります。

フォーマットが終わると、引き続いて必要なファイルのコピーが始まります。

5 「終了」の画面が表示されたら、[完了] をクリックする。

これで起動ディスクの作成は終了です。

起動ディスクを確認する

作成した起動ディスクで、DVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブを使用できるかどうか確かめます。

1 **本機の電源を切る。**

2 **作成したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れてから、電源を入れる。**

3 **本機が起動したら、以下のように入力する。**
A:¥>dir q:
DVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブに入れたCD-ROMの内容が表示されます。
「無効なドライブの指定です」と表示されたときは、起動ディスクを正常に作成できなかった可能性があります。前ページの「起動ディスクを作成する」の手順をはじめからやり直してください。

4 **本機の電源を切る。**

本機を再セットアップするときは

起動ディスクを使って本機を再セットアップするときは、次の手順に従って操作してください。

1 DVD-ROM**ドライブまたは**CD-ROM**ドライブを本機につなぎ、付属の「プロダクト リカバリ** CD-ROM Vol.1 of 3**」を入れる。**

2 **フロッピーディスクドライブを本機につなぎ、作成した起動ディスクを入れてから、本機の電源を入れる。**

3 **以下のように入力してから**Enter**キーを押す。**
A:¥>A:install

4 **「再セットアップする」**（172**ページ**）**の手順**2**を実行する。**

5 **起動用ディスクから起動したら、もう**1**度「**A:install**」と入力し、**Enter**キーを押す。**
「プロダクト リカバリ CD-ROM リストアユーティリティ」が起動します。

次のページにつづく

6 **「再セットアップする」**（172ページ）**の手順**3**を行う。**

本機の再セットアップが始まります。

詳しくは、画面の指示に従って操作してください。

7 **「**2**枚目のディスクをいれてください。」というメッセージが表示されたら、付属の「プロダクト リカバリ** CD-ROM Vol.2 of 3**」を入れ、いずれかのキーを押す。**

8 **本機が再起動したら、「**A:install**」と入力し、**Enter**キーを押す。**

再セットアップの続きが始まります。

再セットアップが終了するとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って本機を再起動してください。

キーボードショートカット

Windowsキーとの主な組み合わせと機能

キー操作の表記

例： ⊞ +F ➡ Windows**キーを押しながら**F**キーを押す。**

組み合わせ	機能
⊞ +F1	Windowsのヘルプを表示します。
⊞ +Tab	タスクバーに表示されているボタンの選択を切り換えます。
⊞ +E	エクスプローラ[1]を起動します。
⊞ +F	「ファイルやフォルダ」の検索ウィンドウを表示します。 ［スタート］メニューから［検索］の［ファイルやフォルダ］を選んだときと同じです。
⊞ +Ctrl+F	「ほかのコンピュータ」の検索ウィンドウを表示します。 ［スタート］メニューから［検索］の［ほかのコンピュータ］を選んだときと同じです。
⊞ +M	表示しているすべてのウィンドウを最小化します。
Shift+ ⊞ +M	最小化したすべてのウィンドウを元のサイズに戻します。
⊞ +R	「ファイル名を指定して実行」を表示します。 ［スタート］メニューから［ファイル名を指定して実行…］を選んだときと同じです。

[1] コンピュータの内容（ファイルやフォルダ）をツリー図で表示します。作成したファイルなどがコンピュータのどこに保存されているか、一目で確認できます。

Fnキーとの主な組み合わせと機能

キー操作の表記

例：Fn + (Esc) ➡ Fn**キーを押しながら**Esc **（エスケープ）キーを押す。**

組み合わせ	機能
Fn+ (Esc)	本機の液晶ディスプレイとハードディスクドライブへの電源供給を停止して、使用電力を削減します。CPUへの電源供給も停止します。（システム サスペンドモード）
Fn+ (F3)*	本機のスピーカーの音声を入／切します。
Fn+ (F4)*	本機のスピーカーの音量が調節できます。このコマンドを実行すると、数秒間だけ音量設定が表示されます。このときに↑または→キーを押すと大きくなり、←または↓キーを押すと小さくなります。（20段階で調節できます）。
Fn+LCD/VGA (F7)*	付属のディスプレイアダプタを使って本機に接続した外部ディスプレイと、本機の液晶ディスプレイの表示を切り換えます。 液晶ディスプレイのみ→液晶ディスプレイと外部ディスプレイ同時表示→外部ディスプレイのみ→液晶ディスプレイのみ→... マルチディスプレイモードを使用中は無効です。
Fn+LCD/TV (F8)*	付属のディスプレイアダプタを使って本機に接続したテレビなどの外部モニタと、本機の液晶ディスプレイの表示を切り換えます。 液晶ディスプレイのみ→液晶ディスプレイと外部モニタの同時表示のみ→液晶ディスプレイのみ→...
Fn+ (F12)*	本機の液晶ディスプレイとハードディスクドライブだけでなく、CPUやRAMへの電源供給も停止します。使用環境はハードディスクに書き込まれるので、復帰後もそのまま作業できます。 （システム ハイバネーションモード）

* ジョグダイヤルを使ってもこの操作ができます。詳しくは、「ジョグダイヤルを使ってこんなことができます」（36ページ）をご覧ください。

組み合わせ	機能
Fn+B	メガベース機能のオン／オフを切り換えます。
Fn+D	本機の画面が暗くなります。いずれかのキーを押すともとの状態に戻ります。
Fn+S*	本機の液晶ディスプレイへの電力供給を停止して、使用電力を削減します。ただし、CPUへの電力供給は停止しないため、システム サスペンドモード（Fn+Esc）よりも早く通常の動作状態に復帰できます。（システムアイドルモード）

* ジョグダイヤルを使ってもこの操作ができます。詳しくは、「ジョグダイヤルを使ってこんなことができます」（36ページ）をご覧ください。

ご注意

Windows 98起動後でないと作動しないものがあります。

故障かな？と思ったら

VAIOカスタマーリンクにご相談になる前にもう1度チェックしてみてください。またソフトウェアについては、各ソフトウェアに付属の取扱説明書またはヘルプも合わせてご覧ください。
それでも具合が悪いときはVAIOカスタマーリンクまたはお買い上げ店にご相談ください。

VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）
では、お客様からのお問い合わせが多い質問と回答を掲載するとともに、VAIOカスタマーリンクの電話サポート担当者が利用しているQ&A集を「Q&A Search」にてご提供しております。
インターネットに接続できる場合は、VAIOカスタマーリンクのホームページにアクセスして該当するQ&Aがないか検索されることをおすすめします。

ご注意

再起動または電源を入れ直す場合は、必ず「電源を切るには」（26ページ）の手順に従い、いったん電源を切ってください。
他の方法で本機の電源を切ると、作成したファイルが使えなくなることがあります。

症状	原因／対策
電源が入らない。	• 本機とACアダプタ、ACアダプタと電源コード、電源コードとコンセントがそれぞれしっかりつながっているか確認する。 • バッテリが正しく装着されているか確認する。 • バッテリが放電しきっている。バッテリを充電し、電源を入れ直す。 • 結露している。1時間くらい待って電源を入れ直す。 上記の操作を行っても電源が入らない場合は、本機底面のリセットスイッチを針金のようなもの（太目のクリップでも可）で押してから、電源を入れ直してください。

次のページにつづく

症状	原因／対策
電源が切れない。	• 「「スタート」メニューから［Windowsの終了］を選んでも電源が切れないときは」（27ページ）をご覧ください。 • それでも電源が切れないときは、下記のいずれかの操作を行ってください。 ■ 壁紙が表示された状態のまま電源が切れないとき **1** CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押す。「プログラムの終了」が表示されます。 **2**「応答なし」と表示されているプログラムを選択し、［終了］をクリックする。 **3** 再度「スタート」メニューの［Windowsの終了］を選ぶ。 それでも電源が切れないときは、上記の手順2で［シャットダウン］をクリックすると、すべてのプログラムを終了して電源が切れます。 ■「Windowsを終了しています」または「電源を切る準備ができました」が表示されたまま電源が切れないときは Escキーを押すと電源が切れます。 • 以上の操作を行っても電源が切れないときは、パワーボタンを4秒以上押したままにして、パワーランプが消灯するか確認してください。消灯しない場合は、ACアダプタとバッテリをはずして電源を切ってください。
省電力モードへ移行せず、すぐに戻ってしまい、Windowsの動作状態が不安定になる。	使用中のソフトウェアを終了して、本機を再起動してください。再起動できない場合は、パワーボタンを4秒以上押して電源を切ってください。
液晶ディスプレイに何も表示されない。	• LCD/Videoスタンバイモードになっている。いずれかのキーを押す。 • 外部ディスプレイに表示が切り換えられている。Fnキーを押しながら、F7キーを何回か押す。
液晶ディスプレイが見えにくい。	反射型液晶ディスプレイを使用しています。室内や暗い場所では液晶ディスプレイが見えにくい場合があります。 • 充分明るい場所に移動してお使いください。 • 付属のフロントライトユニットを本機に取り付けてお使いください（58ページ）。

次のページにつづく

症状	原因／対策
外部ディスプレイの 表示サイズ、表示位置が おかしい。	ディスプレイの調整つまみで設定する。詳しくは、ディスプレイの取扱説明書をご覧ください。
スティックに触れていないのに画面上のポインタが動く。	• キーボードの矢印キーなどを押していないことを確認してください。 • 通常の操作状態でスティックを使っていないにもかかわらず、ポインタが自然に動くことがあります。 これは「ドリフト」と言い、故障ではありません。 しばらくスティックから指を離しておけば、ポインタは止まります。ドリフトは以下の場合に起こることがあります。 – 電源を入れた直後 – システム サスペンドモードから通常の状態に戻った直後 – ポインティング・デバイスを長時間使用し続けたとき – 温度が急激に変化したとき
スティックをたたくと、 左ボタンを押していない のにクリックされる。	プレスセレクト機能が有効になっていないか確認してください。（工場出荷時の設定は無効になっています。） 詳しくは、「ポインティング・デバイスの設定を変更する」（155ページ）をご覧ください。
画面上の ポインタが動かない。	• しばらくすると動くようになります。 **しばらく待っても動かないとき** • ⊞キーを押して［スタート］メニューを表示させ、↑キーまたは↓キーを押して［Windowsの終了］を選んでEnterキーを押し、［電源を切れる状態にする］を選んでEnterキーを押す。 • 上記の操作で電源が切れないときは、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押し、本機を再起動する。 • 上記の操作でも何も起こらないときは、パワーボタンを4秒以上押して電源を切る。 • CD-ROMを再生しているときなどに、ポインタが動かなくなってしまった場合は、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押し、CD-ROMの再生を強制的に終わらせ、本機を再起動する。
フロッピーディスクが 取り出せない。	52ページをご覧ください。

症状	原因／対策
電源を入れた後、「No System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」というメッセージが出て、ハードディスクを立ち上げられない。	フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押して、取り出す。 その後、キーボードのいずれかのキーを押す。
電源を入れると、「Operating system not found」と表示され、Windowsが起動できない。	フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクが入っていないか確認してください。 • 起動ディスク以外のフロッピーディスクが入っていた場合は、パワーボタンを4秒以上押して本機の電源を切り、フロッピーディスクを取り出してから、本機の電源を入れ直し、Windowsが起動するか確認してください。 • 上記の手順で起動しない場合や、フロッピーディスクが入っていない場合は、「BIOSの初期化」（192ページ）をご覧ください。 • 「BIOSの初期化」（192ページ）の操作を行っても起動しない場合は、起動ディスクで本機を起動し、必要なデータのバックアップをとってから、付属のリカバリCDで本機を再セットアップしてください。
「マイコンピュータ」からフロッピーディスクを選んで初期化しようとしたができない。	• フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（53ページ） • フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにきちんと入っているか確認する。 • 「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容がウィンドウで表示されている。ウィンドウ表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。
「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。	フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある、別のフロッピーディスクを使って保存し直す。
「書き込み禁止」というメッセージが表示された。	フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（53ページ）

症状	原因／対策
スピーカーから音が出ない。	• 本機の内蔵スピーカーが「ミュート」になっている。Fnキーを押しながら、F3キーを押す。（180ページ） • 本機の内蔵スピーカーの音量が最小になっている。Fnキーを押しながら、F4キーを押したあと、↑または→キーを押して音量を上げる。（180ページ） • 🎧コネクタにケーブルをつないでいるときは、ケーブルをはずす。
音楽CDを再生すると音飛びする。	本機で音楽CDを聞くには、別売りのCD-ROMドライブPCGA-CD51またはCD-RドライブPCGA-CDR51が必要です。詳しくは、99ページをご覧ください。 PCGA-CD5をお使いの場合は、本機のスピーカーから音は出ません。音楽CDを聞くには、ヘッドホンや外部スピーカーなどをCD-ROMドライブにつないでください。
Fnキーを押しながらF3、F4キーを押しても何も表示されない	「システムのプロパティ」画面の［デバイスマネージャ］タブをクリックしてから、サウンドデバイスを使用できるように設定する。
内蔵マイクで音声を録音すると雑音が入る。	ハードディスクのアクセス音などが録音されてしまうためで、故障ではありません。
日本語が入力できない。	「文字を入力する」（42ページ）をご覧ください。
アルファベットのかわりに数字が入力される。	Num Lkキーを押して、🔒(Num Lock) ランプを消灯させる。
入力した文字が表示されない。	文字を入力したいソフトウェアのウィンドウが前面に出ていない。（画面上では薄い色のウィンドウになります。）ウィンドウのどこかをクリックするか、AltキーとTabキーを同時に押して目的のアプリケーションソフトウェアを前面に出し、使える状態にする。
ハードディスクから起動できない。	フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。
CD-ROMドライブまたはCD-Rドライブから起動できない。	別売りのCD-ROMドライブPCGA-CD51・PCGA-CD5およびCD-RドライブPCGA-CDR51以外のドライブからは、本機を起動できません。
誤ってハードディスクを初期化してしまった。	リカバリCDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリCDで本機を再セットアップする」（171ページ）をご覧ください。
画面上のすべてのものが動かなくなってしまった。	CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押して再起動する。

次のページにつづく

症状	原因／対策
PCカードが使えない。	Windows 98対応でないPCカードは使えないことがあります。
フロントライトユニットが点灯しない。	本機に正しく取り付けられているか確認してください（58ページ）。
「Smart Capture」や「Smart Write」、「Smart Label」で音声が録音できない。	録音デバイスとしてマイクが選択されていない可能性があります。 **1** ディスプレイ画面右下のタスクバーのをダブルクリックする。 **2**［オプション］メニューから［プロパティ］を選ぶ。 **3**「音量の調整」の［録音］と「表示するコントロール」の［Microphone］をチェックし、［OK］をクリックする。 **4**「Microphone」の［選択］がチェックされていることを確認する。 チェックされていないときは、クリックしてチェックします。
「Smart Write」や「Smart Label」が起動しない。	共有ライブラリが壊れている可能性があります。「プロダクト リカバリ CD-ROM Vol. 2 of 3」の¥VAIO¥Applications¥Sony Shared Library¥disk1¥setup.exeを実行して再インストールします。
使用中のソフトウェアの画面下部が切れてしまう。	ソフトウェアによっては、画面モードが1024x480ドットで設定されていると、画面下部が切れてしまう場合があります。その際は、あらかじめ、画面領域を800x600ドットまたは1024x768ドットに設定を変更してからご使用ください。画面領域を変更する手順について詳しくは、「ディスプレイの設定を変更する」（142ページ）をご覧ください。
プリンタで印刷できない。	• プリンタケーブルが正しい順序で接続されているか確認する。（116ページ） • Windows 98対応のプリンタドライバをお使いください。 • 印刷先のポートが正しく設定されているか確認する。詳しくは、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧いただくか、プリンタの製造元にお問い合わせください。 • 赤外線通信機能を持つプリンタを使っているときは、赤外線通信ポートどうしが向かい合っているか確認し、「赤外線を使用可能」になっていることを確認する。

症状	原因／対策
内蔵モデムからダイヤルできない。	• お使いの電話回線がトーン式ダイヤルかパルス式ダイヤルかを確認し、モデムのダイヤル方法を確認する。（103ページ） • 電話回線のコンセントに直接テレホンコードを接続しているか確認する。テレホンコードが長すぎないか、電話機の子機に接続していないか確認する。（104ページ） • テレホンコードを「カチッ」と音がするまでモジュラジャックに差し込む。（104ページ） • 3分以内に3回以上同じところにダイヤルした場合はリダイヤル規制がかかり、連続してダイヤルすることができません。3分以上時間をおいてからリダイヤルしてください。 • 「モデムの設定」（190ページ）をご覧ください。
モデムはダイヤルしているが、接続できない。	「ダイヤルの設定」（190ページ）をご覧ください。
インターネットに接続できない。	• ディスプレイ画面上の［インターネットに接続］アイコンをダブルクリックして設定を確認する。 • インターネット接続について詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。
DV機器が使用できない。または、「DV機器が接続されていないか、電源が入っていないので、動作しません。」などのメッセージが表示される。	• DV機器の電源が入っているか、またはケーブルが正しく接続されているか確認する。 • i.LINKでは、複数の機器を接続して動くように設計されていますが、機器との組み合わせによっては、動作が不安定になることがあります。接続されている機器全ての電源をいったん切り、なるべく不要な機器を取り外して、ケーブルの接続を確認した後、再度電源を入れてください。
本機に接続されたi.LINK対応機器が認識されない。または、「DV機器が接続されていないか、電源が入っていないので、動作しません。」などのメッセージが表示される。	いったんi.LINKケーブルを抜き、再度接続し直してください。

次のページにつづく

症状	原因／対策
ハンディGPSレシーバーの電源が入らない。	電池が正しく入っているか確認してください（64ページ）。
ハンディGPSレシーバーのGPSランプが緑色で点灯しない。	室内やトンネル内などではGPS衛星からの電波を受信できないため、GPS機能を使うことはできません。屋外でなるべく周囲に建物などの遮蔽物がない場所でお使いください。
「Navin' You」や「CyberGyro」、「Sony Handy GPS Setup」からハンディGPSレシーバーを操作しようとしても、ハンディGPSレシーバーの電源が入らない。	付属のハンディGPS接続ケーブルが正しく接続されていることを確認してください（66ページ）。

モデムの設定

モデムがWindowsに正しく認識されているか確認します。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

2 **［モデム］アイコンをダブルクリックする。**

3 **［検出結果］タブをクリックする。**

4 ［COM1］**を選択し、［詳細情報］をクリックする。**

［詳細情報...］ダイアログボックスが表示されたら、モデムは正しく認識されています。

正しく認識されていないときは

次の点を確認してください。

- COMポートのリソース（IRQなど）が他のデバイスと競合していないか確認します。
「システムのプロパティ」の［デバイスマネージャ］で、デバイスのアイコンに「！」がついているものは、他のデバイスと競合を起こしています。
- モデムの設定をいったん削除し、もう1度組み込み直します。
「システムのプロパティ」の［デバイスマネージャ］で、［モデム］の中の［Conexant HCF V90 56K Data Fax RTAD PCI Modem］を削除します。
Windowsを再起動するとモデムが検出され、対応するドライバが自動的に組み込まれます。

ダイヤルの設定

うまく接続できないときは、以下の項目を確認してください。

ケーブルの接続を確認する

「発信音が聞こえません」や「ダイヤル先のコンピュータが応答しません」といったメッセージが表示されたときは、テレホンコードの接続を確認します。本体側のモジュラジャックと壁側のモジュラジャックの接続を確認します。
予備のテレホンコードがあれば、コードを交換して試してみます。

接続速度を遅くしてみる

電話回線の状態がよくないときには、接続速度を遅くするとうまく接続できる場合があります。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

2 **［モデム］アイコンをダブルクリックする。**

3 ［Conexant HCF V90 56K Data Fax RTAD PCI Modem］**を選択し、［プロパティ］をクリックする。**

4 **［最高速度］に遅めの数値（標準は**115200**）を選ぶ。**

5 **少しずつ数値を小さくして試す。**

ダイヤルトーンを検出しないようにする

ダイヤルトーン（受話器を上げたときの「ツー」という音）の検出に失敗してダイヤルできないときは、ダイヤルトーンを検出しないようにします。

1 ［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

2 ［モデム］をダブルクリックする。

3 ［全般］タブに表示されているモデムから使用したいモデムを選択し、［プロパティ］をクリックする。

4 ［接続］タブをクリックし、［トーンを待ってからダイヤルする］のチェックをはずす。

5 ［OK］をクリックする。

6 「モデムのプロパティ」の［閉じる］をクリックする。

接続中の動作が長く続くとき

接続中の動作が長く続き、接続が完了しないときは、いったん回線を切断してかけ直します。高い通信速度で接続する場合、まれに接続に失敗して接続確認からの動作が終わらなくなることがあります。

ダイヤルアップネットワークやプロトコルの設定を確認する

「ダイヤル先のコンピュータから切断されました。接続のアイコンをダブルクリックして、やり直してみてください。」や「ダイヤル先のコンピュータは、ダイヤルアップネットワーク接続を確立できません。パスワードを確認してから、やり直してみてください。」といったメッセージが表示されたときは、プロバイダやネットワークに接続するための設定を確認します。

設定などに問題がなかった場合は、ダイヤルアップネットワークとプロトコルを組み込み直してください。

ダイヤルアップネットワークの設定の確認

1 ［マイコンピュータ］をダブルクリックし、［ダイヤルアップネットワーク］をダブルクリックする。

2 接続先のアイコンを右クリックし、［プロパティ］をクリックする。

3 契約しているプロバイダから提供された資料に従って設定を確認する。

特に、次の点を重点的に確認してください。

- ［全般］タブの「電話番号」の設定（ISDN用の回線が別番号になっていることもあります）
- ［サーバーの種類］タブの設定
- ［サーバーの種類］タブの［TCP/IP設定］ボタンでの設定

プロトコルの設定の確認

1 **[スタート] ボタンをクリックし、[設定] にポインタを合わせ、[コントロールパネル] をクリックする。**

2 **[ネットワーク] アイコンをダブルクリックする。**

3 **契約しているプロバイダから提供された資料に従って設定を確認する。**

特に、次の点を重点的に確認してください。

- [現在のネットワークコンポーネント] に組み込まれているコンポーネント
- 各コンポーネントのプロパティの設定

BIOSの初期化

本機の電源を切り、以下の手順でBIOSの初期化を行います。
フロッピーディスクドライブやPCカードなどは本機から取りはずしておいてください。

1 **本機の電源を入れ直し、**SONY**のロゴマークが表示されている間に、**F2**キーを押す。**

BIOSセットアップメニューが起動します。

2 **→キーで** [Exit] **を選び、↓キーで** [Get Default Values] **を選び、**Enter**キーを押す。**

「Load default configuration now?」と表示されます。

3 [Yes] **が選ばれていることを確認してから、**Enter**キーを押す。**

[No] が選ばれているときは←キーで [Yes] を選び、Enterキーを押します。

4 **「**Exit(Save Changes)**」を選び、**Enter**キーを押す。**

「Save configuration changes and exit now?」と表示されます。

5 [Yes] **が選ばれていることを確認してから、**Enter**キーを押す。**

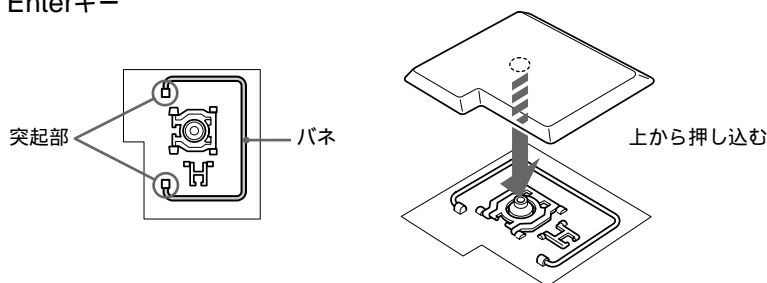
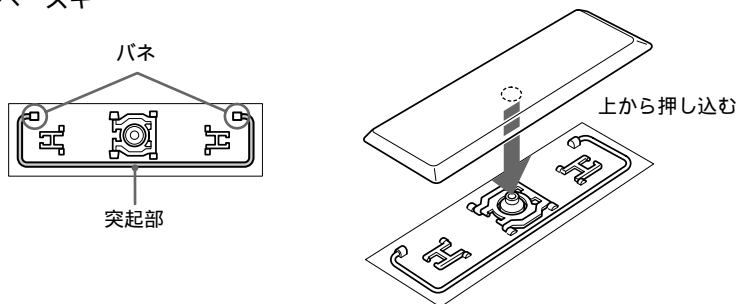
[No] が選ばれているときは←キーで [Yes] を選び、Enterキーを押します。
本機が再起動します。

キートップがはずれてしまったら

Enterキーとスペースキーは以下の図に従って取り付けてください。その他のキートップがはずれたときは、元の位置に戻してカチッと音がするまで上から押し込んでください。

キートップの取り付けかた

キートップから針金のバネを取りはずして、突起部にひっかけ、キートップの中心を合わせてカチッと音がするまで上から押し込む。

Enter**キー**

スペースキー

ご注意

- キートップを故意にはずさないでください。故障の原因となります。
- 取り付けるときに無理に力を加えると破損の原因となります。取り扱いには充分ご注意ください。

索引

五十音順

ア行

カ行

サ行

タ行

次のページにつづく

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

ワ行

アルファベット順

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象商品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっております。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

Sony online　http://www.world.sony.com/

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35

使い方のご相談、技術的なお問い合わせは

VAIOカスタマーリンクへ

● 0466-30-3000

カスタマー登録、一般的なお問い合わせは

VAIOカスタマー専用デスクへ

● 03-3584-6651

VAIOホームページ

VAIOを楽しく使っていただくための情報をご案内します。

● http://www.vaio.sony.co.jp/

VAIOカスタマーリンク ホームページ

VAIOの最新サポート情報をご案内します。

● http://vcl.vaio.sony.co.jp/

お電話の前に、必ず付属の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。